

第十條 諸件ニ關シテサレコトヲ證明シ或修習ノ日數ヲ記入シタル願書ヲ區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ヲ經由シテ控訴院長ニ差出スヘシ

第十一條 區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ前項ノ願書ニ意見ヲ付スヘシ

第十二條 控訴院長ハ書類ヲ調査シ試驗ノ許否ヲ定ムヘシ

第十三條 試驗ハ地方裁判所ニ於テ毎年一回之ヲ行フ

第十四條 試驗委員長及試驗委員ハ地方裁判所及區裁判所ノ判事檢事ノ中ヨリ試驗舉行毎ニ司法大臣之ヲ命ス

第十五條 控訴院長ハ試驗ヲ受ケキ修習者ノ名簿ヲ試驗委員長ニ送付ス

第十六條 前項ノ送付アリタルトキハ試驗委員長ハ試驗期日ヲ定メ之ヲ修習者ニ告知スヘシ

第十七條 口述試驗ハ筆記試驗ニ及第シタル者ニ之ヲ行フ

第十八條 第一 民事訴訟法及治罪法ノ中書類送達及執行ニ關ル規程

第二 執達吏ニ關ル諸規則

第三 算術(加減乘除分數比例)

第十四條 讀書筆寫

第十五條 筆記試驗問題ノ答案ハ裁判所ノ官吏監督シテ之ヲ作ラシメ試驗委員長ハ受験者ノ申立アルトキハ區裁判ニ於テ筆記試驗問題ノ答案ヲ作ラシムルコトヲ得

第十六條 受験者ノ及第者ハ及第者ノ優劣ハ筆記試驗口述試驗ノ成績ニ對スル委員過半數ノ意見ニ從テ之ヲ決ス

第十七條 及第者第二付テノ意見相半スルトキハ落第ト看做スヘシ

第十八條 試驗ニ及第シタル者ニハ試驗委員長及試驗委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス

第十九條 試驗ニ落第シタル者ハ更ニ三箇月以上修習ヲ爲スニ非サレハ再ヒ試驗ヲ受クルコトヲ得

第二十條 不正ノ方法ヲ以テ及第者ト爲ル者ハ再ヒ試驗ヲ受ケルコトヲ得ス其及第シタル者ハ及第ノ效ナキモノトス

第二十一條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第二十二條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第二十三條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第二十四條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第二十五條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第二十六條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第二十七條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第二十八條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第二十九條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第三十條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第三十一條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第三十二條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第三十三條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第三十四條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第三十五條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第三十六條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第三十七條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第三十八條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第三十九條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第四十條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第四十一條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第四十二條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第四十三條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第四十四條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第四十五條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第四十六條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第四十七條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第四十八條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第四十九條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第五十條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第五十一條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第五十二條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第五十三條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第五十四條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第五十五條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第五十六條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第五十七條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第五十八條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第五十九條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第六十條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第六十一條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第六十二條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第六十三條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第六十四條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第六十五條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第六十六條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第六十七條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第六十八條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第六十九條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第七十條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第七十一條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第七十二條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第七十三條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第七十四條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第七十五條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第七十六條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第七十七條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第七十八條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第七十九條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第八十條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第八十一條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第八十二條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第八十三條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第八十四條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第八十五條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第八十六條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第八十七條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第八十八條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第八十九條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第九十條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第九十一條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第九十二條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第九十三條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第九十四條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第九十五條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第九十六條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第九十七條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第九十八條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第九十九條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第一百條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

區裁判所書記ハ職務修習ヲ要セス執達吏ニ任セラルルコトヲ得(明治二十四年司法省令第六號)
 以テ本項ヲ追加ス(明治二十四年司法省令第六號)
 第二十二條 試驗及第者及第二十條ニ掲ケタル者ニシテ職務修習ヲ終ラズル者並ニ區裁判所書記
 ヨリ轉任スル者ノ任補ハ執達吏ノ缺員アルヲ待テ控訴院長之ヲ攝行ス(同上法令ニテ本條改正)
 第二十三條 執達吏ニ任セラルル者ハ任補日ヨリ三十日以内ニ保證金ヲ管轄地方裁判所ニ納ム
 之若シ其期間内ニ保證書ヲ差出ササルコトキハ職務ヲ罷免ス
 保證金ハ五百圓以下若シテ土地ノ情況ニ從ヒ控訴院長之ヲ定ム
 保證金ハ相當ノ價格ヲ以テ公債證書日本勸業銀行發行勸業債券及貯蓄債券日本興業銀行發行債券
 若シ日本銀行株券ヲ以テ之ニ代メルコトヲ得(三十七年二月司法省令第三號及三十九年四月同省令
 第四號ヲ以テ本項ヲ改ム)
 第二十四條 執達吏保證金ヲ納メタルトキハ裁判所ハ官印ヲ交付スルコトヲ得
 執達吏ハ官印ヲ交付ヲ得タル後非テ職務ヲ行フコトヲ得ス
 附則
 第二十五條 本則實施ノ際ハ職務修習ヲ要セス試驗及任補ヲ行フコトヲ得

執達吏手数料規則

(明治二十三年七月法律第五十二號)
 朕執達吏手数料規則ヲ裁可シ之ヲ公布シム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコ
 トヲ命ス

執達吏手数料規則

第一條 執達吏ハ此規則ニ從ヒ手数料ヲ受ク
 第二條 書類送達ノ手数料ハ一通ニ付五錢トス
 第三條 有體動産及未タ土地ヨリ離レサル果實或爲替證券其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證
 券ノ差押假差押ニ付テノ手数料ハ左ノ區別ニ從フ

執行スヘキ債權額

參拾錢

五拾圓マテ

七拾五錢

壹圓

壹圓貳拾五錢

壹圓五拾錢

貳拾圓マテ

參拾錢

五拾圓マテ

七拾五錢

壹圓

壹圓貳拾五錢

壹圓五拾錢

第四條 執達吏ハ此規則ニ從ヒ手数料ヲ受ク
 第五條 民事訴訟法第五百五十六條第二項、第五百八十六條第二項、第六百十五條ノ場合及既ニ
 差押、假差押ニ著手シタル執達吏ノ死亡若シテ其他ノ理由ニ依リ委任ノ消滅シタルトキ物ヲ換

假スル爲其委任ヲ引受ケタル場合ニ於テハ執達吏ノ第三條ニ定メタル手数料ノ半額ヲ受ケル
 第六條 特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ債務者ヨリ取上テ之ヲ債權者ニ引渡ス場合ニ於テ
 ハ其手数料ヲ五拾錢トス若シ執務一時間以上ニ渉ルトキハ一時間毎ニ拾五錢ヲ加フ但其執務一
 時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス
 前項ノ場合ニ於テ執達吏其場所ニ臨ムト雖引渡スヘキ物ヲキトキテ前項ニ定メタル手数料ノ半
 額ヲ受ク
 第七條 民事訴訟法第七百三十一條第一項ノ場合ニ於テハ執務三時間以内ハ手数料ヲ五拾錢トス
 若シ其執務三時間以上ニ渉ルトキハ一時間毎ニ拾五錢ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時
 間ト看做シテ算定ス
 前項ノ場合ニ於テ執達吏其場所ニ臨ムト雖船舶アラサルトキハ前項ニ定メタル手数料ノ半額ヲ
 受ク

第八條 民事訴訟法第六百四十三條第三項ニ依リ不動産ノ取調ヲ爲ス場合ニ於テハ第三條ニ定メ
 タル區別ニ從テ其手数料ヲ受ク

第九條 動産、不動産及船舶ノ競賣ニ付テノ手数料ハ左ノ區別ニ從テ但競賣ニ依リ得タル金額執
 行ノキ債權額ニ超過スルヲキハ其債權額ヲ以テ競賣金額ト看做ス

競賣金額
 一 五百圓以下ニテハ 六拾錢
 二 五百圓以上一仟圓以下ニテハ 一圓
 三 一仟圓以上一萬圓以下ニテハ 一圓五拾錢
 四 一萬圓以上ニテハ 二圓

以上千圓毎ニ壹圓ヲ加フ

任意競賣ニ付テモ亦前項ニ同シ

第十條 執達吏執行行為ヲ爲スヘキ場所ニ臨マサル以前ニ民事訴訟法第五百五十條ニ依リ又ハ委
 任ノ消滅ニ依リ強制執行ヲ止メタルトキ又ハ支拂若クハ引渡ニ依リ強制執行ノ委任終了シタル
 トキハ各本條ニ定メタル手数料ノ十分ノ三ヲ受ク但第九條ノ場合ニ於テハ其手数料ヲ三拾錢ト
 ス

第十一條 執達吏執行行為ヲ爲スヘキ場所ニ臨ミタル後民事訴訟法第五百五十條ニ依リ又ハ委任
 ノ消滅ニ依リ強制執行ヲ止メタルトキ又ハ支拂若クハ引渡ニ依リ強制執行ノ委任終了シタルト
 キハ各本條ニ定メタル手数料ノ半額ヲ受ク但第九條ノ場合ニ於テハ其手数料ヲ五拾錢トス

第十二條 第三條乃至第十一條ノ手数料ヲ受クヘキ行為ニハ強制執行ノ場合ニ於ケル左ノ行為ヲ
 包含ス
 第一 警察上ノ援助ヲ求メ又ハ證人鑑定人ノ立會ヲ爲サシムルコト
 第二 執行行為ニ關スル備告其他ノ通知ヲ爲シ又ハ書類ノ送達ヲ爲スコト
 第三 記名證券ヲ買主ノ氏名ニ書換ヘ及必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲スコト
 第四 支拂其他ノ給付、差押金錢及競却金ヲ受取リ交付シ若クハ供託シ又ハ受取證書ヲ交付シ
 又ハ差押物ヲ還付スルコト

第五 競賣ノ公告ヲ爲スコト

第十三條 執達吏ハ立替金トシテ左ノ費用ノ辨濟ヲ受ク

第一 書記料

第二 郵便料、電信料

第三 公告料

第四 證人、鑑定人ノ手當

第五 職工、役天ノ手當

第六 有價證券ノ記名書換及流通ヲ止メタル證券ノ流通ヲ回復スル爲メノ費用

第七 人及物ノ送致費用

第八 物ノ保存或監視ノ費用

第九 果實收穫ノ費用

第十 旅費

第十四條 前條ノ書記料ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ受ク

第一 法律ニ依リ又ハ利害關係人ノ求ニ依リ證書及記録中ニ存スル書類ノ謄本ヲ作リタルトキ

第二 供託ヲ爲スニ際シ執行裁判所ニ差出スヘキ屆書ヲ作リタルトキ

第三 差押命令ノ送達後第三債務者ノ爲ス陳述ヲ筆記シタルトキ

第十五條 強制執行ニ關セサル告知及催告ヲ爲ストキハ其手数料拾錢ヲ受ク

第十六條 執達吏拒證書ヲ作リタルトキハ手数料拾錢ヲ受ク

拒者ノ營業場又ハ住居ノ間合ヲ爲シ拒證書ヲ作リタルトキハ手数料貳拾錢ヲ受ク

第十七條 證人ニ支給スヘキ日當ハ貳拾錢以下鑑定人ニ支給スヘキ日當ハ五拾錢以下シテ執達吏

土地ノ情況ニ從ヒ之ヲ支給ス若シ一里以上ノ地ヨリ呼出シタルトキハ第十八條ノ規定ニ從ヒ旅

費ヲ支給ス

第十八條 執達吏自己ノ役場ヨリ一里以上ノ地ニ至リ職務ヲ行フトキハ一里毎ニ拾錢以下ノ旅費

ヲ受ク但一里ニ滿タサルモ一里ト看做シテ算定ス

第十九條 執達吏ハ總テノ事務ヲ擔任スルニ當リ手数料及立替金ノ概算額ヲ委任者ヨリ豫納モシ

ム若シ豫納セサルトキハ委任ニ應セサルコトヲ得但裁判所及檢事局ノ命令ニ依ルトキ又ハ訴訟

上ノ救助ヲ受ケタル者ノ爲ニ事務ヲ擔任スルトキハ此限ニ在ラス

第二十條 執達吏ハ委任ノ終了シタル後手数料及立替金ノ辨濟ヲ受クヘキモノトス但民事訴訟法

第五百五十四條ニ規定シタル場合ハ此限ニ在ラス

第二十一條 執達吏裁判所及檢事局ノ命令ニ依リ其職務ヲ行フ爲ニ要シタル立替金ハ三箇月毎ニ

確定シテ之ヲ支給ス

右立替金ハ國庫ヨリ之ヲ支辨ス

第二十二條 訴訟上ノ救助ヲ付與シタル場合ニ於テハ執達吏ノ立替金ハ國庫ヨリ支辨ス但債務者

ヨリ辨濟シ能ハサル場合ニ限ル

第二十三條 執達吏ハ其職務執行ニ付作リタル書類ノ正本又ハ謄本手数料及立替金ノ額ヲ附記ス

ハシ又執務時間ニ應シ其辨濟ヲ受クヘキトキハ調書ニ其執務時間ヲ附記スヘシ若シ之ヲ附記セサルトキハ最短ノ時間ニ付テ定メタル金額ヲ以テ算定ス

執達吏代理鑑札調製方 (明治二十三年九月司法省訓令第三號)

執達吏規則第十四條ニ依リ區裁判所ヨリ交付スヘキ鑑札ハ左ノ通り調製スヘシ (雛形略ス)

臺灣總督府法院執達規則 (明治三十一年六月律令第七號)

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣總督府法院執達規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

臺灣總督府法院執達規則 第一條 訴訟ニ關スル書類ノ送達及裁判ノ執行又ハ強制執行ニ關セサル告知及催告ハ法院書記ヲシテ取扱ハシム但法院長ハ臨時ノ必要ニ依リ他ノ職員又ハ適當ト思量スル者ヲシテ取扱ハシム

ルニトテ得(明治三十六年十二月律令第十號ヲ以テ本項中改正)

前項ノ職務ヲ執行スル者ハ法院長ヨリ交付シタル證票ヲ携帶スルモノトス

第二條 書類送達ノ手数料ハ一通ニ付金五錢ヲ納ムヘシ 第三條 差押又ハ假差押ヲ請求スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ 若執務三時間以上ニ涉ルトキハ一時間毎ニ本條ニ定メタル手数料十分ノ三ヲ加フ但其執務一時

間ニ滿タサルモノ一時間ト看做シテ算定ス(同上法令ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第十執行スルモ債權額ノ手續料

貳拾圓マテ 參拾錢

五拾圓マテ 五拾錢

百圓マテ 七拾五錢

貳百五拾圓マテ 壹圓

五百圓マテ 壹圓貳拾五錢

千圓マテ 壹圓五拾錢

千圓ヲ超ユルトキハ貳圓トス

第四條 特定ノ動産若ハ代替物ノ一定ノ數量ノ引渡又ハ不動産ノ引渡若ハ明渡ヲ請求スル者ハ金五十錢ノ手数料ヲ納ムヘシ若執務三時間以上ニ涉ルトキハ一時間毎ニ金十五錢ヲ加フ但其執務一時間ヲ滿タセザルモノ一時間ト看做シテ算定ス(同上法令ヲ以テ本條中ニ追加ヲ施ス)

第五條 手續費ヲ請求スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ但競賣ニ依リ得タル金額執行スヘキ債權額ニ超過スル者ハ其債權額ヲ以テ競賣金額ト看做ス(同上法令ヲ以テ本條中ニ追加ヲ施ス)

競賣金額 六拾錢

貳拾圓マテ 壹圓

五拾圓マテ 壹圓貳拾五錢

百圓マテ 壹圓五拾錢

貳百五拾圓マテ 貳圓

五百圓マテ 貳圓五拾錢

千圓マテ 肆圓

以上千圓毎ニ壹圓ヲ加フ
第五條ノ二ニ強制執行ニ關セサル告知及催告ヲ請求スル者ハ其ノ手数料金十錢ヲ納ムヘシ(同上法令ヲ以テ本條ヲ加フ)

第六條 地方法院所在地ヨリ一里以上ノ地ニ至リ前數條ノ事務ヲ行フトキハ手数料ノ外一里ニ付金十錢ノ旅費ヲ納ムヘシ但一里ニ滿タサルモ一里ト看做シテ算定ス(同上法令ヲ以テ本條ヲ改ム)

通譯ノ同行ヲ要シタルトキハ其ノ里數ニ應シ前項ノ例ニ依リ旅費ヲ納ムヘシ

第七條 差押、假差押、競買、調書ノ謄本又ハ其他ノ書類ノ謄本ノ下付ヲ請求スル者ハ左ノ割合ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ

一 半枚十二行二十字詰ニ付金三錢トス但十二行ニ滿タサルモノモ亦同シ

第八條 此規則ニ定メサル必要ノ費用ハ其實費ヲ納ムヘシ

第九條 法院ハ第二條第五條第六條第八條ノ費用ノ概算額ヲ當事者ヨリ豫納セシムルコトヲ得

臺灣總督府法院執達規則施行細則

(明治三十一年六月臺灣總督府令第三十七號)

臺灣總督府法院執達規則施行細則左ノ通相定ム

臺灣總督府法院執達規則施行細則

第一條 此規則ニ於テ執達者ト稱スルハ臺灣總督府法院執達規則第一條ニ依リ訴訟ニ關スル書類

ノ送達及裁判ノ執行ヲ爲ス者又事件主任官ト稱スルハ判官又ハ檢察官ニシテ職務上執達者ニ對シ事務ヲ命ジタル者ヲ云フ

第二條 執達者ハ其職務ニ付事件主任官ノ指揮監督ヲ受クヘシ

第三條 執達者ハ職務執行ノ際其攜帶ノ證票ヲ示スヘシ

證票ハ第一號雛形ニ依ル

第四條 執達者ハ第二號書式送達職務簿及第三號書式執行職務簿ヲ備ヘ職務上取扱タル總テノ事務ヲ記載スヘシ

職務簿ハ執達者各自ニ設ケス種別毎ニ一冊ト爲シ毎年更新スヘシ但毎月若ハ數月ニ區別シテ分冊スルモ妨ナシ

第五條 送達ハ送達スルキ書類ノ正本又ハ認證シタル謄本又ハ普通ノ謄本ヲ交付シ其送達施行濟ノ旨ヲ送達證書ニ記載スヘシ

第六條 一執達者送達ヲ受クルキ人ニ出會ハス且送達ヲ爲スヘキ場所ニ於テモ之ヲ受クヘキ者アラザルトキハ書類其地ノ街庄社長ニ預ク置ケヘシ

預項ノ場合ニ於テ附近隣ニ住居スル者二人ニ書類ヲ預ク置キタル場所ヲ告ケ且其旨ヲ本人ニ速力ニ通知スルキ旨ヲ囑託スヘシ又本人住居ノ門戸ニ書類ヲ預ク置キタル場所或書類ヲ速力ニ受取ルヘキ旨ヲ明記シタル告知書ヲ貼付スヘシ

第七條 送達ヲ受クヘキ者ハ正當手續ヲ經テ送達ヲ爲ス場合ニ於テ之ヲ受取拒ムコトヲ得ザルモ

以下ノ若シ此場合ニ於テ送達ノ受取ヲ拒ムトキハ執達者ハ交付スヘキ書類ヲ送達ノ場所ニ差置

クヘシ

第八條 執達者ハ債務者ニ對シ任意債務ヲ履行シテ完結スヘキ旨ヲ催告シ尙之二從ハサルトキニ於テ強制執行ニ着手スヘシ

第九條 執達者ハ總テノ執行行為ニ付調査ヲ作ルヘキモソトス此調査ハ總テノ命令ヲ記載シ債權者ヲ満足セシムルコト能ハサルトキハ總テ適法ナル方法ニ依リ債權者ヲ満足セシムヘキコトヲ試ミタルモ其目的ヲ達セサルシヨトモ夫調査ニ於テ明確ニシテ要スル證據ヲ得ズルニ至リテ調査ハ執行行為ト同時ニ之ヲ作リ且成ルベク其行為ヲ爲シタル地ニ於テ之ヲ作ルヘシ本人ニ對シ各執行行為ノ調査ハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 調査書ヲ作リタル場所ノ年月日

第二 執行行為ノ目的物及其重要ナル事情ノ略記

第三 執行ニ與カラル各人ノ表示

第四 右各人ノ署名捺印

第五 調査書ヲ其各人ニ認閱セ又ハ閱覽セシメ其承諾ノ後署名捺印ヲ爲シタルコトヲ關示ス

第六 執達者ノ署名捺印

第四號及第五號ノ要件ヲ具備スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ記載スルニ依リ其各物件ニ付概算ノ價額ヲ記入シ且差押物件ノ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟シ及強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ額ヲ標準トシテ差押ノ範圍ヲ定ムルコトヲ要ス

第十一條 強制執行ニ依リ差押フヘキ財産ノ價額強制執行ノ費用ヲ償ヒテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ差押ヲ爲スハカラズ

第十二條 執達者ハ適當ノ差押ヲ避ケル爲差押物件ヲ調査ニ記載スルニ當リ其各物件ニ付概算ノ價額ヲ記入シ且差押物件ノ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟シ及強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ額ヲ標準トシテ差押ノ範圍ヲ定ムルコトヲ要ス

債權者ノ利益ヲ損傷スル恐キトモハ債務者ノ陳述ヲ斟酌シ債務者ニ於テ最放手易キ財産中殊ニ金錢、有價證券及金銀物等ノ如キ容易ニ運搬シ得ヘキ物件ニ付差押ヲ爲スヘシ

第十三條 第三者ノ占有中ニ在ル債務者ニ屬スル物件ノ差押ヲ爲スニハ執達者ハ先ツ第三者ニ對シテ其物件ヲ直ニ引渡シ得ルコトヲ訊問スヘシ

第三者之ヲ承諾スルトキハ債務者ノ占有スル物件ヲ差押スルト同一ノ方法ヲ以テ差押ヲ爲スヘシ

第三者物件ノ提出ヲ拒ミ又ハ執達者カ之ヲ占有スルニ付異議ヲ述ブルトキハ執達者ハ其事實ノ調査ヲ作ルニ止リ其後ハ處分ハ債權者本人ニ任ズヘシ

債權者ノ占有中ニ在ル債務者ニ屬スル物件ノ差押ヲ爲スニハ執達者ハ通常ノ手續ニ依リ直ニ差押ヲ爲スヘシ

第十四條 債權者又ハ第三者ノ占有中ニ在ル物件ヲ差押ヘタルトキハ執達者ハ差押ヲ爲シタル旨ヲ債權者ニ通知スヘシ

第十五條 執達者執行行為ニヨリ金錢、有價證券、書類及物品等ヲ領收シタルトキ其領收證ヲ求ムル者ニ對シテ之ヲ交付スヘシ

第十六條 執達者ハ差押ヘタル物件ニシテ金額ノ費用ヲ要スルニアラサレハ運搬シ難キカ又ハ差押物件ノ性質若ハ他ノ理由ニ依リ保存ヲ委託スルハ便宜ナク且其差押ヲ爲シタル土地ニ住居シテ信用ヲ失且辨償能力アル者ニ託シテ保存ヲ爲サシムヘシ

保存ヲ委託セタル者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

委託ヲ受ケタル者ハ其求ニ依リ委託物件ノ目錄ヲ領收ス其保存ニ關スル報酬ハ成ルヘク前以テ

之者定ムヘシ

執達者ハ保存人爲委託シタル物件並其目錄ヲ確收シタル旨ノ證書ヲ保存人ヨリ受取り又保存人

ニ求メ依リ該證書ノ原本ヲ交付スヘシ

必要ナル場合ニ於テハ保存委託ニ關スル證書ヲ作リ之ヲ差押證書ニ添付スルモ可ス

此證書ニ左ノ諸件ヲ掲グ且保存人ニ署名捺印セシムヘシ

第一 保存人ニ爲シタル約款

第二 物件ヲ交付ニ關スル保存ノ認許

第三 保存人爲交付シタル物件

第十七條 執達者ハ債權者ノ承諾アルガ又ハ差押物件運搬ヲ爲スニ付重大ナル困難アルニ依リ之

ヲ債務者ノ保管ニ任ストキハ左ノ規定ニ從フヘシ

第一 差押物件ノ性質其他ノ事情ニ從ヒ各差押物件毎々ハ其物件ノ存在スル箇匣、室、倉庫等

ニ封印又ハ其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ但箇匣、室、倉庫ノミニ封印スル場合

ニ於テハ其封印又ハ箇匣等ヲ損傷スルニアラサレハ其差押物件ヲ取出シ得サルコトニ注

意スヘシ

第二 執達者ハ差押物件ノ占有既ニ執達者ニ歸シタルコト及債務者其物件ヲ處分シ若ハ封印

ヲ破壊スルトキハ法律上ノ罰ヲ受クヘキコトヲ債務者ニ諭示スヘシ

第十八條 不動産ノ差押又ハ差押物件ノ性質ニ依リ封印若ハ標目ヲ附シ得サル場合ニ於テハ執達

者ノ署名シタル告示ヲ差押物件ニ接近スル各人ノ見易キ場所ニ貼付シ又ハ他ノ適當ナル方法ヲ

以テ各人ニ之ヲ知ラシムヘキモノトス此場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ其管理人ヲ命スヘシ

第十九條 執達者差押ニ付作ルヘキ證書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲グヘシ

第一 各差押物件並其概算價額又必要ナル場合ニ於テハ員數尺度重量等

第二 執達者差押物件ヲ占有シタルコト

第三 保存ヲ委託シ又ハ管理人ヲ命シタル際爲シタル處分

第四 差押物件ヲ債務者ノ保管ニ任セタルトキハ其理由

第五 競賣期日ノ日時及場所若シ此期日ヲ直ニ定ムルコトヲ得サルトキハ其理由

第二十條 執行行爲ニ依リ領收シタル現金ヲ保管スルトキハ執達者ハ書式第四號保管金品受渡簿

ニ登記シ事件主任官ノ照査認印ヲ受ケ現金ト共ニ歳入歳出外現金出納官吏ニ送付スヘシ

第二十一條 執行行爲ニ依リ領收シタル有價證券其他差押物件ヲ保管スルトキハ執達者ハ第四號

第二十二條 歳入歳出外現金出納官吏若ハ物品會計官吏ニ送付シタル前二條ノ現金又ハ物件ハ其

送付ヲ受ケタル官吏ノ保管ニ屬スルモノトス

第二十三條 執達者歳入歳出外現金出納官吏又ハ物品會計官吏ノ保管ニ係ル差押物件處分ノ必要

アルトキハ第四號書式保管金品受渡簿ニ其事由ヲ詳記シ事件主任官ノ認印ヲ受ケ其引渡ヲ請求

スヘシ

第二十四條 執達者差押物件ヲ留却スルトキハ競賣ノ方法ニ依ルヘシ但特別ノ場合ニ於テ競賣ノ

方法ニ依ラスシテ換價スルトキハ第二十九條ノ規定ニ從フヘシ

競賣ハ差押ヲ爲シタル地ニ於テ之ヲ爲スヘシ但差押債權者及債務者他ノ場所ニ於テ之ヲ爲スニ

トナ合意シタルトキ又ハ事件主任官ヨリ競賣ノ場所ヲ指定シタルトキハ其場所ニ於テ之ヲ爲ス

第二十五條 競賣期日ハ執達者差押ノ際直ニ之ヲ定ムルヲ例ニス若シ債權者及債務者後日二期日

ヲ定ムルコトヲ承諾シタル場合又ハ直ニ期日ヲ定ムル能ハサル特別ノ場合若ハ直ニ定ムルノ便

益ナラサル場合又ハ事件主任官ノ意見ヲ以テ他ノ換價方法ヲ命シ若ハ他ノ場所ニ於テ競賣ヲ命

シテ之ヲキル場合ニ於テ之ノ時期日ヲ指定シ換價ノ命シテ之ヲ命シ若ハ他ノ場所ニ於テ競賣ヲ命

シテ之ヲキル場合ニ於テ之ヲ定メタルトキ其期日ヲ債權者及債務者ニ通知ス

第二十六條 競賣ハ前以テ公告セサルヘカラス公告ハ其地ニ相應ノ方法ヲ以テ爲スヘシ

公告ニ於テ左ノ諸件ヲ掲クヘシ

第一 當事者ノ表示

第二 競賣スヘキ物件

第三 競賣ノ日時及場所

公告ヲ爲シタル方法日時及競賣調書ニ附記シ又ハ其證據トナルルキモノヲ添付シ以テ之ヲ明確

ニスルシ

第二十七條 競賣ニ付シタル物件ハ競賣調書ニ記入スヘシ

賣却物件ハ一々之ヲ呼上ケ賣却ヲ示スヘシ高價物ハ其評價金銀物ハ其實價有價證券ハ賣却日ノ

相場ヲ告テ競賣價額ハ其評價價額若ハ相場ヨリ低價ノ競賣ヲ許ササル旨ヲ諭示スヘシ

競賣ニ付スル物件ノ不相當ニ過分ナルコトヲ避ケルカ爲執達者ハ時々其賣得金ヲ以テ計算ヲ立

テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直ニ競賣ヲ止ムヘシ

競賣ニ付シタル金銀物ニシテ其金銀物ノ實價マテニ競賣ヲ爲ス者ナキカ爲競落シ得サルトキハ

其競賣實價額中ノ最高價額ヲ競賣調書ニ附記スヘシ

第二十八條 競賣ノ際作ルヘキ調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲クヘシ

第一 競賣ノ賣得金ヲ以テ辨濟スヘキ債權及強制執行ノ費用ノ合計額

第二 競賣物件及其各物件ノ評價價額又ハ相場

第三 競落人及其最高競賣價額並代金支拂濟ノコト

調書ニ署名捺印ヲ要スル者ハ競賣人中唯各最高價申出人ニ限ル若シ競賣終結前ニ退散シタルト

キハ其署名捺印ヲシムルコト能ハサル理由ヲ調書ニ附記スヘシ

第二十九條 差押物件ハ競賣ノ方法ニ依ラズシテ換價ノ場合ハ左ノ如シ

第一 事件主任官ヨリ競賣ノ方法ニ依ラズシテ換價ヲ爲スヘキコトヲ命シタルトキ

第二 有價證券ニシテ取引所相場又ハ市相場アルモノニ於テ換價ノ命シタルトキ

第三 金銀物ニシテ既ニ競賣ニ付シタルモ其最高競賣價額力其實價ニ至ラサルトキ

前項ノ場合ニ於テハ直接ニ債權者ニ差押物件ヲ爲スコトヲ得ニ

競賣ノ方法ニ依ラズシテ換價ヲ爲スヘキハ執達者ハ成ルヘク高價ニ賣却スヘキコトニ注意シ金

銀物ヲ其實價ヨリ低價ニ賣却シ又ハ有價證券ヲ其賣却日ノ相場ヨリ低價ニ賣却スヘキコトニ注意シ

第三十條 競賣方法ニ依ラズシテ換價スル場合ニ於テ作ルヘキ調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲クヘシ

第一 競賣ノ方法ニ依ラズシテ換價シタル理由

第二 賣却物件及其各物件ノ評價價額又ハ相場若ハ事件主任官ノ定メタル價額

第三 賣却物件及其各物件ノ評價價額又ハ相場若ハ事件主任官ノ定メタル價額

第三十條 競賣方法ニ依ラズシテ換價スル場合ニ於テ作ルヘキ調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲クヘシ

第一 競賣ノ方法ニ依ラズシテ換價シタル理由

第二 賣却物件及其各物件ノ評價價額又ハ相場若ハ事件主任官ノ定メタル價額

第三 賣却物件及其各物件ノ評價價額又ハ相場若ハ事件主任官ノ定メタル價額

第三 變却價額並代金支拂濟シコト

第三十一條 執達者ハ強制執行ニ依リ得タル金銀ニ關シ計算ヲ爲シ其結果ヲ書面ニ作リ事件主任官ノ認印ヲ受ケ之ヲ明確ニシ之ニ依リ仕拂若ハ還付等ノ手續ヲ爲スヘシ
前項處分方執行行爲ノ場所ニ於テ直ニ之ヲ爲スモノナルトモニ於テ事件主任官ノ認印ヲ受ケルコトヲ得サル場合ハ實施ノ後之ヲ追認ヲ受ケヘシ
仕拂若ハ還付ヲ爲シタル金銀ハ總テ受領證ヲ徴シ之ヲ明確ニシ計算書ト共ニ事件記録ニ添付スヘシ

第三十二條 執達者ハ強制執行完結後ニ至リ賣却セザリシ差押物件又ハ強制執行中法院ノ裁判若ハ債權者ノ免除ニ依リ差押ヲ解除シタル物件ヲ即時ニ債權者又ハ領收權利者ニ交付スヘシ

右交付シタル物件ニ付テハ執達者ハ債權者又ハ領收權利者ヲシテ受取證ヲ出サシメ之ヲ事件記録ニ添付スヘシ

第三十三條 特定動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡サシムヘキ強制執行ハ執達者其執行力アル債務名義中ニ包含シタル物件ヲ債權者ニ就キ索出シテ之ヲ取上ケ債權者ニ引渡スヲ以テ之ヲ爲スモノトス

前項ノ引渡ハ之ヲ取上ケタル後速カニ行フコトヲ要ス若シ直ニ之ヲ行フコト能ハサルトキハ債權者ノ申出アルマテ之ヲ保存スヘシ其保存ノ手續ハ差押物件ニ關スル規定ニ從フヘシ
右執行ニ付作ルヘキ調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲グヘシ

第一 債務者ヨリ取上ケタル特定動産又ハ代替物ノ箇數、度量及有價證券ニ係ルトキハ其券面額、番號、日附

第二 物件ヲ債權者又ハ其代理人ニ引渡シ若ハ輸送シタル旨又未タ之ヲ爲ササルトキハ其理由及其保存ノ方法

取上ケタル物件ヲ債權者ニ引渡シタルトキハ執達者ハ其受取證ヲ取リ置クヘシ

第三十四條 不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡サシムヘキ強制執行ハ執達者債務者ノ所有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシメ之ヲ爲スモノトス

此執行行爲ニ付テハ執達者ハ債權者又ハ其代理人ヲシテ立會セシメ且無益ノ日時ヲ費ササルコトニ注意スヘシ

執達者ハ住家明渡ノ際債務者ノ財産類即チ強制執行ノ目的物ニアラサル動産ハ之ヲ取除キテ債務者ニ引渡スヘシ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債權者ノ成長シタル家族若ハ雇人ニ之ヲ引渡スヘシ

債務者及前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執達者ハ該物件ヲ債權者ノ費用ニテ第十六條ノ規定ニ從ヒ保存スヘシ

保存シタル物件ヲ債權者ニ返還シタルトキハ執達者ハ其受取證ヲ取リ置クヘシ
債務者右ノ受取ヲ怠ルトキハ執達者ハ其事情ヲ具シテ事件主任官ノ許可ヲ得差押物件ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒ之ヲ賣却シ其費用ヲ控除シタル上其代金ヲ保管スヘシ

右執行ニ付作ルヘキ調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲グヘシ
第一 債權者又ハ其代理人ノ出頭シタルコト

第二 引渡シ又ハ明渡シタル者及其場所ニ現在スル附屬物、器具
第三 債務者ハ其物ノ占有ヲ解キ債權者又ハ其代理人之ヲ取得シタルコト

第四 債務者ノ動産ヲ保存シタルトキハ其理由、種類並其処分方法

第三十五條 假差押及假處分ニ關スル執行手續ハ通常ノ強制執行規定ヲ進用ス

第三十六條 罰金、科料、過料、刑事訴訟費用(私訴ハ費用ヲ除ク)及官沒金ノ類ニシテ滞納者アル

場合ニ於テ執達者ニ命シテ強制執行ニ依リ徵收セシムルトキハ左ノ手續ニ依ルヘシ

第一 各事件主任官ハ執達者ヘ交付スヘキ徵收命令書ヲ送付シテ納金ニ係ルモノハ

第二 歳入測定官前項命令書ノ送付ヲ受ケタルトキハ收入官吏ヲ經テ執達者ニ交付スヘシ

第三 執達者徵收命令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ

第四 納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ

第五 納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ

第六 納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ

第七 納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ

第八 納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ

第九 納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ

第十 納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ

第十一 納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ

第十二 納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ

第十三 納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ

第十四 納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ

第十五 納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ

第十六 納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ納金ニ係ルモノハ

第五編 辯護士

辯護士法

(明治二十六年三月法律第七號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル辯護士法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

辯護士法

第一章 辯護士ノ資格及職務

第一條 辯護士ハ當事者ノ委任ヲ受ケ又ハ裁判所ノ命令ニ從ヒ通常裁判所ニ於テ法律ニ定メタル

職務ヲ行フモノトス但シ特別法ニ因リ特別裁判所ニ於テ其ノ職務ヲ行フコトヲ妨ケス

第二條 辯護士タラムト欲スル者ハ左ノ條件ヲ具フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ニシテ民法上ノ能力ヲ有スル成年以上ノ男子タルコト

第二 辯護士試験規則ニ依リ試験ニ及第シタルコト

第三條 辯護士試験ニ關スル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第四條 左ニ掲グル者ハ試験ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ得

第一 判事檢察官タル資格ヲ有スル者又ハ辯護士ニシテ其ノ請求ニ因リ登録ヲ取消シタル者

第二 法律學ヲ修メタル法學博士、帝國大學法律科卒業生、舊東京大學法律學部卒業生、司法省

舊法學校正則部卒業生及司法官試補タリシ者

第五條 左ニ掲グル者ハ辯護士タルコトヲ得ス

第一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二 辯護士タルコトヲ得スル者ハ左ニ掲グル者ニ限リシテ之ヲ得ルコトヲ得

第二 不敬罪、偽造罪、偽證罪、賄賂罪、誣告罪、竊盜罪、詐欺取財罪、毀滅罪、贓物ニ關スル罪、遺失物理贓物ニ關スル罪、家資分散ニ關スル罪及刑法第七十五條同第二百六十條同第二百八十二條同第二百八十六條同第二百八十七條同第三百六十條ニ記載シタル定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

第三 公權停止中ノ者

第四 破産者ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債權ノ辨償ヲ終ヘサル者

第六條 辯護士ハ報酬アル公務ヲ兼ヌルコトヲ得ス但シ帝國議會議員、府縣會常置委員ト爲リ又ハ官廳ヨリ特ニ命セラレタル職務ヲ行フハ此ノ限ニ在ラス
辯護士ハ商業ヲ營ムコトヲ得ス但シ辯護士會ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章 辯護士名簿

第七條 辯護士ハ辯護士名簿ニ登錄セラルルコトヲ要ス

第八條 各地方裁判所ニ辯護士名簿ヲ備フ

辯護士ハ其ノ氏名ヲ登錄シタル地方裁判所ノ所屬トス

刑事訴訟法第二百六十四條及第二百七十九條ノ所屬辯護士ハ受訴裁判所所在地ノ辯護士ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 辯護士名簿ニ登錄ヲ請フ者ハ其ノ所屬地方裁判所ノ檢事局ヲ經由シテ司法大臣ニ請求書ヲ差出スヘシ

登錄請求書ニハ第二條乃至第六條ノ事項ニ關スル證明書ヲ添フヘシ

第十條 登錄ヲ請フ者ハ登錄手数料トシテ金貳拾圓ヲ納ムヘシ

他ノ地方裁判所ニ登錄換テ爲ストキハ手数料トシテ金拾圓ヲ納ムヘシ

第十一條 登錄ニ關スル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第三章 辯護士ノ權利及義務

第十二條(明治三十三年法律第十六號ヲ以テ削除)

第十三條 辯護士ハ正當ノ理由ヲ證明スルニ非ザレバ裁判所ノ命シタル職務ヲ行フヲ辭スルコトヲ得ス

第十四條 辯護士ハ左ニ掲ケル訴訟事件ニ付キ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第一 相手方ノ協議ヲ受ケテ之ヲ贊助シ又ハ委任ヲ受ケタル事件

第二 刑事檢事職中取扱ヒタル事件

第三 神裁手續ニ依リ仲裁人ト爲リテ取扱ヒタル事件

第十五條 辯護士ハ係争權利ヲ買受ケルコトヲ得ス

第十六條 辯護士ハ訴訟事件ノ委任ヲ承諾セサルトキハ速ニ其ノ旨ヲ委任者ニ通告スヘシ若通告ヲ怠リタルトキハ之ヲ爲メ生シタル損害ノ責ニ任ス

第十七條 辯護士ハ所屬地方裁判所又ハ其ノ管内區裁判所所在地ニ事務所ヲ定メ之ヲ所屬地方裁判所檢事局ニ届出ス

第十八條 辯護士會ハ其ノ所屬地方裁判所毎ニ辯護士會ヲ設立スヘシ

第十九條 辯護士會ハ所屬地方裁判所檢事正ノ監督ヲ受ケ

- 第三十條 辯護士會ニ會長ヲ置ク又副會長ヲ置ク事トス
- 第三十一條 辯護士會ハ毎年定期總會ヲ開ク又臨時總會ヲ開クコトヲ得
- 第三十二條 辯護士會ハ便宜ニ依リ常議員ヲ置クコトヲ得
- 第三十三條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ定メ檢事正ヲ經由シテ司法大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第三十四條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ遵守スルハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得
- 第三十五條 辯護士會ハ其ノ所屬地方裁判所管轄外ニ事務所ヲ設ク職務ヲ行フコトヲ得
- 第三十六條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ遵守スルハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得
- 第三十七條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ遵守スルハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得
- 第三十八條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ遵守スルハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得
- 第三十九條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ遵守スルハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得
- 第四十條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ遵守スルハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得
- 第四十一條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ遵守スルハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得
- 第四十二條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ遵守スルハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得
- 第四十三條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ遵守スルハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得
- 第四十四條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ遵守スルハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得
- 第四十五條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ遵守スルハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得
- 第四十六條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ遵守スルハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得
- 第四十七條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ遵守スルハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得
- 第四十八條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ遵守スルハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得
- 第四十九條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ遵守スルハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得
- 第五十條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ遵守スルハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得

- 第三十一條 辯護士ニシテ此ノ法律又ハ辯護士會會則ニ違背シタル所爲アルトキハ會長ハ常議員會又ハ總會入決議ヲ依リ懲戒ヲ求ムル爲檢事正ニ申告スヘシ
- 第三十二條 辯護士ニ對スル懲戒事件ニ付テハ管轄控訴院ニ於テ懲戒裁判所ヲ開クヘシ
- 第三十三條 懲戒裁判所ハ左ノ四種トスルヲ得
- 第一 懲戒部
- 第二 懲戒部
- 第三 懲戒部
- 第四 懲戒部
- 第三十四條 懲戒處分ニ付テハ刑事懲戒法ノ規定ヲ準用ス
- 第三十五條 現在ノ代官人ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ辯護士名簿ニ登録ヲ請フトキハ試験ヲ受テシテ辯護士タルコトヲ得
- 第三十六條 現在ノ代官人ハ本法施行前ニ委任ヲ受ケタル事件ニ付テハ其ノ判決ニ至ルマテ職務ヲ行フコトヲ得
- 第三十七條 第十二條ノ規定ハ現在ノ代官人ニ之ヲ適用セス
- 第三十八條 本法ハ明治二十六年五月一日ヨリ施行ス明治十三年司法省甲第一號布達代官人規則

本法施行之日ヨリ廢止ス
辯護士名簿登録規則 (明治二十六年四月司法省令第五號)

辯護士名簿登録規則左ノ通相定ム
辯護士名簿登録規則

第一條 辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ登録請求書ニ辯護士法第十條ノ手数料金額ニ相當スル登録印紙ヲ貼付シ所屬地方裁判所檢事局ヲ經由シテ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第二條 地方裁判所檢事局ニ於テ登録請求書ヲ受理シタルトキハ檢事正ハ辯護士法第二條乃至第六條ノ要件ヲ調査シ意見ヲ付シ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第三條 辯護士名簿ニ登録ハ司法大臣ノ命令ニ因リ地方裁判所檢事局ニ於テ之ヲ爲ス

第四條 辯護士ノ請求ニ因リ又辯護士死亡シタルトキハ辯護士會長ノ申告ニ因リ又辯護士法第五條ニ該當スル又除名セラレタル者アルトキハ受訴裁判所檢事ノ通知ニ因リ地方裁判所檢事局ニ於テ之ヲ爲ス

第五條 辯護士名簿ニ左ノ諸件ヲ附入ス可シ
一 辯護士ノ族籍氏名年齢
二 辯護士ノ事務所
三 辯護士ノ加入ノ年月日
四 辯護士ノ事務所

第六條 辯護士名簿ニ登録ナルトキモ亦同シ
第七條 辯護士會長ハ辯護士會ニ加入シタル者ノ氏名及加入ノ年月日ヲ所屬地方裁判所檢事局ニ

辯護士職服圖表 (明治二十六年四月司法省令第四號)
辯護士職服左ノ圖表ノ通定ム
辯護士職服圖表
第七條 辯護士會長ハ辯護士會ニ加入シタル者ノ氏名及加入ノ年月日ヲ所屬地方裁判所檢事局ニ

帽	地色	黒
製飾	式	縦形第一圖
縫着		黒絲ヲ以テ
上衣	地色	黒
製飾	式	縦形第二圖
縫着		白絲ヲ以テ

(圖例ハ之ヲ略ス)

辯護士試驗規則

(明治二十六年司法省令第九號)

辯護士試驗規則左ノ通相定ム

第一條 辯護士試験ハ毎年一回之ヲ行フ但其期日ハ司法大臣之ヲ定メ三箇月前官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第二條 試験委員長及委員ハ判事檢事司法省高等官ノ中ヨリ試験舉行毎ニ司法大臣之ヲ命ス

第三條 試験委員長ハ委員ヲ監督シ試験ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス

第四條 試験委員附屬ノ書記ハ司法屬又ハ裁判所書記ノ中ヨリ試験舉行毎ニ司法大臣之ヲ命ス

第五條 辯護士法第五條ニ該當スル者ハ試験ヲ受ケルコトヲ得ス

第六條 試験志願者ハ其願書ニ左ノ證書ヲ添ヘ試験ヲ受クヘキ裁判所ノ檢事局ヲ經由シテ之ヲ試験委員長ニ差込ス可シ

第七條 願書ヲ取下ケ又ハ試験ヲ受ケルコト雖モ之ヲ還付セス

第七條ノ二 試験ヲ分チテ豫備試験及本試験トス(明治二十六年司法省令第十四號ニテ本條新設)

豫備試験ニ合格シタル者ニ非サレハ本試験ヲ行ハス

豫備試験ニ合格シタル者ニ非サレハ本試験ヲ行ハス

第七條ノ三 豫備試験ハ受験者ハ本試験ヲ受ケルニ相當ナル普通ノ學識ヲ試験スルヲ以テ目的トス(同上)

第七條ノ四 豫備試験ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ施行ス(同上)

一 外國語

一 外國語ハ英語佛語及獨語ノ中ニ就キ一種ヲ選リシテ其言語ニ對シテ又ハ其言語ノ學識ヲ試驗スルヲ以テ目的トス

第七條ノ五 豫備試験ノ方法ハ試験委員長之ヲ定ム(同上)

第八條 本試験ハ受験者ノ專門ノ學識ヲ試験スルヲ以テ目的トシ筆記口述ノ二様トス(同上法令ヲ以テ本項改正)

筆記試験ハ民法、商法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法ノ各科目ニ就キ之ヲ施行ス

口述試験ハ民法、商法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法ノ中少クトモ三科目ニ就キ之ヲ施行ス

第九條 試験ハ司法省ニ於テ之ヲ行フ(明治二十六年六月司法省令第二十號ニテ前條改正)

第十條 筆記試験ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試験ヲ行ハス

第十一條 試験ニ關スル細則ハ試験舉行毎ニ試験委員ニ於テ之ヲ定ム可シ

第十二條 試験委員長ハ試験ノ成績及ヒ及第者ノ氏名ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第十三條 試験及第者ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十四條 試験及第者ニハ及第證書ヲ授與ス

書式

試驗願書及ヒ履歷書ノ書式ハ左ノ如シ

臺灣辯護士規則 (明治三十三年一月律令第五號)

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣辯護士規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス
臺灣辯護士規則

第一條 辯護士ハ當事者ノ委任ヲ受ケ又ハ臺灣總督府法院ノ命令ニ從ヒ臺灣總督府法院ニ於テ法律命令ニ定メタル職務ヲ行フモノトス

第二條 辯護士ニハ明治二十六年法律第七號辯護士法ノ規定ヲ準用ス

第三條 辯護士ノ懲戒處分ニ付テハ明治三十一年律令第十八號臺灣總督府法院判官懲戒令ノ規定ヲ準用ス但懲戒委員會ハ覆審法院檢察官長ノ申立ニ依リ之ヲ開始ス (明治三十四年十二月律令第二十三號ヲ以テ本條ヲ改ム)

附則

第四條 此規則ハ明治三十三年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣辯護士職服規程 (明治三十三年一月臺灣總督府令第六號)

辯護士職服規程左ノ通相定ム

辯護士職服規程

第一條 辯護士ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ職服ヲ著スヘシ

第二條 辯護士ノ職服ハ明治二十六年(四月)司法省令第四條ニ準據ス

附則

第三條 此規程ハ明治三十三年一月一日ヨリ施行ス但明治三十三年五月三十一日マテ職服ノ着用ヲ猶豫スルコトヲ得

第四條 訴訟人公開シタル法廷ニ於テ其職務ヲ行フトキハ此規程ヲ適用ス

臺灣辯護士名簿登錄規則 (明治三十三年一月臺灣總督府令第五號)

辯護士名簿登錄規則左ノ通相定ム

辯護士名簿登錄規則

第一條 辯護士名簿ニ新規登錄ヲ請フ者ハ登錄請求書ニ登錄稅法第七條ノ登錄稅ニ相當スル印紙ヲ貼付シ所屬地方法院檢察局ヲ經由シテ之ヲ臺灣總督ニ差出スヘシ

登錄換又ハ取消ノ請求ヲ爲ストキ亦同シ

第二條 地方法院檢察局ニ於テ登錄請求書ヲ受理シタルトキハ檢察官長ハ辯護士法第二條乃至第六條ノ要件ヲ調査シ意見ヲ付シ之ヲ臺灣總督ニ差出スヘシ

第三條 辯護士名簿ノ新規登錄登錄換並取消ハ臺灣總督ノ命令ニ依リ地方法院檢察官長之ヲ爲ス辯護士死去シ又ハ辯護士法第五條ニ該當シ又ハ懲戒裁判ニ依リ除名セラレタルトキハ地方法院檢察官長ハ辯護士會長ノ申告ニ依リ又ハ職權ヲ以テ直ニ登錄ノ取消ヲ爲スヘシ

第四條 辯護士名簿ニ左ノ諸件ヲ記入スヘシ

- 一 辯護士ノ族籍氏名年齢
- 二 登錄ノ番號及年月日
- 三 辯護士會加入ノ年月日

四 事務所
五 懲戒

第五條 地方法院檢察官長辯護士名簿ニ新規登録又ハ登録換チ爲シタルトキハ其登録ノ番號及年月日ヲ臺灣總督ニ報告シ且之ヲ本人ニ通知スヘシ

登録ヲ取消シタルトキ亦同シ

第六條 辯護士名簿ニ新規登録又ハ登録換チ爲シタルトキ又ハ登録ヲ取消シタルトキハ臺灣總督ハ府報ヲ以テ公告ス

第七條 辯護士會長ハ辯護士會ニ加入シタル者ノ氏名及加入ノ年月日ヲ所屬地方法院檢察局ニ届出ツヘシ

第八條 辯護士名簿ハ別記難形ノ通調製スヘシ

附則

第九條 此規則ハ明治三十三年二月一日ヨリ施行ス

訴訟代人規則廢止ノ件 (明治三十四年四月臺灣總督府令第二十四號)

明治三十一年(一月)府令第一號訴訟代人規則ハ明治三十四年五月十一日限り廢止ス

第六編 追 録

司法省試補實地修習期間減縮ニ關スル件

(明治三十八年二月法律第三十二號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル司法官試補實地修習期間減縮ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

司法官試補ノ實地修習期間ハ今後三十年間ハ一年六月迄ニ減縮スルコトヲ得

外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法

(明治三十八年三月法律第六十三號)

外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法

第一條 裁判所ハ外國裁判所ノ囑託ニ因リ民事及刑事ノ訴訟事件ニ關スル書類ノ送達及證據調ニ付法律上ノ補助ヲ爲ス

法律上ノ補助ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第二條 受託事項カ他ノ裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ受託裁判所ハ囑託ヲ管轄裁判所ニ移送スヘシ

第三條 受託事項ハ日本ノ法律ニ於テ之ヲ施行スヘシ

第四條 囑託ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ拒絕スヘシ

一 日本ノ法律ニ依レハ受託事項カ其ノ施行ヲ許スヘキモノニ非サルトキ

二 受託事項カ受託裁判所ノ管轄ニ屬セサル場合ニ於テ第二條ノ手續ヲ爲スコト能ハサルトキ

三 相互條件ニ存セサルトキ

外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助ニ關スル件

(明治三十八年四月律令第二號)

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助ニ關スル件勅裁ヲ得テ之ヲ發布ス外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助ニ關シテハ明治三十八年法律第六十三號ニ依ル但シ同法律中區裁判所ノ職務ニ屬セシメタルモノハ地方法院又ハ其ノ出張所ヲシテ之ヲ行ハシム

裁判所管轄區域變更ニ關スル件

(明治三十八年三月法律第四十九號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル裁判所管轄區域變更ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十三年法律第六十二號裁判所位置及管轄區域表中大阪控訴院管轄若狹、越前、加賀、能登、越中ノ國ヲ名古屋控訴院ノ管轄ニ、備前、備中、美作、因幡、伯耆ノ國ヲ廣島控訴院ノ管轄ニ變更ス、

附則

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年三月十一日以前ニ於テ岡山、鳥取、福井、金澤、及富山ノ各地方裁判所ノ爲シタル裁判ニ對スル上訴ハ大阪控訴院之ヲ管轄ス

同上 (明治三十八年三月法律第六十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル裁判所管轄區域變更ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年法律第六十二號裁判所位置及管轄區域表中函館控訴院管轄陸奥ノ國ヲ宮城控訴院ノ管轄ニ變更ス

附則

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年三月十一日以前ニ於テ青森地方裁判所ノ爲シタル裁判ニ對スル上訴ハ函館控訴院之ヲ管轄ス

同上 明治三十八年三月法律第六十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル裁判所管轄區域變更ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

裁判所位置及管轄區域表中静岡地方裁判所管轄遠江國榛原郡ヲ同地方裁判所管轄内掛川區裁判所ノ管轄ニ變更ス

附則

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前藤枝區裁判所ニ於テ受理シタル事件ハ同區裁判所之ヲ裁判ス

判事檢事登用試驗規則 (明治二十四年五月司法省令第三號)

判事檢事登用試驗規則左ノ通相定ム

判事檢事登用試驗規則

第一章 試驗委員

第一條 判事檢事登用試驗委員ハ委員長一名委員數名ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條 判事檢事登用試驗委員長及委員ハ大審院控訴院ノ判事檢事司法省高等官ノ中ヨリ試驗舉行毎ニ司法大臣之ヲ命ス但必要アルトキハ他ノ官廳高等官ニ試驗委員ヲ囑託スルコトアルヘシ
(明治二十九年司法省令第五十二號ヲ以テ全條改正) 試驗委員附屬ノ書記ハ司法廳又ハ裁判所書記ノ中ヨリ試驗舉行毎ニ司法大臣之ヲ命ス

第三條 判事檢事登用試驗委員長ハ委員ヲ監督シ試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス

第四條 判事檢事登用試驗委員長及委員ニハ二百圓以内ノ手當ヲ給シ試驗委員附屬ノ書記ニハ三十圓以内ノ手當ヲ給ス(同上)

第二章 受験資格

第五條 判事檢事登用試驗ヲ受ケルコトヲ得ル者ハ成年以上ノ男子ニシテ左ニ記載シタル者ニ限ル(明治三十一年司法省令第十六號及同三十八年四月同省々令第十三號ヲ以テ本條改正)

一 官立學校及專門學校令ニ依ル公立又ハ私立ノ學校(別科ヲ除ク)ニ於テ三學年以上法律學科ヲ修メ卒業證書ヲ有スル者

二 司法大臣ニ於テ指定シタル公立又ハ私立ノ學校ニ於テ三學年以上法律學科ヲ修メ卒業證書ヲ有スル者

三 司法大臣ニ於テ相當ト認メタル外國ノ大學校又ハ之ト同等ナル學校ニ於テ法律學科ヲ修メ卒業證書ヲ有スル者

前項第二號ハ明治四十年七月三十一日以後卒業スル者ニハ之ヲ適用セス

第六條 裁判所構成法第六十六條ニ該ル者ハ試驗ヲ受ケルコトヲ得ス

第三章 第一回試驗

第七條 第一回試驗ハ司法省ニ於テ之ヲ行フ試驗ノ期日ハ試驗委員長之ヲ定メ官報ヲ以テ公告ス

第八條 試驗志願者ハ其志願書ニ左ノ證書ヲ添ヘ之ヲ試驗委員長ニ差出スヘシ(明治二十六年司法省令第十六號ヲ以テ全條改正)

一 履歷書

二 身分年齡及兵役ニ關スル證明書

三 第五條ニ定メタル要件ノ證明書

試驗志願者ハ試驗手数料トシテ金拾圓ヲ納ムヘシ但其手数料ハ登記印紙ヲ用キ之ヲ志願書ニ貼附スヘシ

手数料ハ志願書ヲ取下ケ又ハ試驗ヲ受ケサルトキト雖モ之ヲ還附セス

第八條ノ二 試驗ヲ分テ豫備試驗及本試験トス(明治三十八年四月司法省令第十三號ヲ以テ本條ヲ新置ス)

第八條ノ三 豫備試驗ハ受験者ノ本試験ヲ受ケルニ相當ナル普通ノ學識ヲ試驗スルヲ以テ目的トス(同上)

第八條ノ四 豫備試験ハ左ノ科目ニ付キ之ヲ施行ス(同上)

一 論文

二 外國語

外國語ハ英語、佛語及獨語ノ中ニ就キ一種ヲ選ハシム

第八條ノ五 試驗委員豫備試験ノ答案ヲ調査シタル後本試験ヲ爲スニ足ルヘキモノト認メタルト

キハ本試験ノ爲メ志願者ヲ呼出スヘシ(同上)

第八條ノ六 豫備試験ノ方法ハ試験委員長之ヲ定ム(同上)

第九條 本試験ハ受験者ノ専門ノ學識ヲ試験スルテ以テ目的トシ筆記口述ノ二様トス(同上法令ヲ以テ本案ヲ改正ス)

第十條 筆記試験ハ憲法民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法行政法國際公法國際私法ノ各科目ニ就キ之ヲ施行ス(明治二十九年司法省令第五十二號ヲ以テ本條改正)

第十一條 試験委員筆記答案ヲ調査シタル後口述試験ヲ爲スニ足ルヘキモノト認メタルトキハ口述試験ノ爲メ志願者ヲ呼出スヘシ

第十二條 口述試験ハ民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ中少クトモ三科目ニ就キ之ヲ施行ス第十三條 受験者ノ及第落第及及第者ノ優劣ハ筆記試験口述試験ノ成績ニ對スル委員過半数ノ意見ニ從テ之ヲ決ス

及第落第ニ付テノ意見數相半スルトキハ落第ト看做スヘシ

第十四條 志願者口述試験ニ闕席シタルトキハ試験ハ成立タサルモノトス

第十五條 試験委員長ハ及第者ノ氏名及其試験ノ成績ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第十六條 帝國大學法律科卒業生ニシテ司法官ノ任用ヲ望ム者ハ第八條ノ規程ヲ準用シ志願書ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第四章 實地修習

第十七條 試補ハ區裁判所及地方裁判所並其檢事局ニ於テ一名若ハ數名ノ判事又ハ檢事ニ附屬シテ事務ヲ修習スヘシ

第十八條 修習事務直接ノ指揮監督ハ地方裁判所長之ヲ爲ス檢事ノ事務ヲ修習スルトキハ檢事正之ヲ爲ス

裁判所長若ハ檢事正ハ每年末ニ試補ノ職務上及職務外ノ行狀並職務ニ關ル成績ノ證明書ヲ作り控訴院長檢事長ヲ經由シテ之ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第十九條 試補ハ修習日録ヲ作り其取扱ヒタル事件ヲ記載スヘシ

此日録ハ毎月直接指揮監督者ニ差出シ檢閱ヲ受クヘシ

第二十條 試補ノ疾病又ハ兵役履行ノ爲メ修習ヲ缺キタル日數一箇年間二箇月以内ハ習修日數ニ算入ス

賜暇其他ノ原因ニ由リ修習ヲ缺キタル日數一箇年間一箇月以内亦同シ

第二十一條 第一項第二項ノ場合併起スルトキハ通計シテ二箇月以内ニ非サレハ算入スルコトヲ得ス

第二十一條 試補ノ直接指揮監督ハ試補職務上ノ義務ヲ怠リ又ハ職務上若ハ職務外ニ於テ其身分ニ適セサル行狀アルトキハ之ヲ諭告スヘシ此場合ニ於テハ指揮監督者ハ諭告ヲ爲シタルコトヲ

試補ノ履歷ニ記入スヘシ

第二十二條 試補職務上若ハ職務外ノ行狀其職務ヲ執ルニ不適當ナルカ又ハ其修習ノ進歩不十分

ニシテ第二回試験ニ及第ノ見込ナキトキハ直接指揮監督者ハ控訴院長檢事長ヲ經由シテ之ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

司法大臣前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ試補ヲ免スルコトアルヘシ

第五章 第二回試験

第二十三條 第二回試験ハ控訴院ニ於テ之ヲ行フ試験ノ場所ハ司法大臣之ヲ定メ試験ノ期日ハ試

驗委員長之ヲ定ム

第二十四條 試補第二回試験ヲ受ケルニハ直接指揮監督者ヲ經由シテ志願書ヲ司法大臣ニ差出ス

志願書ニハ修習目錄ト陸海軍ノ現役ヲ終ヘ又ハ之ヲ免セラレタルコトヲ證明スル書面トヲ添フ

第二十五條 司法大臣ハ第二回試験ヲ受クヘキ試補ノ氏名ヲ試験委員長ニ通知シ試験ヲ行ハシム

第二十六條 第二回試験ハ受験者ノ實務ニ習熟シタルヤ否ヲ試験スルヲ以テ主タル目的トシ筆記

口述ノ二様トス

第二十七條 試験委員ハ試補ニ筆記試験ノ爲メ二件以上ノ訴訟記録ヲ附與スヘシ

第二十八條 受験者ハ附與セラレタル訴訟記録ニ就キ事實及理由ヲ詳示シタル判決案ヲ答案トシ

答案ハ二十日ノ期間内ニ之ヲ差出スヘシ若シ此期間内ニ答案ヲ差出ササルトキハ試験ハ成立タサルモノトス

第二十九條 口述試験ハ第十條ニ掲ケタル科目ノ中少クトモ三科目ニ就キ之ヲ施行ス(明治二十九年司法省令第五十號ヲ以テ本項改正)

又訴訟記録ニ就キ問ヲ發シ之ニ答ヘシムヘシ其記録ハ試験期日ノ三日前ニ之ヲ附與ス

第三十條 左ノ場合ニ於テハ司法大臣ハ試験委員長ノ報告ニ因リ試補ヲ免ス

一 第二回試験ニ及第セサルトキ

二 第二回試験ノ成立タサルトキ

第三十一條 前條第二ノ場合ニ於テ試補已ムヲ得サル事故アリシコトヲ證明シ試験委員之ヲ正當ト認メタルトキハ其旨ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

司法大臣前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ其試補ニ一回ヲ限リ次期ノ試験マテ引續キ修習ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第三十二條 第一回試験ニ關ル第十一條及第十三條乃至第十五條ノ規程ハ第二回試験ニモ亦之ヲ適用ス

判事檢事登用試験規則第五條ニ依ル私立學校ノ指定

(明治二十六年十二月司法省告示第九十一號)

判事檢事登用試験規則第五條ニ依リ私立學校ヲ指定スルコト左ノ如シ(明治三五年司法省告示第七三號、第八七號及同三八年同省令第四九號ヲ以テ本告示中改正)

關西法律學校 日本法律學校

法學院大學 獨逸學協會學校

早稻田大學 明治法律學校

慶應義塾 和佛法律學校

同上 (明治三十四年七月司法省告示第四十二號)

右判事檢事登用試験規則第十五條ニ依リ指定ス

私立京都法政學校

判事檢事登用第一回試驗及辯護士試驗ノ科目ニ關スル件

(明治三十八年四月司法省令第十五號)

裁判所書記登用試驗規則

(明治二十四年五月司法省令第四號)

裁判所書記登用試驗規則左ノ通相定ム

第一章 試驗

第一條 裁判所書記登用試驗ハ文官試驗ニ關ル勅令ノ外本則ノ規程ニ從フ

第二條 試驗ハ各控訴院又ハ地方裁判所ニ於テ之ヲ行フ(三十年司法省令第二十二號ヲ以テ條中改正)

第三條 試驗委員ハ控訴院判事檢事書記長又ハ其管内地方裁判所ノ判事檢事ノ中ヨリ司法大臣之ヲ命ス

試驗委員長ハ委員中官等最モ高キ者ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 試驗ハ作文筆寫書取算簿記ノ外民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ中ニ就キ之ヲ施行ス

第五條 試驗委員長ハ受験者ノ申立アルトキハ地方裁判所ニ於テ筆記試驗ヲ受ケシムルコトヲ得此場合ニ於テ試験問題ノ答案ハ其裁判所ノ官吏監督シテ之ヲ作ラシム

第六條 試驗委員筆記答案ヲ調査シタル後口述試驗ヲ爲スニ足ルヘキモノト認メタルトキハ口述試驗ノ爲メ受験者ヲ呼出スヘシ

第七條 受験者口述試驗ニ關席シタルトキハ試驗ハ成立タサルモノトス

第八條 試驗ニ及第シタル者ニハ試驗委員長及試驗委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス

第九條 試驗委員長ハ及第者ノ氏名及其試驗ノ成績ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第二章 實地修習

第十條 試驗ニ及第シタル者ハ裁判所書記見習ヲ命セララルコトヲ得

裁判所書記見習ハ區裁判所及地方裁判所並其檢事局ニ於テ實地修習ヲ爲スヘシ

第十一條 實地修習ノ順序ハ控訴院長檢事長協議シテ之ヲ定ム

第十二條 實地修習ノ指揮監督ハ地方裁判所長若クハ檢事正又ハ區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事若ハ檢事之ヲ爲ス

指揮監督者ハ修習ノ事務ヲ直接ニ指示スヘキ官吏ヲ定ムヘシ

第十三條 裁判所書記見習職務上ノ義務ヲ怠リ又ハ職務上若ハ職務外ニ於テ其身分ニ適セサル行狀アルトキハ指揮監督者之ヲ諭告スヘシ

第十四條 裁判所書記見習職務上若ハ職務外ノ行狀其職務ヲ執ルニ不適當ナルカ又ハ其修習ノ進歩不十分ナリト認ムルトキハ指揮監督者ハ控訴院長檢事長ニ之ヲ報告スヘシ

第十五條 指揮監督者ハ裁判所書記見習其指揮監督ニ係ル修習ヲ終リタルトキハ修習ニ關ル證明書ヲ作り修習ノ成績並職務上及職務外ノ行狀ヲ記載シテ之ヲ控訴院長檢事長ニ差出スヘシ若シ行狀ニ就キ諭告シタルコトアルトキハ其旨ヲ證明書ニ附記スヘシ

二 違犯者訴訟代理人、辯護人若ハ鑑定人ナルトキハ處罰ノ上仍同一事件ニ付訴訟代理人、辯護人又ハ鑑定人タルコトヲ禁止スルコトヲ得

第七條 左ノ各號ノ一ニ該ル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

一 訴訟當事者ノ一方ノ爲ニ刊行ノ文書圖畫若ハ公開ノ演說ヲ以テ繫屬中ノ訴訟事項ヲ論評シタル者

二 訴訟事項ニ關シ當事者、證人、鑑定人、訴訟代理人若ハ辯護人ヲ威迫誘導シ又ハ訴訟代理ノ委任ヲ受ケルニ當リ受任者ヲ威迫シ若ハ欺罔シタル者

三 故ラニ法院ノ命令ニ服從セス又ハ他人ヲ威迫誘導シテ命令ニ違背セシメタル者

前項ノ違犯者訴訟代理人、辯護人又ハ鑑定人ナルトキハ前條第二號ノ規定ヲ準用ス

第八號 開廷中秩序維持ニ關スル裁判長ノ權ハ裁判上一人ニテ執務スル判官モ亦之ヲ行フコトヲ得

第九條 本令ノ處罰ハ刑事訴追又ハ懲戒訴追ヲ爲スコトヲ妨ケス

裁判所構成法終

民

法

二 違犯者訴訟代理人、辯護人若ハ鑑定人ナルトキハ處罰ノ上仍同一事件ニ付訴訟代理人、辯護人又ハ鑑定人タルコトヲ禁止スルコトヲ得

第七條 左ノ各號ノ一ニ該ル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ルタル者

一 訴訟當事者ノ一方ノ爲ニ刊行ノ文書圖畫若ハ公開ノ演說ヲ以テ繫屬中ノ訴訟事項ヲ論評シタル者

二 訴訟事項ニ關シ當事者、證人、鑑定人、訴訟代理人若ハ辯護人ヲ威迫誘導シ又ハ訴訟代理ノ委任ヲ受クルニ當リ受任者ヲ威迫シ若ハ欺罔シタル者

三 故ラニ法院ノ命令ニ服從セス又ハ他人ヲ威迫誘導シテ命令ニ違背セシメタル者

前項ノ違犯者訴訟代理人、辯護人又ハ鑑定人ナルトキハ前條第二號ノ規定ヲ準用ス

第八號 開廷中秩序維持ニ關スル裁判長ノ權ハ裁判上一人ニテ執務スル判官モ亦之ヲ行フコトヲ得

第九條 本令ノ處罰ハ刑事訴追又ハ懲戒訴追ヲ爲スコトヲ妨ケス

裁判所構成法終

民

法

民法目次

第一編 民法及民法施行法

民法	一
第一編 總 則	一
第一章 人	二
第一節 私權ノ享有	二
第二節 能 力	二
第三節 住 所	五
第四節 失 踪	五
第二章 法 人	七
第一節 法人ノ設立	七
第二節 法人ノ管理	一
第三節 法人ノ解散	一
第四節 罰 則	一
第三章 物	一
第四章 法律行為	一
第一節 總 則	一

第二節 意思表示……………一七

第三節 代理……………一八

第四節 無效及七取消……………二一

第五節 條件及七期限……………二二

第六章 期間……………二四

第一節 總則……………二四

第二節 取得時效……………二五

第三節 消滅時效……………二六

第二編 物權……………二七

第一章 總則……………二九

第二章 占有權……………二九

第一節 占有權ノ取得……………二九

第二節 占有權ノ效力……………三〇

第三節 占有權ノ消滅……………三三

第四節 進占有……………三三

第三章 所有權……………三三

第一節 所有權ノ限界……………三三

第二節 所有權ノ取得……………三八

第三節 共有……………三九

第四章 地上權……………四一

第五章 永小作權……………四二

第六章 地役權……………四三

第七章 留置權……………四六

第八章 先取特權……………四七

第一節 總則……………四七

第二節 先取特權ノ種類……………四七

第一款 一般ノ先取特權……………四七

第二款 動産ノ先取特權……………四八

第三款 不動産ノ先取特權……………五〇

第三節 先取特權ノ順位……………五一

第四節 先取特權ノ效力……………五二

第九章 質權……………五三

第一節 總則……………五三

第二節 動産質……………五四

第三節 不動産……………五五

第四節 權利質……………五五

第十章 抵當權……………五七

第一節 總則……………五七

第二節 抵當權ノ效力……………五七

第三節 抵當權ノ消滅……………六一

第三編 債權……………六一

第一章 總則……………六一

第一節 債權ノ目的……………六二

第二節 債權ノ效力……………六三

第三節 多數當事者ノ債權……………六六

第一款 總則……………六六

第二款 不可分債務……………六六

第三款 連帶債務……………六七

第四款 保證債務……………六九

第四節 債權ノ讓渡……………七三

第五節 債權ノ消滅……………七四

第一款 辨濟……………七四

第二款 相殺……………七九

第三款 更改……………八〇

第四款 免除……………八一

第五款 混同……………八一

第二章 契約……………八一

第一節 總則……………八一

第一款 契約ノ成立……………八二

第二款 契約ノ效力……………八四

第三款 契約ノ解除……………八五

第二節 贈與……………八七

第三節 買賣……………八七

第一款 總則……………八七

第二款 買賣ノ效力……………八八

第三款 買戻……………九一

第四節 交換……………九三

第五節 消費貸借……………九三

第六節 使用貸借……………九四

第七節 質貸借……………九五

第一款 總則……………九五

第二款 質貸借ノ效力……………九六

第三款 質貸借ノ終了……………九八

第八節 厝備……………九九

第九節 請負……………一〇一

第十節 委任.....一〇二

第十一節 寄託.....一〇四

第十二節 組合.....一〇六

第十三節 終身定期金.....一〇九

第十四節 和解.....一〇九

第三章 事務管理.....一一〇

第四章 不當利得.....一一一

第五章 不法行為.....一一二

民法親族編及相續編.....一一四

第四編 親族.....一一四

第一章 總則.....一一五

第二章 戶主及七家族.....一一六

第一節 總則.....一一六

第二節 戶主及家族ノ權利義務.....一一八

第三節 戶主權ノ喪失.....一一九

第三章 婚姻.....一二二

第一節 婚姻ノ成立.....一二二

第一款 婚姻ノ要件.....一二二

第二款 婚姻ノ無效及取消.....一二三

第二節 婚姻ノ效力.....一二五

第三節 夫婦財產制.....一二六

第一款 總則.....一二六

第二款 法定財產制.....一二七

第四節 離婚.....一二八

第一款 協議上ノ離婚.....一二八

第二款 裁判上ノ離婚.....一二九

第四章 親子.....一三〇

第一節 實子.....一三〇

第一款 嫡出子.....一三〇

第二款 庶子及私生子.....一三一

第二節 養子.....一三一

第一款 緣組ノ要件.....一三二

第二款 緣組ノ無效及七取消.....一三四

第三款 緣組ノ效力.....一三六

第四款 離緣.....一三六

第五章 親權.....一三八

第一節 總則.....一三九

第二節 親權ノ效力.....一三九

第三節 親權ノ喪失……………一四二

第六章 後 見……………一四二

第一節 後見ノ開始……………一四二

第二節 後見ノ機關……………一四二

第一款 後見人……………一四二

第二款 後見監督人……………一四四

第三節 後見ノ事務……………一四五

第四節 後見ノ終了……………一四九

第七章 親族會……………一五〇

第八章 扶養ノ義務……………一五一

第五編 相 續……………一五三

第一章 家續相續……………一五三

第一節 總 則……………一五三

第二節 家續相續人……………一五四

第三節 家督相續ノ效力……………一五八

第二章 遺產相續……………一五九

第一節 總 則……………一五九

第二節 遺產相續人……………一五九

第三節 遺產相續ノ效力……………一六〇

第一款 總 則……………一六〇

第二款 相續分……………一六〇

第三款 遺產ノ分割……………一六二

第三章 相續ノ承認及口拋棄……………一六二

第一節 總 則……………一六二

第二節 承 認……………一六三

第一款 單純承認……………一六四

第二款 限定承認……………一六四

第三節 拋 棄……………一六六

第四章 財產ノ分離……………一六七

第五章 相續人ノ職缺……………一六九

第六章 遺 言……………一七〇

第一節 總 則……………一七〇

第二節 遺言ノ方式……………一七一

第一款 普通方式……………一七一

第二款 特別方式……………一七二

第三節 遺言ノ效力……………一七五

第四節 遺言ノ執行……………一七八

第五節 遺言ノ取消……………一八一

第七章 遺留分.....一八一

民法施行法.....一八四

第一章 通則.....一八四

第二章 總則編ニ關スル規定.....一八七

第三章 物權編ニ關スル規定.....一九〇

第四章 債權編ニ關スル規定.....一九三

第五章 親族編ニ關スル規定.....一九四

第六章 相續編ニ關スル規定.....一九七

第二編 民法ニ關スル法規

第一章 人

穢多非人等ヲ廢シ平民同様タルヘキ事.....二〇〇

內務大臣ノ主管ニ屬スル社團財團ノ法人タルニ付許可認可ヲ經ヘキ場合及申請方.....二〇〇

宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ノ設立等ニ關スル規程.....二〇一

司法大臣ノ主管ニ屬スル社團財團タル法人ニ係ル申請書等差出方ノ件.....二〇二

文部大臣ノ主管ニ屬スル法人ノ設定及監督ニ關スル規程.....二〇二

農商務省ノ主管ニ屬スル社團及財團ノ法人ニ關スル件.....二〇四

法人ノ設立及監督ニ關スル規程.....二〇四

第二章 著作權

著作權法.....二〇五

第一章 著作者ノ權利.....二〇六

第二章 僞作.....二一〇

第三章 罰則.....二一一

第四章 附則.....二一二

著作權法ヲ臺灣ニ施行スルノ件.....二一三

著作權法ノ施行ニ關スル件.....二一三

著作權者不明ノ著作ニ關スル件.....二一五

著作權登錄ニ關スル件.....二一五

第三章 遺失物埋藏物

遺失物法.....二一八

遺失物法施行細則.....二二一

遺失物法ヲ臺灣ニ施行スルノ件.....二二三

遺失物法施行細則(臺灣總督府令).....二二三

臺灣ニ於ケル臺灣島人及清國人ニ民法第二百四十條及第二百四十一條ノ適用ニ關

スル件

第四章 土地及收用

二二四

第一節 土地所有權

地所買入書入規則

二二五

外國人ノ土地取得ニ關スル件

二二五

外國人ニ對シ土地賣渡讓與交換ノ場合等ニ關スル事ヲ定ムル明治三十二年臺灣總

督府令第六十三號廢止ノ件

二二五

蕃地ニ關スル件

二二六

第二節 地上權永代借地權

地上權ニ關スル件

二二七

永代借地權ニ關スル件

二二七

帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設

二二七

定シタル永代借地權ヲ取得シタル場合ニ關スル件

二二八

政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得

二二八

シ又ハ其土地ノ所有權ヲ取得シタルトキ通知ノ件

二二九

第三節 大租權

大租權確定ニ關スル件

二三〇

明治三十六年律令第九號施行規則

二三一

政府ノ取得シタル土地ニ對スル大租權消滅ニ關スル件

二三四

第四節 收用

土地收用法

二三五

第一章 總則

二三六

第二章 事業ノ準備

二三七

第三章 事業ノ認定

二三八

第四章 收用ノ手續

二三九

第五章 收用審査會

二四二

第六章 損失ノ補償

二四四

第七章 收用ノ效果

二四六

第八章 費用ノ負擔

二四七

第九章 監督、強制及罰則

二四八

第十章 訴願及訴訟

二四九

土地收用法施行令

二五一

工事ノ爲メ買收、收用ノ土地貸附ノ件

二五四

土地收用法第六條ニ基キテ發スル命令ノ件……………二五四

土地收用法第四十六條ニ依リテ合同收用審査ニ關スル件……………二五七

土地收用法第六十九條ニ依リテ發スル命令ノ件……………二五八

土地收用法第八十五條第三項ニ基キテ發スル命令ノ件……………二五九

土地收用法ニ依リ起業者ヨリ事業認定ノ申請ヲ爲シタル場合ニ關スル件……………二六〇

土地收用法ニ依リ收用スヘキ土地公告方……………二六〇

土地收用法ニ關スル稟伺處分及報告等ノ件……………二六〇

第五章 抵當

工場抵當法……………六〇〇

礦業抵當法……………六一九

鐵道抵當法……………六六二

第一章 總則……………六六二

第二章 登錄……………六六八

第三章 強制競賣及強制管理……………六七〇

第四章 罰則……………六七九

附則……………六八〇

鐵道抵當法施行細則……………六八〇

第六章 確定日附

確定日附簿及ヒ日附アル印章調製方……………二六二

私署證書ニ確定日附ヲ附スル事ヲ請求スル手数料ニ關スル件……………二六五

確定日附簿及日附アル印章調製方(臺灣總督府令)……………二六五

私署證書ニ確定日附ヲ附スル事ヲ請求スル手数料……………二六六

第七章 人事

華族ヨリ平民ニ至ル迄婚姻ヲ許ス……………二六六

外國ニ於テ婚姻ヲ爲ストキノ證明書ニ關スル件……………二六六

陸軍現役軍人婚姻條例……………二六七

陸軍現役軍人婚姻出願及許可手續……………二六七

海軍軍人結婚條例……………二六九

海軍軍人結婚願出手續……………二七〇

華士族平民交互養子取組ノ件……………二七一

教育所ニ在ル孤兒ノ後見職務ニ關スル件……………二七二

教育所ニ在ル孤兒ノ後見職務執行ニ關スル特例ノ件……………二七二

棄兒、迷兒、遺兒、其他父又ハ母ニ於テ親權ヲ行ヒ難キ狀況ニアル未成年者ニシテ教育所ニ在ルモノノ後見ニ關スル件……………二七三

民法第七十九條及第八十一條ノ規定ニ依ル遺言ノ確認ニ關スル件……………二七四

第八章 雜則

記名ノ債權ヲ目的トスル質權ノ設定ニ關スル件……………二七五
 婦女ノ一家相續ノ者ニ自印ヲ用ヒシム……………二七五
 私用ノ證文類ヘ官名ヲ記載シ或ハ官名ヲ刻セシ印章ヲ用フルヲ禁ス……………二七五
 華族ノ親貸借證文及其他ノ契約書ニ本人ノ名印ヲ用ヒシム……………二七五
 社寺ノ負債ハ氏子檀家ノ連署ヲ要ス……………二七六
 神社寺院寺廟等所屬財産ノ賣渡交換其他處分ヲ爲サントスル時ノ手續ニ關スル件……………二七六
 利息制限法……………二七六
 利息制限規則……………二七六
 土地貸借ノ時間ニ關スル件……………二七七
 失火ノ責任ニ關スル件……………二七八

第三編 競賣法

競賣法……………二七八
 第一章 通則……………二七九
 第二章 動産競賣……………二七九
 第三章 不動産ノ競賣……………二七九
 第四章 船舶ノ競賣……………二八三
 第五章 增價競賣……………二八六

土地ノ抵當權者タル外國人カ增價競賣ヲ請求スル場合ニ關スル件……………二八九

第四編 登記及登錄

第一章 不動産登記

第一節 通則

不動産登記法……………二八九
 第一章 總則……………二九〇
 第二章 登記所及ヒ登記官吏……………二九一
 第三章 登記ニ關スル帳簿……………二九三
 第四章 登記手續……………二九五
 第一節 通則……………二九五
 第二節 所有權ニ關スル登記手續……………三〇四
 第三節 所有權以外ノ權利ニ關スル登記手續……………三二二
 第四節 抹消ニ關スル登記手續……………三一七
 第五節 抗告……………三一九
 附則……………三二〇

不動産登記法施行細則

- 第一章 登記ニ關スル帳簿.....三二一
- 第二章 登記申請ノ手續.....三二一
- 第三章 登記手續.....三二七
- 附則.....三二九
- 土地ヲ分合シテ賣買讓與買入スル者登記請求前ニ爲スヘキ手續.....三三三
- 同上.....三五三
- 殖林ノ爲メ設定シタル地上權登記ニ關スル件.....三五二
- 各省ノ所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ關スル件.....三五三
- 同上法令ニ依ル囑託官吏ノ指定.....三五四
- 委任ニ因リ不動産ノ權利ヲ取得シ又ハ移轉シタル場合ニ於ケル登記ニ關スル件.....三五四
- 同上.....三五四
- 同上.....三五五
- 同上.....三五五
- 同上.....三五五
- 同上.....三五五
- 登記事務ハ土地ノ情況ニ依リ十二月三十一日迄取扱ハシム.....三五六
- 同上.....三五六

- 地所建物船舶ノ買入書入ニ關スル蓋公證簿及附屬書類保存期間ノ件.....三五七
- 登記事務費ハ國庫ノ支出トス.....三五七
- 土地登記簿建物登記簿及商業登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ請求等ニ關スル手数料.....三五七

第二節 特 則

第一款 工場抵當登記

- 工場抵當登記取扱手續.....六六一

第二款 鑛業登錄及鑛業抵當登記

- 鑛業登錄令.....六二一
- 同施行細則.....六三二
- 鑛業及砂鑛採取業ニ關スル手数料ノ件.....六五三
- 鑛業抵當登記取扱手續.....六五七

第二章 永代借地權登記

- 永代借地權ニ關スル件.....三五八
- 帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタル場合ニ關スル件.....三六一
- 永代借地永代借地ノ上ニ存スル登記取扱手續.....三六三
- 政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得.....三六三

受買人其土地ノ所有權ヲ取得シタル時通知ノ件……………三七二
 向上法令ニ依ル通知ヲ受ケタル時土地臺帳登錄ノ件……………三七三
 永代借地及永代借地ノ上ニ存スル建物ノ登記簿ノ謄本抄本等ノ交付又ハ閱覽ノ請
 求ニ關スル手数料ノ件……………三七三

第三章 整理地登記

整理地登記規則……………三七四
 整理地登記取扱手續……………三七九

第四章 臺灣不動產登記附土地登記

臺灣不動產登記規則……………三八二
 臺灣不動產登記規則ニ依ル建物ノ登記ニ關スル取扱手續……………三八三
 登記官吏ノ職務施行ニ關シテ爲ス抗告手續準據方……………三八三
 登記照合用ニ供スル爲登記役場ニ印鑑差出ノ件……………三八四
 建物登記簿及商業登記簿等ノ謄本又ハ抄本ノ交付請求等ニ關スル件……………三八四
 臺灣土地登記規則……………七〇〇
 同施行規則……………七〇三
 臺灣土地登記稅規則……………七〇八
 同施行規則……………七一二

地方法院及其出張所ノ管内ニ登記所ノ設置ニ關スル件……………七一四
 地方法院及其出張所管内登記所登記及公證事務取ニ關スル件……………七一五

第五章 法人及夫婦財產契約登記

法人及夫婦財產契約登記取扱手續……………三八五
 法人及夫婦財產契約登記取扱所……………三九四
 同上……………三九五
 同上……………三九五
 法人及夫婦財產契約登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ調製方……………三九五
 法人登記簿及夫婦財產契約登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ請求ニ關スル手数料……………三九五
 法人及夫婦財產契約ニ關スル登記取扱手續……………三九六
 法人登記簿及夫婦財產契約登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付請求ニ關スル件……………三九七

第五編 非訟事件手續法

非訟事件手續法……………三九七
 第一編 總則……………三九七
 第二編 民事非訟事件……………四〇二
 第一章 法人ニ關スル事件……………四〇二
 第二章 財產ノ管理ニ關スル事件……………四〇二

第三章 裁判上ノ代位ニ關スル事件……………四〇九

第四章 保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル事件……………四一〇

第五章 隠居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族會ニ關スル事件……………四一一

第六章 相續ノ承認及ヒ拋棄ニ關スル事件……………四一三

第七章 遺言ノ確認及ヒ執行……………四一四

第八章 法人及ヒ夫婦財產契約ノ登記……………四一五

第三編 商事非訟事件……………四一七

第一章 會社及ヒ競賣ニ關スル件……………四一七

第二章 會社ノ清算人ノ選任及ヒ解任……………四一七

第三章 商業登記……………四二〇

第一節 通則……………四二〇

第二節 商號ノ登記……………四二四

第三節 未成年者、妻及ヒ後見人ノ登記……………四二五

第四節 支配人及ヒ會社ノ清算人ノ登記……………四二六

第五節 合名會社及ヒ合資會社ノ登記……………四二七

第六節 株式會社ノ登記……………四二九

第七節 株式合資會社ノ登記……………四三三

第八節 外國會社ノ登記……………四三四

附則……………四三五

非訟事件手續法ニ依リテ勝本又ハ抄本ノ交付ヲ申請スル者ノ納ムヘキ手数料ニ關スル件……………四三七

外國人ノ遺產ノ保存處分ニ關スル手續……………四三七

相續人曠缺ノ爲メ國庫ニ歸屬シタル財産ノ取扱ニ關スル件……………四三八

相續人曠缺ノ爲メ國庫ニ歸屬シタル財産中森林原野ノ取扱ニ關スル件……………四三九

死亡者ノ財産保護ニ關スル日英契約……………四三九

第六編 國籍……………四四三

國籍法……………四四三

日本ノ國籍ヲ失ヒタル家族ノ權利ニ關スル件……………四四七

本邦人、外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スニ關スル件……………四四八

同上法令ヲ臺灣ニ施行スルノ件……………四四八

外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲サントシ及歸化ヲ爲シ又ハ國籍ヲ回復セントスル者ノ願出手續ニ關スル件……………四四九

明治二十二年外務省令第三號及同二十七年同省令第五號廢止ノ件……………四四九

第七編 戶籍……………四五〇

第一章 戶籍……………四五〇

戶籍法……………四五〇

第一章 戶籍吏及戶籍役場……………四五〇

第二章 身分登記簿……………四五二

第三章 登記手續……………四五七

第四章 身分ニ關スル届出……………四六〇

第一節 通則……………四六三

第二節 出生……………四六四

第三節 嫡出子否認……………四六五

第四節 私女子認知……………四六六

第五節 養子縁組……………四六七

第六節 養子縁離……………四六八

第七節 婚・姻……………四六九

第八節 離・婚……………四七〇

第九節 後・見……………四七一

第十節 隠・居……………四七二

第十一節 失・踪……………四七三

第十二節 死・亡……………四七四

第十三節 家督相續……………四七五

第十四節 推定家督相續人ノ廢除……………四七六

第十五節 家督相續人ノ指定……………四七七

第十六節 入籍、離籍及復籍拒絕……………四七八

第十七節 廢家及絶家……………四七九

第十八節 分家及ト廢家再興……………四七九

第十九節 國籍ノ得喪……………四八一

第二十節 氏名及ト族稱ノ變更……………四八二

第二十一節 身分登記ノ變更……………四八三

第五章 戶籍簿……………四八三

第六節 戶籍ノ記載手續……………四八三

第七節 戶籍ニ關スル届出……………四八八

第八章 抗・告……………四九〇

第九章 罰・則……………四九一

附則……………四九一

戶籍法取扱手續……………四九三

戶籍法第二條ノ規定ニ依リ區長ヲ以テ戶籍吏トナスノ件……………五六一

戶籍法ノ規定ニ依リ納付スル手数料ノ金額ヲ定ムルノ件……………五六一

戶主ニ非サル者ハ稱子授ケラレタル場合ニ關スル件……………五六二

處刑ニ因リ族稱ヲ失ヒタル者戶籍吏ニ報告方ノ件……………五六二

身分登記戶籍及寄留ニ關スル書類保存規程……………五六三

第二章 族 籍

非藏人北面官人執次使番任丁等ヲ廢シ土族「卒」ト改メ宮華族三代相恩ノ家士ヲ
 土族「卒」ニ加フ……………五六四
 郷士ヲ以テ士族ニ入籍ス……………五六五
 二代以上ノ卒ヲ士族ニ加ヘ一代抱ノ卒ヲ平民ニ復ス……………五六五
 僧尼籍編入方……………五六五
 僧尼定籍ニ付テノ心得方……………五六六
 僧尼寺院ニ住居ヲ許ス……………五六六

第三章 氏名

一人一名タルヘキ事……………五六七
 平民苗字ヲ設クル事……………五六七
 僧侶苗字ヲ設ク……………五六七
 御歴代ノ御諱立御名ノ文字ヲ名乗ルコトノ解禁……………五六七
 苗字名並屋號共改ムルヲ禁ス……………五六七

第四章 年齢

年齢計算ニ關スル件……………五六八
 同上法律ヲ臺灣ニ施行スルノ件……………五六八

第五章 寄留

寄留ノ届出ニ關スル件……………五六九
 出生死去出入等届出方及寄留者届出方……………五六九
 入寄留届書寄留者退去届書及寄留者復歸届書編綴方……………五七〇
 戶籍取扱手續……………五七一
 寄留届寄留者復歸届取扱方……………五七二
 華族戶籍ニ關シ宮内省ニ出願方省略ノ件……………五七三
 華族戶籍ノ異動ニ關スル件……………五七三
 臺灣ニ寄留スル内地人ノ寄留及出產死亡等ニ關スル届出方……………五七三
 寄留者諸願届等寄留地ノ管廳ヘ差出方……………五七五

第八編 公證人

公證人規則……………五七六
 第一章 總則……………五七七
 第二章 公證人ノ選任及試験……………五七九
 第三章 證書……………五八〇
 第一節 證書ノ原本……………五八〇
 第二節 正本及七謄本……………五八三

第三節 見出帳……………五八五

第四章 手数料及七旅費日當……………五八六

第五章 懲罰……………五八七

公證人規則施行條例……………五九〇

抗告手續……………五九四

公證規則……………五九六

同施行細則……………五九七

公證費用規則……………五九九

公證規則ニ依リ公證官吏ノ職務執行ニ關スル抗告手續……………五九九

第九編 追 録

工場抵當法……………六〇〇

工場抵當登記取扱手續……………六一〇

礦業抵當法……………六一九

礦業登錄令……………六二一

同施行細則……………六三二

礦業及砂礦採取業ニ關スル手数料ノ件……………六五七

礦業抵當登記取扱手續……………六六一

鐵道抵當法……………六五八

第一章 總 則……………六五八

第二章 登 録……………六六四

第三章 強制競賣及強制管理……………六六六

第四章 罰 則……………六七五

附 則……………六七六

鐵道抵當法施行細則……………六七六

臺灣土地登記規則……………六九六

同施行規則……………六九九

臺灣土地登記稅規則……………七〇五

同施行規則……………七〇九

建物及船舶所有者ノ印鑑届ニ關スル件……………七一〇

地方法院及其出張所ノ管内ニ登記所設置ニ關スル件……………七一

地方法院及其出張所管内登記所ノ登記及公證事務取扱ニ關スル件……………七一二

戸主ニ非サル者、爵ヲ授ケラレタル場合ニ關スル件……………七一二

神社寺院寺廟等所屬財産ノ賣渡交換其他處分ヲ爲サントスル時ノ手續ニ關スル件……………七二三

不動産登記ニ付囑託官吏ノ指定……………七二三

民法目次終

民法

第一編 民法及民法施行法

民法 (明治二十九年四月法律第八十九號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル民法中修正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

民法第一編第二編第三編別冊ノ通定ム

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (明治三十一年六月勅令第二百二十三號ヲ以テ同年七月十六日ヨリ施行スル旨ヲ定メタリ)

明治二十三年法律第二十八號民法財産編財産取得編債權擔保編證據編ハ此法律發布ノ日ヨリ廢止ス (明治三十一年六月法律第九號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル民法中修正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

民法第四編第五編別冊ノ通之ヲ定ム

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (此期日ハ明治三十一年六月勅令第二百二十三號ヲ以テ本法施行ノ期日ヲ同年七月十六日ト定ム)

明治二十三年法律第九十八號民法財産取得編人事編ハ此法律發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス (別冊)

民法

第一編 總則

第一章 人

第一節 私權ノ享有

第一條 私權ノ享有ハ出生ニ始マル

第二條 外國人ハ法令又ハ條約ニ禁止スル場合ヲ除ク外私權ヲ享有ス

第二節 能力

第三條 滿二十年ヲ以テ成年トス

第四條 未成年者ガ法律行為ヲ爲スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但單ニ權利ヲ得又ハ義務ヲ免ルベキ行為ハ此限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ反スル行為ハ之ヲ取消スコトヲ得

第五條 法定代理人カ目的ヲ定メテ處分ヲ許シタル財産ハ其目的ノ範圍内ニ於テ未成年者隨意ニ之ヲ處分スルコトヲ得目的ヲ定メシテ處分ヲ許シタル財産ヲ處分スル亦同シ

第六條 一種又ハ數種ノ營業ヲ許サレタル未成年者ハ其營業ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ未成年者カ未ダ其營業ニ堪ヘサル事跡アルトキハ其法定代理人ハ親族編ノ規定ニ從ヒ其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第七條 心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ付テハ裁判所ハ本人、配偶者、四親等内ノ親族、戶主、後見人、保佐人又ハ檢事ノ請求ニ因リ禁治産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

第八條 禁治産者ハ之ヲ後見ニ付ス

第九條 禁治産者ノ行為ハ之ヲ取消スコトヲ得

第十條 禁治産ノ原因止ミタルトキハ裁判所ハ第八條ニ掲ケタル者ノ請求ニ因リ其宣告ヲ取消スコトヲ要ス

第十一條 心神耗弱者、聾者、啞者、盲者及ヒ浪費者ハ進禁治産者トシテ之ニ保佐人ヲ附スルコトヲ得

第十二條 進禁治産者カ左ニ掲ケタル行為ヲ爲スニハ其保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

- 一 元本ヲ領收シ又ハ之ヲ利用スルコト
- 二 借財又ハ保證ヲ爲スコト

第十三條 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ヲ得喪ヲ目的トスル行為ヲ爲スコト

第十四條 訴訟行為ヲ爲スコト

第十五條 贈與又ハ和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト

第十六條 相續ヲ承認シ又ハ之ヲ拋棄スルコト

第十七條 贈與若クハ遺贈ヲ拒絕シ又ハ負擔附ノ贈與若クハ遺贈ヲ受諾スルコト

第十八條 新築、改築、増築又ハ大修繕ヲ爲スコト

第十九條 第六百二條ニ定メタル期間ヲ超ユル貸借ヲ爲スコト

裁判所ハ場合ニ依リ進禁治産者カ前項ニ掲ケサル行為ヲ爲スニモ亦其保佐人ノ同意アルコトヲ要スル旨ヲ宣告スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ反スル行為ハ之ヲ取消スコトヲ得

第十三條 第七條及第十條ノ規定ハ準禁治産ニ之ヲ適用ス

第十四條 妻カ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 第十二條第一項第一號乃至第六號ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコト

二 贈與若クハ遺贈ヲ受諾シ又ハ之ヲ拒絕スルコト

三 身體ニ羈絆ヲ受クヘキ契約ヲ爲スコト

前項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得

第十五條 一種又ハ數種ノ營業ヲ許サレタル妻ハ其營業ニ關シテハ獨立人ト同一ノ能力ヲ有ス

第十六條 夫ハ其與ヘタル許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得但其取消又ハ制限ハ之ヲ以テ

善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十七條 左ノ場合ニ於テハ妻ハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

一 夫ノ生死分明ナラサルトキ

二 夫カ妻ヲ遺棄シタルトキ

三 夫カ禁治産者又ハ準禁治産者ナルトキ

四 夫カ瘋癲ノ爲メ病院又ハ私宅ニ監置セラレタルトキ

五 夫カ禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ其刑ノ執行中ニ在ルトキ

六 夫婦ノ利益相反スルトキ

第十八條 夫カ未成年者ナルトキハ第四條ノ規定ニ依ルニ非サレハ妻ノ行爲ヲ許可スルコトヲ得

第十九條 無能力者ノ相手方ハ其無能力者カ能力者ト爲リタル後之ニ對シテ一ヶ月以上ノ期間内

ニ其取消シ得ヘキ行爲ヲ追認スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ無能力者カ其

期間内ニ確答ヲ發セサルトキハ其行爲ヲ追認シタルモノト看做ス

無能力者カ未タ能力者トナラサル時ニ於テ夫又ハ法定代理人ニ對シ前項ノ催告ヲ爲スモ其期間

内ニ確答ヲ發セサルトキ亦同シ但法定代理人ニ對シテハ其權限内ノ行爲ニ付テノミ此催告ヲ爲

スコトヲ得

特別ノ方式ヲ要スル行爲ニ付テハ右ノ期間内ニ其方式ヲ踏ミタル通知ヲ發セサルトキハ之ヲ取

消シタルモノト看做ス

準禁治産者及ヒ妻ニ對シテハ第一項ノ期間内ニ保佐人ノ同意又ハ夫ノ許可ヲ得テ其行爲ヲ追認

スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ準禁治産者又ハ妻カ其期間内ニ右ノ同意又ハ許可ヲ得タル通

知ヲ發セサルトキハ之ヲ取消シタルモノト看做ス

第二十條 無能力者カ能力者タルコトヲ信セシムル爲メ詐術ヲ用ヰタルトキハ其行爲ヲ取消スコ

トヲ得ス

第三節 住所

第二十一條 各人ノ生活ノ本據ヲ以テ其住所トス

第二十二條 住所ノ知レサル場合ニ於テハ居所ヲ以テ住所ト看做ス

第二十三條 日本ニ住所ヲ有セサル者ハ其日本人タルト外國人タルトヲ問ハス日本ニ於ケル居所

ヲ以テ其住所ト看做ス但法例ノ定ムル所ニ從ヒ其住所ノ法律ニ依ルヘキ場合ハ此限ニ在ラス

第二十四條 或行爲ニ付キ假住所ヲ選定シタルトキハ其行爲ニ關シテハ之ヲ住所ト看做ス

第四節 失踪

第五節 失踪

第六節 失踪

第七節 失踪

第八節 失踪

第九節 失踪

第十節 失踪

第十一節 失踪

第十二節 失踪

第十三節 失踪

第十四節 失踪

第十五節 失踪

第十六節 失踪

第十七節 失踪

第十八節 失踪

第二十五條 從來ノ住所又ハ居所ヲ去リタル者ハ其財産ノ管理人ヲ置カザリシトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其財産ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得本人ノ不在中管理人ノ權限ヲ消滅シタルトキ亦同シ
本人カ後日ニ至リ管理人ヲ置キタルトキハ裁判所ハ其管理人、利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其命令ヲ取消スコトヲ得

第二十六條 不在者カ管理人ヲ置キタル場合ニ於テ其不在者ノ生死分明ナラサルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ管理人ヲ改任スルコトヲ得

第二十七條 前二條ノ規定ニ依リ裁判所ニ於テ選任シタル管理人ハ其管理スヘキ財産ノ目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但其費用ハ不在者ノ財産ヲ以テ之ヲ支辨ス
不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ於テ利害關係人又ハ檢事ノ請求アルトキハ裁判所ハ不在者カ置キタル管理人ニモ前項ノ手續ヲ命スルコトヲ得

右ノ外總テ裁判所カ不在者ノ財産ノ保存ニ必要ト認ムル處分ハ之ヲ管理人ニ命スルコトヲ得

第二十八條 管理人カ第三百三條ニ定メタル權限ヲ超ユル行爲ヲ必要トスルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ於テ其管理人カ不在者ノ定メ置キタル權限ヲ超ユル行爲ヲ必要トスルトキ亦同シ

第二十九條 裁判所ハ管理人ヲシテ財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得
裁判所ハ管理人ト不在者トノ關係其他ノ事情ニ依リ不在者ノ財産中ヨリ相當ノ報酬ヲ管理人ニ與フルコトヲ得

第三十條 不在者ノ生死カ七年間分明ナラサルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

戰地ニ臨ミタル者、沈没シタル船中ニ在リタル者其他死亡ノ原因タルヘキ危難ニ遭遇シタル者ノ生死カ戰爭ノ止ミタル後、船舶ノ沈没シタル後又ハ其他ノ危難ノ去リタル後三年間分明ナラサルトキ亦同シ

第三十一條 失踪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ前條ノ期間滿了ノ時ニ死亡シタルモノト看做ス

第三十二條 失踪者ノ生存スルコト又ハ前條ニ定メタル時ト異ナリタル時ニ死亡シタルコトノ證明アルトキハ裁判所ハ本人又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ失踪ノ宣告ヲ取消スコトヲ要ス但失踪ノ宣告後其取消前ニ善意ヲ以テ爲シタル行爲ハ其效力ヲ變セス

失踪ノ宣告ニ因リテ財産ヲ得タル者ハ其取消ニ因リテ權利ヲ失フモ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノミ其財産ヲ返還スル義務ヲ負フ

第二章 法人

第一節 法人ノ設立

第三十三條 法人ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ成立スルコトヲ得ス

第三十四條 祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其他公益ニ關スル社團又ハ財團ニシテ營利ヲ目的トセサルモノハ主務官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ法人ト爲スコトヲ得

第三十五條 營利ヲ目的トスル社團ハ商會社設立ノ條件ニ從ヒ之ヲ法人ト爲スコトヲ得

前項ノ社團法人ニハ總テ商會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十六條 外國法人ハ國、國ノ行政區域及ヒ商會社ヲ除ク外其成立ヲ認可セズ但法律又ハ條約ニ依リテ認許セラレタルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リテ認許セラレタル外國法人ハ日本ニ成立スル同種ノ者ト同一ノ私權ヲ有ス但外國人カ享有スルコトヲ得サル權利及ヒ法律又ハ條約中ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第三十七條 社團法人ノ設立者ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 事務所
- 四 資産ニ關スル規定
- 五 理事ノ任免ニ關スル規定
- 六 社員タル資格ノ得喪ニ關スル規定

第三十八條 社團法人ノ定款ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ同意アルトキニ限り之ヲ變更スルコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニアラス

定款ノ變更ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス

第三十九條 財團法人ノ設立者ハ其設立ノ目的トスル寄附行爲ヲ以テ第三十七條第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

第四十條 財團法人ノ設立者カ其名稱、事務所又ハ理事任免ノ方法ヲ定メスシテ死亡シタルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第四十一條 生前處分ヲ以テ寄附行爲ヲ爲ストキハ贈與ニ關スル規定ヲ準用ス

遺言ヲ以テ寄附行爲ヲ爲ストキハ遺贈ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十二條 生前處分ヲ以テ寄附行爲ヲ爲シタルトキハ寄附財産ハ法人設立ノ許可アリタル時ヨ

リ法人ノ財産ヲ組成ス

遺言ヲ以テ寄附行爲ヲ爲シタルトキハ寄附財産ハ遺言カ效力ヲ生シタル時ヨリ法人ニ歸屬シタルモノト看做ス

第四十三條 法人ハ法令ノ規定ニ從ヒ定款又ハ寄附行爲ニ因リテ定マリタル目的ノ範圍内ニ於テ權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第四十四條 法人ハ理事其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責任ス

法人ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其事項ノ議決ヲ賛成シタル社員、理事及ヒ之ヲ履行シタル理事其他ノ代理人連帶シテ其賠償ノ責任ス

第四十五條 法人ハ其設立ノ日ヨリ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スコトヲ要ス

法人ノ設立ハ其主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

法人設立ノ後新ニ事務所ヲ設ケタルトキハ一週間内ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四十六條 登記スヘキ事項左ノ如シ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 事務所
- 四 設立許可ノ年月日
- 五 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

六 資産ノ總額

七 出資ノ方法ヲ定メタルトキハ其方法

八 理事ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ一週間内ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス登記前ニ在リテハ其變更ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十七條 第四十五條第一項及ヒ前條ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ニシテ官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其許可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第四十八條 法人カ其事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ一週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ同期間内ニ第四十六條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ事務所ヲ移轉シタルトキハ其移轉ノミノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四十九條 第四十五條第三項、第四十六條及ヒ前條ノ規定ハ外國法人カ日本ニ事務所ヲ設ケル場合ニモ亦之ヲ適用ス但外國ニ於テ生シタル事項ニ付テハ其通知ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

外國法人カ始メテ日本ニ事務所ヲ設ケタルトキハ其事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ他人ハ其法人ノ成立ヲ否認スルコトヲ得

第五十條 法人ノ住所ハ其主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第五十一條 法人ハ設立ノ時及ヒ毎年初ノ三ヶ月内ニ財産目錄ヲ作り當ニ之ヲ事務所ニ備ヘ置クコトヲ要ス但特ニ事業年度ヲ設クルモノハ設立ノ時及ヒ其年度ノ終ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要ス

社團法人ハ社員名簿ヲ備ヘ置キ社員ノ變更アル毎ニ之ヲ訂正スルコトヲ要ス

第二節 法人ノ管理

第五十二條 法人ニハ一人又ハ數人ノ理事ヲ置クコトヲ要ス

理事數人アル場合ニ於テ定款又ハ寄附行爲ニ別段ノ定ナキトキハ法人ノ事務ハ理事ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第五十三條 理事ハ總テ法人ノ事務ニ付キ法人ヲ代表ス但定款ノ規定又ハ寄附行爲ノ趣旨ニ違反スルコトヲ得ス又社團法人ニ在リテハ總會ノ決議ニ從フコトヲ要ス

第五十四條 理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十五條 理事ハ定款、寄附行爲又ハ總會ノ決議ニ依リテ禁止セラレサルトキニ限り特定ノ行爲ノ代理ヲ他人ニ委任スルコトヲ得

第五十六條 理事ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滯ノ爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ假理事ヲ選任ス

第五十七條 法人ト理事トノ利益相反スル事項ニ付テハ理事ハ代理權ヲ有セス此場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リテ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス

第五十八條 法人ニハ定款、寄附行爲又ハ總會ノ決議ヲ以テ一人又ハ數人ノ監事ヲ置クコトヲ得

第五十九條 監事ノ職務左ノ如シ
一 法人ノ財産ノ狀況ヲ監査スルコト
二 理事ノ業務執行ノ狀況ヲ監査スルコト
三 財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付キ不整ノ厩アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ總會又ハ主務

官廳ニ報告スルコト

四 前號ノ報告ヲ爲ス爲メ必要アルトキハ總會ヲ召集スルコト
 第六十條 社團法人ノ理事ハ少クとも毎年一回社員ノ通常總會ヲ開クコトヲ要ス
 第六十一條 社團法人ノ理事ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ召集スルコトヲ得

總社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ召集スルコトヲ要ス但此定數ハ定款ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得
 第六十二條 總會ノ召集ハ少クとも五日前ニ其會議ノ目的タル事項ヲ示シ定款ニ定メタル方法ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十三條 社團法人ノ事務ハ定款ヲ以テ理事其他ノ役員ニ委任シタルモノヲ除ク外總テ總會ノ決議ニ依リテ之ヲ行フ

第六十四條 總會ニ於テハ第六十二條ノ規定ニ依リテ豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ付テノ決議ヲ爲スコトヲ得但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第六十五條 各社員ノ表決權ハ平等ナルモノトス
 總會ニ出席セサル社員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ代理人ヲ出タスコトヲ得
 前二項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第六十六條 社團法人ト或社員トノ關係ニ付キ議決ヲ爲ス場合ニ於テハ其社員ハ表決權ヲ有セシ
 第六十七條 法人ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
 主務官廳ハ何時ニテモ職權ヲ以テ法人ノ業務及ヒ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第三節 法人ノ解散

第六十八條 法人ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 定款又ハ寄附行爲ヲ以テ定メタル解散事由ノ發生
- 二 法人ノ目的タル事業ノ成效又ハ其成效ノ不能
- 三 破産
- 四 設立許可ノ取消

社團法人ハ前項ニ掲ケタル場合ノ外左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 總會ノ決議
- 二 社員ノ死亡

第六十九條 社團法人ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ承諾アルニ非サレハ解散ノ決議ヲ爲スコトヲ得
 但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七十條 法人カ其債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ハ理事若クハ債權者ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テ理事ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス
 第七十一條 法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ設立ノ許可ヲ得タル條件ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其許可ヲ取消スコトヲ得

第七十二條 解散シタル法人ノ財産ハ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ指定シタル人ニ歸屬ス
 定款又ハ寄附行爲ヲ以テ歸屬權利者ヲ指定セス又ハ之ヲ指定スル方法ヲ定メサリシトキハ理事ハ主務官廳ノ許可ヲ得テ其法人ノ目的ニ類似セル目的ノ爲メニ其財産ヲ處分スルコトヲ得但社

團法人ニ在リテハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ依リテ處分セラレサル財産ハ國庫ニ歸屬ス

第七十三條 解散シタル法人ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ其清算ノ終了ニ至ルマテ尙ホ存續スルモノト看做ス

第七十四條 法人ガ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外理事其清算人ト爲ル但定款若クハ寄附行為ニ別段ノ定メアルトキ又ハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

第七十五條 前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキ又ハ清算人ノ缺ケタル爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第七十六條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第七十七條 清算人ハ破産ノ場合ヲ除ク外解散後一週内ニ其氏名、住所及ヒ解散ノ原因、年月日ノ登記ヲ爲シ又何レノ場合ニ於テモ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

清算中ニ就職シタル清算人ハ就職後一週内ニ其氏名、住所ノ登記ヲ爲シ且ツ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

第七十八條 清算人ノ職務左ノ如シ

- 一 現務ノ終了
- 二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟
- 三 殘餘財産ノ引渡

清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ行為ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 清算人ハ其就職ノ日ヨリ二个月内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ公告ニハ債權者カ期間内ニ申出ヲ爲ササルトキハ其債權ハ清算ヨリ除斥セラレヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但清算人ハ知レタル債權者ヲ除斥スルコトヲ得ス

清算人ハ知レタル債權者ニハ各別ニ其申出ヲ催告スルコトヲ要ス

第八十條 前條ノ期間後ニ申出テタル債權者ハ法人ノ債務完済ノ後未タ歸屬權利者ニ引渡ササル財産ニ對シテノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十一條 清算中ニ法人ノ財産カ其債務ヲ完済スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ清算人ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲シテ其旨ヲ公告スルコトヲ要ス

清算人ハ破産管財人ニ其事務ヲ引渡シタルトキハ其任ヲ終ハリタルモノトス

本條ノ場合ニ於テ既ニ債權者ニ支拂ヒ又ハ歸屬權利者ニ引渡シタルモノアルトキハ破産管財人ハ之ヲ取戻スコトヲ得

第八十二條 法人ノ解散及ヒ清算ハ裁判所ノ監督ニ屬ス

裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得

第八十三條 清算力結了シタルトキハ清算人ハ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

第四節 罰則

第八十四條 法人ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セ

ラル

- 一 本章ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 二 第五十一條ノ規定ニ違反シ又ハ財産目錄若クハ社員名簿ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 三 第六十七條又ハ第八十二條ノ場合ニ於テ主務官廳又ハ裁判所ノ検査ヲ妨ケタルトキ
- 四 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
- 五 第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 六 第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

第三章 物

第八十五條 本法ニ於テ物トハ有體物ヲ謂フ

第八十六條 土地及ヒ其ノ定著物ハ之ヲ不動産トス

此他ノ物ハ總テ之ヲ動産トス

無記名債權ハ之ヲ動産ト看做ス

第八十七條 物ノ所有者カ其物ノ常用ニ供スル爲メ自己ノ所有ニ屬スル他ノ物ヲ以テ之ニ附屬セシメタルトキハ其附屬セシメタル物ヲ從物トス

從物ハ主物ノ處分ニ隨フ

第八十八條 物ノ用方ニ從ヒ收取スル產出物ヲ天然果實トス

物ノ使用ノ對價トシテ受クヘキ金錢其他ノ物ヲ法定果實トス

第八十九條 天然果實ハ其元物ヨリ分離スル時ニ之ヲ收取スル權利ヲ有スル者ニ屬ス

法定果實ハ之ヲ收取スル權利ノ存續期間日割ヲ以テ之ヲ取得ス

第四章 法律行爲

第一節 總則

第九十條 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行爲ハ無効トス

第九十一條 法律行爲ノ當事者カ法令中ノ公ノ秩序ニ關セサル規定ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第九十二條 法令中ノ公ノ秩序ニ關セサル規定ニ異ナリタル慣習アル場合ニ於テ法律行爲ノ當事者カ之ニ依ル意思ヲ有セサルモノト認ムヘキトキハ其慣習ニ從フ

第二節 意思表示

第九十三條 意思表示ハ表意者カ其眞意ニ非サルコトヲ知リテ之ヲ爲シタル爲メ其效力ヲ妨ケラレルコトナシ但相手方カ表意者ノ眞意ヲ知り又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ其意思表示ハ無効トス

第九十四條 相手方ト通シテ爲シタル虛偽ノ意思表示ハ無効トス

前項ノ意思表示ノ無効ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第九十五條 意思表示ハ法律行爲ノ要素ニ錯誤アリタルトキハ無効トス但表意者ニ重大ナル過失アリタルトキハ表意者自ラ其無効ヲ主張スルコトヲ得ス

第九十六條 詐欺又ハ強迫ニ因ル意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得

或人ニ對スル意思表示ニ付キ第三者カ詐欺ヲ行ヒタル場合ニ於テハ相手方カ其事實ヲ知りタルトキニ限り其意思表示ヲ取消スコトヲ得

詐欺ニ因ル意思表示ノ取消ノ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第九十七條 隔地者ニ對スル意思表示ハ其通知ノ相手方ニ到達シタル時ヨリ其效力ヲ生ス

表意者カ通知ヲ發シタル後ニ死亡シ又ハ能力ヲ失フモ意思表示ハ之カ爲ニ其效力ヲ妨ケララルコトナシ

第九十八條 意思表示ノ相手方カ之ヲ受ケタル時ニ未成年者又ハ禁治産者ナリシトキハ其意思表示ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ス但其法定代理人カ之ヲ知リタル後ハ此限ニ在ラス

第三節 代理

第九十九條 代理人カ其權限内ニ於テ本人ノ爲メニスルコトヲ示シテ爲シタル意思表示ハ直接ニ本人ニ對シテ其效力ヲ生ス

前項ノ規定ハ第三者カ代理人ニ對シテ爲シタル意思表示ニ之ヲ準用ス

第一百條 代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示サスシテ爲シタル意思表示ハ自己ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス但相手方カ其本人ノ爲メニスルコトヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

第一百一條 意思表示ノ效力カ意思ノ欠缺、詐欺、強迫又ハ或事情ヲ知リタルコト若クハ之ヲ知ラサル過失アリタルコトニ因リテ影響ヲ受クヘキ場合ニ於テ其實質ノ有無ハ代理人ニ付キ之ヲ定ム
特定ノ法律行爲ヲ爲スコトヲ委託セラレタル場合ニ於テ代理人カ本人ノ指圖ニ從ヒ其行爲ヲ爲シタルトキハ本人ハ其自ラ知リタル事情ニ付キ代理人ノ不知ヲ主張スルコトヲ得ス其過失ニ因リテ知ラザリシ事情ニ付キ亦同シ

第一百二條 代理人ハ能力者タルコトヲ要セス

第一百三條 權限ノ定ナキ代理人ハ左ノ行爲ノミヲ爲ス權限ヲ有ス

一 保存行爲

二 代理ノ目的タル物又ハ權利ノ性質ヲ變セサル範圍内ニ於テ其利用又ハ改良ヲ目的トスル行爲

第一百四條 委任ニ因ル代理人ハ本人ノ許諾ヲ得タルトキ又ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキニ非サレハ復代理人ヲ選任スルコトヲ得ス

第一百五條 代理人カ前條ノ場合ニ於テ復代理人ヲ選任シタルトキハ選任及ヒ監督ニ付キ本人ニ對シテ其責ニ任ス

代理人カ本人ノ指名ニ從ヒテ復代理人ヲ選任シタルトキハ其不適任又ハ不誠實ナルコトヲ知リテ之ヲ本人ニ通知シ又ハ之ヲ解任スルコトヲ怠リタルニ非サレハ其責ニ任セス

第一百六條 法定代理人ハ其責任ヲ以テ復代理人ヲ選任スルコトヲ得但已ムコトヲ得サル事由アリタルトキハ前條第一項ニ定メタル責任ノミヲ負フ

第一百七條 復代理人ハ其權限内ノ行爲ニ付キ本人ヲ代表ス
復代理人ハ本人及ヒ第三者ニ對シテ代理人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第一百八條 何人ト雖モ同一ノ法律行爲ニ付キ其相手方ノ代理人ト爲リ又ハ當事者雙方ノ代理人ト爲ルコトヲ得ス但債務ノ履行ニ付テハ此限ニ在ラス

第一百九條 第三者ニ對シテ他人ニ代理權ヲ與ヘタル旨ヲ表示シタル者ハ其代理權ノ範圍内ニ於テ其他トノ第三者トノ間ニ爲シタル行爲ニ付キ其責ニ任ス

第一百十條 代理人カ其權限外ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者カ其權限アリト信スヘキ正當ノ

理由ヲ有セシトキハ前條ノ規定ヲ準用ス
第百十一條 代理權ハ左ノ事由ニ因リテ消滅ス

- 一 本人ノ死亡
- 二 代理人ノ死亡、禁治產又ハ破產

此他委任ニ因ル代理權ハ委任ノ終了ニ因リテ消滅ス

第百十二條 代理權ノ消滅ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但第三者カ過失ニ因リテ其事實ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス

第百十三條 代理權ヲ有セサル者カ他人ノ代理人トシテ爲シタル契約ハ本人カ其追認ヲ爲スニ非サレハ之ニ對シテ其效力ヲ生セス

追認又ハ其拒絕ハ相手方ニ對シテ之ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得ス但相手方カ其事實ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第百十四條 前條ノ場合ニ於テ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ追認ヲ爲スヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ本人ニ催告スルコトヲ得若シ本人カ其期間内ニ確答ヲ爲ササルトキハ追認ヲ拒絕シタルモノト看做ス

第百十五條 代理權ヲ有セサル者ノ爲シタル契約ハ本人ノ追認ナキ間ハ相手方ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得但契約ノ當時相手方カ代理權ナキコトヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第百十六條 追認ハ別段ノ意思表示ナキトキハ契約ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第百十七條 他人ノ代理人トシテ契約ヲ爲シタル者カ其代理權ヲ證明スルコト能ハス且本人ノ追

認ヲ得ザリシトキハ相手方ノ選擇ニ從ヒ之ニ對シテ履行又ハ損害賠償ノ責ニ任ス

前項ノ規定ハ相手方カ代理權ナキコトヲ知リタルトキ若クハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキ又ハ代理人トシテ契約ヲ爲シタル者カ其能力ヲ有セザリシトキハ之ヲ適用セス

第百十八條 單獨行爲ニ付テハ其行爲ノ當時相手方カ代理人ト稱スル者ノ代理權ナクシテ之ヲ爲スコトニ同意シ又ハ其代理權ヲ爭ハザリシトキニ限り前五條ノ規定ヲ準用ス代理權ヲ有セサル者ニ對シ其同意ヲ得テ單獨行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

第四節 無効及ヒ取消

第百十九條 無効ノ行爲ハ追認ニ因リテ其效力ヲ生セス但當事者カ其無効ナルコトヲ知リテ追認ヲ爲シタルトキハ新ナル行爲ヲ爲シタルモノト看做ス

第百二十條 取消シ得ヘキ行爲ハ無能力者若クハ瑕疵アル意思表示ヲ爲シタル者、其代理人又ハ承繼人ニ限り之ヲ取消スコトヲ得

妻カ爲シタル行爲ハ亦之ヲ取消スコトヲ得

第百二十一條 取消シタル行爲ハ初ヨリ無効ナリシモノト看做ス但無能力者ハ其行爲ニ因リテ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ償還ノ義務ヲ負フ

第百二十二條 取消シ得ヘキ行爲ハ第百二十條ニ掲ケタル者カ之ヲ追認シタルトキハ初ヨリ有效ナリシモノト看做ス但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第百二十三條 取消シ得ヘキ行爲ノ相手方カ確定セル場合ニ於テ其取消又ハ追認ハ相手方ニ對スル意思表示ニ因リテ之ヲ爲ス

第百二十四條 追認ハ取消ノ原因タル情況ノ止ミタル後之ヲ爲スニ非サレハ其效ナシ

禁治産者カ能力ヲ回復シタル後其行爲ヲ了知シタルトキハ其了知シタル後ニ非サレハ追認ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ夫又ハ法定代理人カ追認ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

第二百二十五條 前條ノ規定ニ依リ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ後取消シ得ヘキ行爲ニ付キ左ノ事實アリタルトキハ追認ヲ爲シタルモノト看做ス但異議ヲ留メタルトキハ此限ニ在ラス

一 全部又ハ一部ノ履行

二 履行ノ請求

三 更改

四 擔保ノ供與

五 取消シ得ヘキ行爲ニ因リテ取消シタル權利ノ全部又ハ一部ノ讓渡

六 強制執行

第二百二十六條 取消權ハ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第五節 條件及ヒ期限

第二百二十七條 停止條件附法律行爲ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生ス

解除條件附法律行爲ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ失フ

當事者カ條件成就ノ效果ヲ其成就以前ニ遡ラシムル意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第二百二十八條 條件附法律行爲ノ各當事者ハ條件ノ成否未定ノ間ニ於テ條件ノ成就ニ因リ其行爲ヨリ生スヘキ相手方ノ利益ヲ害スルコトヲ得ス

第二百二十九條 條件ノ成否未定ノ間ニ於ケル當事者ノ權利義務ハ一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分、相續、保存又ハ擔保スルコトヲ得

第二百三十條 條件ノ成就ニ因リテ不利益ヲ受クヘキ當事者カ故意ニ其條件ノ成就ヲ妨ケタルトキ

ハ相手方ハ其條件ヲ成就シタルモノト看做スコトヲ得

第二百三十一條 條件カ法律行爲ノ當時既ニ成就セル場合ニ於テ其條件カ停止條件ナルトキハ其法律

行爲ハ無條件トシ解除條件ナルトキハ無條件トス

條件ノ不成就カ法律行爲ノ當時既ニ確定セル場合ニ於テ其條件カ停止條件ナルトキハ其法律行

爲ハ無條件トシ解除條件ナルトキハ無條件トス

前二項ノ場合ニ於テ當事者カ條件ノ成就又ハ不成就ヲ知ラサル間ハ第二百二十八條及ヒ第二百二十

九條ノ規定ヲ適用ス

第二百三十二條 不法ノ條件ヲ附シタル法律行爲ハ無効トス不法行爲ヲ爲ササルヲ以テ條件トスル

者亦同シ

第二百三十三條 不能ノ停止條件ヲ附シタル法律行爲ハ無効トス

不能ノ解除條件ヲ附シタル法律行爲ハ無條件トス

第二百三十四條 停止條件附法律行爲ハ其條件カ單ニ債務者ノ意思ノミニ係ルトキハ無効トス

第二百三十五條 法律行爲ニ始期ヲ附シタルトキハ其法律行爲ノ履行ハ期限ノ到來スルマテ之ヲ請

求スルコトヲ得ス

法律行爲ニ終期ヲ附シタルトキハ其法律行爲ノ效力ハ期限ノ到來シタル時ニ於テ消滅ス

第二百三十六條 期限ハ債務者ノ利益ノ爲メニ定メタルモノト推定ス

期限ノ利益ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得但之カ爲メニ相手方ノ利益ヲ害スルコトヲ得ス
第三百十七條 左ノ場合ニ於テハ債務者ハ期限ノ利益ヲ主張スルコトヲ得ス
一 債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
二 債務者カ擔保ヲ毀滅シ又ハ之ヲ減少シタルトキ
三 債務者カ擔保ヲ供スル義務ヲ負フ場合ニ於テ之ヲ供セザルトキ

第五章 期間

第三百十八條 期間ノ計算法ハ法令、裁判上ノ命令又ハ法律行爲ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外本章ノ規定ニ從フ

第三百十九條 期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ即時ヨリ起算ス
第四百十條 期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セス但

其期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ此限ニ在ラス

第四百十一條 前條ノ場合ニ於テハ期間ノ末日ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トス

第四百十二條 期間ノ末日カ大祭日、日曜日其他ノ休日ニ當タルトキハ其日ニ取引ヲ爲サザル慣習アル場合ニ限り期間ハ其翌日ヲ以テ滿了ス

第四百十三條 期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス
週、月又ハ年ノ始ヨリ期間ヲ起算セザルトキハ其期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ其起算日ニ

應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其月ノ末日ヲ以テ滿了トス

第六章 時效

第一節 總則

第四百十四條 時效ノ效力ハ其起算日ニ遡ル

第四百十五條 時效ハ當事者カ之ヲ援用スルニ非サレハ裁判所之ニ依リテ裁判ヲ爲スコトヲ得ス

第四百十六條 時效ノ利益ハ豫メ之ヲ拋棄スルコトヲ得ス

第四百十七條 時效ハ左ノ事由ニ因リテ中斷ス

一 請求

二 差押、假差押又ハ假處分

三 承認

第四百十八條 前條ノ時效中斷ハ當事者及ヒ其承繼人ノ間ニ於テノミ其效力ヲ有ス

第四百十九條 裁判上ノ請求ハ訴ノ却下又ハ取下ノ場合ニ於テハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

第四百十條 支拂命令ハ權利拘束カ其效力ヲ失フトキハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

第四百十一條 和解ノ爲メニスル呼出ハ相手方カ出頭セス又ハ和解ノ調ハザルトキハ一个月内ニ

訴ヲ提起スルニ非サレハ時效中斷ノ效力ヲ生セス任意出頭ノ場合ニ於テ和解ノ調ハザルトキ亦

同シ

第四百十二條 破産手續參加ハ債權者カ之ヲ取消シ又ハ其請求カ却下セラレタルトキハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

第四百十三條 催告ハ六个月内ニ裁判上ノ請求、和解ノ爲メニスル呼出若クハ任意出頭、破産手續參加、差押、假差押又ハ假處分ヲ爲スニ非サレハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

第四百十四條 差押、假差押及ヒ假處分ハ權利者ノ請求ニ因リ又ハ法律ノ規定ニ從ハサルニ因リ

テ取消サレタルトキハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

第五百五十五條 差押、假差押及ヒ假處分ハ時效ノ利益ヲ受クル者ニ對シテ之ヲ爲ササルトキハ之ヲ其者ニ通知シタル後ニ非サレハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

第五百五十六條 時效中斷ノ效力ヲ生スヘキ承認ヲ爲スニハ相手方ノ權利ニ付キ處分ノ能力又ハ權限アルコトヲ要セス

第五百五十七條 中斷シタル時效ハ其中斷ノ事由ノ終了シタル時ヨリ更ニ其進行ヲ始ム

裁判上ノ請求ニ因リテ中斷シタル時效ハ裁判ノ確定シタル時ヨリ更ニ其進行ヲ始ム

第五百五十八條 時效ノ期間満了前六个月内ニ於テ未成年者又ハ禁治産者カ法定代理人ヲ有セザリシトキハ其者カ能力者ト爲リ又ハ法定代理人カ就職シタル時ヨリ六个月内ハ之ニ對シテ時效完成セス

第五百五十九條 無能力者カ其財産ヲ管理スル父、母又ハ後見人ニ對シテ有スル權利ニ付テハ能力者ト爲リ又ハ後任ノ法定代理人カ就職シタル時ヨリ六个月内ハ時效完成セス

妻カ夫ニ對シテ有スル權利ニ付テハ婚姻解消ノ時ヨリ六个月内亦同シ

第六十條 相続財産ニ關シテハ相続人ノ確定シ、管理人ノ選任セラレ又ハ破産ノ宣告アリタル時ヨリ六个月内ハ時效完成セス

第六十一條 時效ノ期間満了ノ時ニ當タリ天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メ時效ヲ中斷スルコト能ハサルトキハ其妨礙ノ止ミタル時ヨリ二週間内ハ時效完成セス

第二節 取得時效

第六十二條 二十年間所有ノ意思ヲ以テ平穩且公然ニ他人ノ物ヲ占有シタル者ハ其所有權ヲ取得ス

得ス

十年間所有ノ意思ヲ以テ平穩且公然ニ他人ノ不動産ヲ占有シタル者カ其占有ノ始善意ニシテ且過失ナカリシトキハ其不動産ノ所有權ヲ取得ス

第六十三條 所有權以外ノ財産權ヲ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ平穩且公然ニ行使スル者ハ前條ノ區別ニ從ヒ二十年又ハ十年ノ後其權利ヲ取得ス

第六十四條 第六十二條ノ時效ハ占有者カ任意ニ其占有ヲ中止シ又ハ他人ノ爲メニ之ヲ奪ハレタルトキハ中斷ス

第六十五條 前條ノ規定ハ第六十三條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三節 消滅時效

第六十六條 消滅時效ハ權利ヲ行使スルコトヲ得ル時ヨリ進行ス

前項ノ規定ハ始期附又ハ停止條件附權利ノ目的物ヲ占有スル第三者ノ爲メニ其占有ノ時ヨリ取得時效ノ進行スルコトヲ妨グス但權利者ハ其時效ヲ中斷スル爲メ何時ニテモ占有者ノ承認ヲ求ムルコトヲ得

第六十七條 債權ハ十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

債權又ハ所有權ニ非サル財産權ハ二十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第六十八條 定期金ノ債權ハ第一回ノ辨濟期ヨリ二十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス最後ノ辨濟期ヨリ十年間之ヲ行ハサルトキ亦同シ

定期金ノ債權者ハ時效中斷ノ證ヲ得ル爲メ何時ニテモ其債務者ノ承認書ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 年又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル債權ハ五

年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第百七十條 左ニ掲ケタル債權ハ三年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一 醫師、產婆及ヒ藥劑師ノ治術、勤勞及ヒ調劑ニ關スル債權

起算ス

第百七十一條 辯護士ハ事件終了ノ時ヨリ公證人及ヒ執達吏ハ其職務執行ノ時ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ其職務ニ關シテ受取リタル書類ニ付キ其責ヲ免ル

第百七十二條 辯護士、公證人及ヒ執達吏ノ職務ニ關スル債權ハ其原因タル事件終了ノ時ヨリ二年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス但其事中ノ各事項終了ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ右ノ期間内ト雖モ其事項ニ關スル債權ハ消滅ス

第百七十三條 左ニ掲ケタル債權ハ二年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一 生産者、卸賣商人及ヒ小賣商人カ賣却シタル產物及ヒ商品ノ代價

二 居職人及ヒ製造人ノ仕事ニ關スル債權

三 生徒及ヒ習業生ノ教育、衣食及ヒ住宿ノ代料ニ關スル校主、塾主、教師及ヒ師匠ノ債權

第百七十四條 左ニ掲ケタル債權ハ一年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一 月又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル雇人ノ給料

二 勞力者及ヒ藝人ノ賃金並ニ其供給シタル物ノ代價

三 運送賃

四 旅店、料理店、貸席及ヒ娯遊場ノ宿泊料、飲食料、席料、木戸錢、消費物代價並ニ立替金

五 動産ノ損料

第二編 物 權

第一章 總 則

第百七十五條 物權ハ本法其他ノ法律ニ定ムルモノノ外之ヲ創設スルコトヲ得ス

第百七十六條 物權ノ設定及ヒ移轉ハ當事者ノ意思表示ノミニ因リテ其效力ヲ生ス

第百七十七條 不動産ニ關スル物權ノ得喪及ヒ變更ハ登記法ノ定ムル所ニ從ヒ其登記ヲ爲スニ非

サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第百七十八條 動産ニ關スル物權ノ讓渡ハ其動産ノ引渡アルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗ス

ルコトヲ得ス

第百七十九條 同一物ニ付キ所有權及ヒ他ノ物權カ同一人ニ歸シタルトキハ其物權ハ消滅ス但其

物又ハ其物權カ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ此限ニ在ラス

所有權以外ノ物權及ヒ之ヲ目的トスル他ノ權利カ同一人ニ歸シタルトキハ其權利ハ消滅ス此場

合ニ於テハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ占有權ニハ之ヲ適用セス

第二章 占有權

第一節 占有權ノ取得

第百八十條 占有權ハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ物ヲ所持スルニ因リテ之ヲ取得ス

第百八十一條 占有權ハ代理人ニ依リテ之ヲ取得スルコトヲ得

第百八十二條 占有權ノ讓渡ハ占有物ノ引渡ニ依リテ之ヲ爲ス

讓受人又ハ其代理人カ現ニ占有物ヲ所持スル場合ニ於テハ占有權ノ讓渡ハ當事者ノ意思表示ノミニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第百八十三條 代理人カ自己ノ占有物ヲ爾後本人ノ爲メニ占有スヘキ意思ヲ表示シタルトキハ本人ハ之ニ因リテ占有權ヲ取得ス

第百八十四條 代理人ニ依リテ占有ヲ爲ス場合ニ於テ本人カ其代理人ニ對シ爾後第三者ノ爲メニ其物ヲ占有スヘキ旨ヲ命シ第三者之ヲ承諾シタルトキハ其第三者ハ占有權ヲ取得ス

第百八十五條 權原ノ性質上占有者ニ所有ノ意思ナキモノトスル場合ニ於テハ其占有者カ自己ニ占有ヲ爲サシメタル者ニ對シ所有ノ意思アルコトヲ表示シ又ハ新權原ニ因リ更ニ所有ノ意思ヲ以テ占有ヲ始ムルニ非サレハ占有ハ其性質ヲ變セス

第百八十六條 占有者ハ所有ノ意思ヲ以テ善意、平穩且公然ニ占有ヲ爲スモノト推定ス
前後兩時ニ於テ占有ヲ爲シタル證據アルトキハ占有ハ其間繼續シタルモノト推定ス

第百八十七條 占有者ノ承繼人ハ其選擇ニ從ヒ自己ノ占有ノミヲ主張シ又ハ自己ノ占有ニ前主ノ占有ヲ併セテ之ヲ主張スルコトヲ得

前主ノ占有ヲ併セテ主張スル場合ニ於テハ其瑕疵モ亦之ヲ承繼ス

第二節 占有權ノ效力

第百八十八條 占有者カ占有物ノ上ニ行使スル權利ハ之ヲ適法ニ有スルモノト推定ス
第百八十九條 善意ノ占有者ハ占有物ヨリ生スル果實ヲ取得ス

善意ノ占有者カ本權ノ訴ニ於テ敗訴シタルトキハ其起訴ノ時ヨリ惡意ノ占有者ト看做ス
第百九十條 惡意ノ占有者ハ果實ヲ返還シ且其既ニ消費シ、過失ニ因リテ毀損シ又ハ收取ヲ怠リ

タル果實ノ代價ヲ償還スル義務ヲ負フ

前項ノ規定ハ強暴又ハ隱秘ニ因ル占有者ニ之ヲ準用ス

第百九十一條 占有物カ占有者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ惡意ノ占有者ハ其回復者ニ對シ其損害ノ全部ヲ賠償スル義務ヲ負ヒ善意ノ占有者ハ其滅失又ハ毀損ニ因リテ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ賠償ヲ爲ス義務ヲ負フ但所有ノ意思ナキ占有者ハ其善意ナルトキト雖モ全部ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第百九十二條 平穩且公然ニ動産ノ占有ヲ始メタル者カ善意ニシテ且過失ナキトキハ即時ニ其動産ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

第百九十三條 前條ノ場合ニ於テ占有物カ盜品又ハ遺失物ナルトキハ被害者又ハ遺失主ハ盜難又ハ遺失ノ時ヨリ二年間占有者ニ對シテ其物ノ回復ヲ請求スルコトヲ得

第百九十四條 占有者カ盜品又ハ遺失物ヲ競賣若クハ公ノ市場ニ於テ又ハ其物ト同種ノ物ヲ販賣スル商人ヨリ善意ニテ買受ケタルトキハ被害者又ハ遺失主ハ占有者カ拂ヒタル代價ヲ辨償スルニ非サレハ其物ヲ回復スルコトヲ得ス

第百九十五條 他人カ飼養セシ家畜外ノ動物ヲ占有スル者ハ其占有ノ始善意ニシテ且逃失ノ時ヨリ一个月内ニ飼養生ヨリ回復ノ請求ヲ受ケサルトキハ其動物ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

第百九十六條 占有者カ占有物ヲ返還スル場合ニ於テハ其物ノ保存ノ爲メニ費シタル金額其他ノ必要費ヲ回復者ヨリ償還セシムルコトヲ得但占有者カ果實ヲ取得シタル場合ニ於テハ通常ノ必要費ハ其負擔ニ歸ス

占有者カ占有物ノ改良ノ爲メニ費シタル金額其他ノ有益費ニ付テハ其價格ノ增加カ現存スル場

合ニ限り回復者ノ選擇ニ從ヒ其設シタル金額又ハ増價額ヲ償還セシムルコトヲ得但惡意ノ占有者ニ對シテハ裁判所ハ回復者ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第九十七條 占有者ハ後五條ノ規定ニ從ヒ占有ノ訴ヲ提起スルコトヲ得他人ノ爲メニ占有ヲ爲ス者亦同シ

第九十八條 占有者カ其占有ヲ妨害セラレタルトキハ占有保持ノ訴ニ依リ其妨害ノ停止及ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第九十九條 占有者カ其占有ヲ妨害セラレタルトキハ占有保全ノ訴ニ依リ其妨害ノ豫防又ハ損害賠償ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

第一百條 占有者カ其占有ヲ奪ハレタルトキハ占有回復ノ訴ニ依リ其物ノ返還及ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

占有回復ノ訴ハ侵奪者ノ特定承繼人ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス但其承繼人カ侵奪ノ事實ヲ知りタルトキハ此限ニ在ラス

第一百一條 占有保持ノ訴ハ妨害ノ存スル間又ハ其止ミタル後一年內ニ之ヲ提起スルコトヲ得但工事ニ因リ占有物ニ損害ヲ生シタル場合ニ於テ其工事著手ノ時ヨリ一年ヲ經過シ又ハ其工事ノ竣成シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

占有保全ノ訴ハ妨害ノ危險ノ存スル間ハ之ヲ提起スルコトヲ得但工事ニ因リ占有物ニ損害ヲ生スル虞アルトキハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

占有回復ノ訴ハ侵奪ノ時ヨリ一年內ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第一百二條 占有ノ訴ハ本權ノ訴ト互ニ相妨クルコトナシ

占有ノ訴ハ本權ニ關スル理由ニ基キテ之ヲ裁判スルコトヲ得ス

第三節 占有權ノ消滅

第二百三條 占有權ハ占有者カ占有ノ意思ヲ拋棄シ又ハ占有物ノ所持ヲ失フニ因リテ消滅ス但占有者カ占有回復ノ訴ヲ提起シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百四條 代理人ニ依リテ占有ヲ爲ス場合ニ於テハ占有權ハ左ノ事由ニ因リテ消滅ス

一 本人カ代理人ヲシテ占有ヲ爲サシムル意思ヲ拋棄シタルコト

二 代理人カ本人ニ對シ爾後自己又ハ第三者ノ爲メニ占有物ヲ所持スルキ意思ヲ表示シタルコト

三 代理人カ占有物ノ所持ヲ失ヒタルコト

占有權ハ代理權ノ消滅ノミニ因リテ消滅セス

第二百五條 本章ノ規定ハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ財產權ノ行使ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三章 所有權

第一節 所有權ノ限界

第二百六條 所有者ハ法令ノ制限內ニ於テ自由ニ其所有物ノ使用、收益及ヒ處分ヲ爲ス權利ヲ有ス

第二百七條 土地ノ所有權ハ法令ノ制限內ニ於テ其土地ノ上下ニ及ブ

第二百八條 數人ニテ一棟ノ建物ヲ區分シ各其一部ヲ所有スルトキハ建物及ヒ其附屬物ノ共用部分ハ其共有ニ屬スルモノト推定ス

共用部分ノ修繕費其他ノ負擔ハ各自ノ所有部分ノ價格ニ應シテ之ヲ分ツ

第二百九條 土地ノ所有者ハ疆界又ハ其近傍ニ於テ牆壁若クハ建築物ヲ築造シ又ハ之ヲ修繕スル爲メ必要ナル範圍内ニ於テ隣地ノ使用ヲ請求スルコトヲ得但隣人ノ承諾アルニ非サレハ其住家ニ立入ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ隣人カ損害ヲ受ケタルトキハ其價金ヲ請求スルコトヲ得

第二百十條 或土地カ他ノ土地ニ圍繞セラレテ公路ニ通セサルトキハ其土地ノ所有者ハ公路ニ至ル爲メ圍繞地ヲ通行スルコトヲ得

池沼、河渠若クハ海洋ニ由リニ非サレハ他ニ通スルコト能ハス又ハ崖岸アリテ土地ト公路ト著シキ高低ヲ爲ストキ亦同シ

第二百十一條 前條ノ場合ニ於テ通行ノ場所及ヒ方法ハ通行權ヲ有スル者ノ爲メニ必要ニテ且圍繞地ノ爲メニ損害最少キモノヲ選フコトヲ要ス

通行權ヲ有スル者ハ必要アルトキハ通路ヲ開設スルコトヲ得

第二百十二條 通行權ヲ有スル者ハ通行地ノ損害ニ對シテ價金ヲ拂フコトヲ要ス但通路開設ノ爲メニ生シタル損害ニ對スルモノヲ除ク外一年毎ニ其價金ヲ拂フコトヲ得

第二百十三條 分割ニ因リ公路ニ通セサル土地ヲ生シタルトキハ其土地ノ所有者ハ公路ニ至ル爲メ他ノ分割者ノ所有地ヲ以テ通行スルコトヲ得此場合ニ於テハ價金ヲ拂フコトヲ要セス

前項ノ規定ハ土地ノ所有者カ其土地ノ一部ヲ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百十四條 土地ノ所有者ハ隣地ヨリ水ノ自然ニ流シ來ルヲ妨クルコトヲ得ス

第二百十五條 水流カ事變ニ因リ低地ニ於テ阻滯シタルトキハ高地ノ所有者ハ自費ヲ以テ其疏通

ニ必要ナル工事ヲ爲スコトヲ得

第二百十六條 甲地ニ於テ貯水、排水又ハ引水ノ爲メニ設ケタル工作物ノ破潰又ハ阻塞ニ因リテ乙地ニ損害ヲ及ボシ又ハホス處アルトキハ乙地ノ所有者ハ甲地ノ所有者ヲシテ修繕若クハ疏通ヲ爲サシメ又必要アルトキハ豫防工事ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百十七條 前二條ノ場合ニ於テ費用ノ負擔ニ付キ別段ノ慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百十八條 土地ノ所有者ハ直チニ雨水ヲ隣地ニ注瀉セシムヘキ屋根其他ノ工作物ヲ設ケルコトヲ得ス

第二百十九條 溝渠其他ノ水流地ノ所有者ハ對岸ノ土地カ他人ノ所有ニ屬スルトキハ其水路又ハ幅員ヲ變スルコトヲ得ス

兩岸ノ土地カ水流地ノ所有者ニ屬スルトキハ其所有者ハ水路及ヒ幅員ヲ變スルコトヲ得但下口ニ於テ自然ノ水路ニ復スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百二十條 高地ノ所有者ハ浸水地ヲ乾カス爲メ又ハ家用若クハ農工業用ノ餘水ヲ排泄スル爲メ公路、公溝又ハ下水道ニ至ルマテ低地ニ水ヲ通過セシムルコトヲ得但低地ノ爲メニ損害最少ノ場所及ヒ方法ヲ選フコトヲ要ス

第二百二十一條 土地ノ所有者ハ其所有地ノ水ヲ通過セシムル爲メ高地又ハ低地ノ所有者カ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ他人ノ工作物ヲ使用スル者ハ其利益ヲ受ケル割合ニ應シテ工作物ノ設置及ヒ保存ノ費用ヲ分擔スルコトヲ要ス

第二百二十二條 水流地上所有者ハ堰ヲ設ケル需要アルトキハ其堰ヲ對岸ニ附着セシムルコトヲ得但之ニ因リテ生シタル損害ニ對シテ償金ヲ拂フコトヲ要ス

對岸ノ所有者ハ水流地ノ一部ヲ其所有ニ屬スルトキハ右ノ堰ヲ使用スルコトヲ得但前條ノ規定ニ從ヒ費用ヲ分擔スルコトヲ要ス

第二百二十三條 土地ノ所有者ハ隣地ノ所有者ト共同ノ費用ヲ以テ疆界ヲ標示スヘキ物ヲ設ケルコトヲ得

第二百二十四條 界標ノ設置及ヒ保存ノ費用ハ相隣者平分シテ之ヲ負擔ス但測量ノ費用ハ其土地ノ廣狹ニ應シテ之ヲ分擔ス

第二百二十五條 二棟ノ建物ハ其所有者ナ異ニシ且其間ニ空地アルトキハ各所有者ハ他ノ所有者ト共同ノ費用ヲ以テ其疆界ニ圍障ヲ設ケルコトヲ得

當事者ノ協議調ハサルトキハ前項ノ圍障ハ板屏又ハ竹垣ニシテ高サ六尺タルコトヲ要ス

第二百二十六條 圍障ノ設置及ヒ保存ノ費用ハ相隣者平分シテ之ヲ負擔ス

第二百二十七條 相隣者ノ一人ハ第二百二十五條第二項ニ定メタル材料ヨリ良好ナルモノヲ用キ又ハ高サヲ増シテ圍障ヲ設ケルコトヲ得但之ニ因リテ生スル費用ノ増額ヲ負擔スルコトヲ要ス

第二百二十八條 前三條ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從ス

第二百二十九條 疆界線上ニ設ケタル界標、圍障、牆壁及ヒ溝渠ハ相隣者ノ共有ニ屬スルモノト推定ス

第二百三十條 一棟ノ建物ノ部分ヲ成ス疆界線上ノ牆壁ニハ一條ノ規定ヲ適用セス
高サノ不同ナル二棟ノ建物ヲ隔ツル牆壁ノ低キ建物ヲ踰ユル部分亦同シ但防火牆壁ハ此限ニ在

ラス

第二百三十一條 相隣者ノ一人ハ共有ノ牆壁ノ高サヲ増スコトヲ得但其牆壁カ此工事ニ耐ヘサル

トキハ自費ヲ以テ工作ヲ加ヘ又ハ其牆壁ヲ改築スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ牆壁ノ高サヲ増シタル部分ハ其工事ヲ爲シタル者ノ專有ニ屬ス

第二百三十二條 前條ノ場合ニ於テ隣人カ損害ヲ受ケタルトキハ其償金ヲ請求スルコトヲ得

第二百三十三條 隣地ノ竹木ノ枝カ疆界線ヲ踰ユルトキハ其竹木ノ所有者ヲシテ其枝ヲ削除セシムルコトヲ得

隣地ノ竹木ノ根カ疆界線ヲ踰ユルトキハ之ヲ截取スルコトヲ得

第二百三十四條 建物ヲ築造スルニハ疆界線ヨリ一尺五寸以上ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ違ヒテ建築ヲ爲サントスル者アルトキハ隣地ノ所有者ハ其建築ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得但建築者手時ヨリ一年ヲ經過シ又ハ其建物ノ竣成シタル後ハ損害賠償ノ請求ノミヲ爲スコトヲ得

第二百三十五條 疆界線ヨリ三尺未満ノ距離ニ於テ他人ノ宅地ヲ觀望スヘキ窓又ハ棧側ヲ設ケル者ハ目隠ヲ附スルコトヲ要ス

前項ノ距離ハ窓又ハ棧側ノ最も隣地ニ近キ點ヨリ直角線ニテ窓界線ニ至ルマテテ測算ス

第二百三十六條 前二條ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百三十七條 井戸、用水溜、下水溜又ハ肥料溜ヲ穿ツニハ疆界線ヨリ六尺以上池、地窖又ハ廁

坑ヲ穿ツニハ三尺以上ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス
水樋ヲ埋メ又ハ溝渠ヲ穿ツニハ疆界線ヨリ其深サノ半以上ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス但三尺ヲ

諭エルトトヲ要セス
 第二百三十八條 疆界線ノ近傍ニ於テ前條ノ工事ヲ爲ストキハ土砂ノ崩壞又ハ水若クハ汚液ノ滲漏ヲ防クニ必要ナル注意ヲ爲スコトヲ要ス

第二節 所有權ノ取消

第二百三十九條 無主ノ動産ハ所有ノ意思ヲ以テ之ヲ占有スルニ因リテ其所有權ヲ取得ス
 無主ノ不動産ハ國庫ノ所有ニ屬ス

第二百四十條 遺失物ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ公告ヲ爲シタル後一年內ニ其所有者ノ知レサルトキハ拾得者其所有權ヲ取得ス

第二百四十二條 埋藏物ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ公告ヲ爲シタル後六個月內ニ其所有者ノ知レサルトキハ發見者其所有權ヲ取得ス但他人ノ物ノ中ニ於テ發見シタル埋藏物ハ發見者及ヒ其物ノ所有者折半シテ其所有權ヲ取得ス

第二百四十二條 不動産ノ所有者ハ其不動産ノ從トシテ之ニ附合シタル物ノ所有權ヲ取得ス但權原ニ因リテ其物ヲ附屬セシメタル他人ノ權利ヲ妨ケス

第二百四十三條 各別ノ所有者ニ屬スル數個ノ動産カ附合ニ因リ毀損スルニ非サレハ之ヲ分離スルコト能ハサルニ至リタルトキハ其合成物ノ所有權ハ主タル動産ノ所有者ニ屬ス分離ノ爲メ過分ノ費用ヲ要スルトキ亦同シ

第二百四十四條 附合シタル動産ニ付キ主從ノ區別ヲ爲スコト能ハサルトキハ各動産ノ所有者ハ其附合ノ當時ニ於ケル價格ノ割合ニ應シテ合成物ヲ共有ス
 第二百四十五條 前二條ノ規定ハ各別ノ所有者ニ屬スル物カ混和シテ識別スルコト能ハサルニ至

リタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十六條 他人ノ動産ニ工作ヲ加ヘタル者アルトキハ其加工物ノ所有權ハ材料ノ所有者ニ屬ス但工作ニ因リテ生シタル價格カ著シキ材料ノ價格ニ超ユルトキハ加工者其物ノ所有權ヲ取得ス

加工者カ材料ノ一部ヲ供シタルトキハ其價格ニ工作ニ因リテ生シタル價格ヲ加ヘタルモノカ他人ノ材料ノ價格ニ超ユルトキニ限り加工者其物ノ所有權ヲ取得ス

第二百四十七條 前五條ノ規定ニ依リテ物ノ所有權カ消滅シタルトキハ其物ノ下ニ存セル他ノ權利モ亦消滅ス

右ノ物ノ所有者カ合成物、混和物又ハ加工物ノ單獨所有者ト爲リタルトキハ前項ノ權利ハ爾後合成物、混和物又ハ加工物ノ上ニ存シ其共有者ト爲リタルトキハ其持分ノ上ニ存ス
 第二百四十八條 前六條ノ規定ノ適用ニ因リテ損失ヲ受ケタル者ハ第七百三條及ヒ第七百四條ノ規定ニ從ヒ價金ヲ請求スルコトヲ得

第三節 共有

第二百四十九條 各共有者ハ共有物ノ全部ニ付キ其持分ニ應シタル使用ヲ爲スコトヲ得

第二百五十條 各共有者ノ持分ハ相均シキモノト推定ス
 第二百五十一條 各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ共有物ニ變更ヲ加フルコトヲ得ス
 第二百五十二條 共有物ノ管理ニ關スル事項ハ前條ノ場合ヲ除ク外各共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス但保存行爲ハ各共有者之ヲ爲スコトヲ得

第二百五十三條 各共有者ハ其持分ニ應シ管理ノ費用ヲ拂ヒ其他共有物ノ負擔ニ任ズ

共有者カ一年内ニ前項ノ義務ヲ履行セザルトキハ他ノ共有者ハ相當ノ價金ヲ拂ヒテ其者ノ持分ヲ取得スルコトヲ得

第二百五十四條 共有者ノ一人カ共有物ニ付キ他ノ共有者ニ對シテ有スル債權ハ其特定承繼人ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得

第二百五十五條 共有者ノ一人カ其持分ヲ拋棄シタルトキ又ハ相續人ナクシテ死亡シタルトキハ其持分ハ他ノ共有者ニ歸屬ス

第二百五十六條 各共有者ハ何時ニテモ共有物ノ分割ヲ請求スルコトヲ得但五年ヲ超エサル期間内分割ヲ爲ササル契約ヲ爲スコトヲ妨ケス

此契約ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ五年ヲ超ユルコトヲ得ス
第二百五十七條 前條ノ規定ハ第二百八條及ヒ第二百二十九條ニ掲ケタル共有物ニハ之ヲ適用セス

第二百五十八條 分割ハ共有者ノ協議調ハサルトキハ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ現物ヲ以テ分割ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ分割ニ因リテ著シク其價格ヲ損スル虞アルトキハ裁判所ハ其裁量ヲ命スルコトヲ得

第二百五十九條 共有者ノ一人ハ他ノ共有者ニ對シテ共有ニ關スル債權ヲ有スルトキハ分割ニ際シ債權者ニ歸スヘキ共有物ノ部分ヲ以テ其辨濟ヲ爲サシムルコトヲ得

債權者ハ右ノ辨濟ヲ受クル爲メ債務者ニ歸スヘキ共有物ノ部分ヲ賣却スル必要アルトキハ其實却ヲ請求スルコトヲ得

第二百六十條 共有物ニ付キ權利ヲ有スル者及ヒ各共有者ノ債權者ハ自己ノ費用ヲ以テ分割ニ參

加スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ參加ノ請求アリタルニ拘ハラス其參加ヲ待タスシテ分割ヲ爲シタルトキハ其分割ハ之ヲ以テ參加ヲ請求シタルモノニ對抗スルコトヲ得ス

第二百六十一條 各共有者ハ他ノ共有者カ分割ニ因リテ得タル物ニ付キ賣主ト同シク其持分ニ應

ジテ擔保ノ責任ヲ負フ
第二百六十二條 分割ヲ終了シタルトキハ各分割者ハ其受ケタル物ニ關スル證書ヲ保存スルコト

ヲ要ス
共有者一同又ハ其中ノ數人ニ分割シタル物ニ關スル證書ハ其物ノ最大部分ヲ受ケタル者之ヲ保

存スルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テ最大部分ヲ受ケタル者ナキトキハ分割者ノ協議ヲ以テ證書ノ保存者ヲ定ム若

シ協議調ハサルトキハ裁判所ノ指定スル者ニ依リテ之ヲ定ム
證書ノ保存者ハ他ノ分割者ノ請求ニ應ジテ其證書ヲ使用セシムルコトヲ要ス

第二百六十三條 共有ノ性質ヲ有スル入會權ニ付テハ各地方ノ慣習ニ從フ外本節ノ規定ヲ適用ス

第二百六十四條 本節ノ規定ハ數人ニテ所有權以外ノ財產權ヲ有スル場合ニ之ヲ準用ス但法令ニ

別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス
第四章 地上權
第二百六十五條 地上權者ハ他人ノ土地ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲メ其土地ヲ使用スル

權利ヲ有ス
第二百六十六條 地上權者カ土地ノ所有者ニ定期ノ地代ヲ拂フヘキトキハ第二百七十四條乃至第

第二百七十六條ノ規定ヲ準用ス
此他地代ニ付テハ貸貸借ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百六十七條 第二百九條乃至第二百三十八條ノ規定ハ地上權者間又ハ地上權者ト土地ノ所有者トノ間ニ之ヲ準用ス但第二百二十九條ノ推定ハ地上權設定後ニ爲シタル工事ニ付テノミ之ヲ地上權者ニ準用ス

第二百六十八條 設定行爲ヲ以テ地上權ノ存續期間ヲ定メザリシ場合ニ於テ別段ノ慣習ナキトキハ地上權者ハ何時ニテモ其權利ヲ拋棄スルコトヲ得但地代ヲ拂フヘキトキハ一年前ニ豫告ヲ爲シ又ハ未タ期限ノ至ラサル一年分ノ地代ヲ拂フコトヲ要ス

地上權者カ前項ノ規定ニ依リテ其權利ヲ拋棄セザルトキハ裁判所ハ當事者ノ請求ニ因リ二十年以上五十年以下ノ範圍内ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ種類及ヒ狀況其他地上權設定ノ當時ノ事情ヲ斟酌シテ其存續期間ヲ定ム

第二百六十九條 地上權者ハ其權利消滅ノ時土地ノ原狀ニ復シテ其工作物及ヒ竹木ヲ收去スルコトヲ得但土地ノ所有者カ時價ヲ提供シテ之ヲ買取ルヘキ旨ヲ通知シタルトキハ地上權者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第五節 永小作權
第二百七十條 永小作人ハ小作料ヲ拂ヒテ他人ノ土地ニ耕作又ハ牧畜ヲ爲ス權利ヲ有ス

第二百七十一條 永小作人ハ土地ニ永久ノ損害ヲ生スヘキ變更ヲ加フレコトヲ得ス

第二百七十二條 永小作人ハ其權利ヲ他人ニ讓渡シ又ハ其權利ノ存續期間内ニ於テ耕作若クハ牧畜ヲ爲シ土地ヲ貸貸スルコトヲ得但設定行爲ヲ以テ之ヲ禁シタルトキハ此限ニ在ラズ

第二百七十三條 永小作人ノ義務ニ付テハ本章ノ規定及ビ設定行爲ヲ以テ定メタルモノノ外貸貸借ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百七十四條 永小作人ハ不可抗力ニ因リ收益ニ付キ損失ヲ受ケタルトキト雖モ小作料ノ免除ヲ又ハ減額ヲ請求スルコトヲ得ス

第二百七十五條 永小作人カ不可抗力ニ因リ引續キ三年以上全ク收益ヲ得ス又ハ五年以上小作料目ヲ少キ收益ヲ得タルトキハ其權利ヲ拋棄スルコトヲ得

第二百七十六條 永小作人カ引續キ二年以上小作料ノ支拂ヲ怠リ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ地主ハ永小作權ヲ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第二百七十七條 前六條ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百七十八條 永小作權ノ存續期間ハ二十年以上五十年以下トス若シ五十年ヨリ長キ期間ヲ以テ永小作權ヲ設定シタルトキハ其期間ハ之ヲ五十年ニ短縮ス

永小作權ノ設定ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ五十年ヲ超ユルコトヲ得ス設定行爲ヲ以テ永小作權ノ存續期間ヲ定メザリシトキハ其期間ハ別段ノ慣習アル場合ヲ除ク外之ヲ三十年トス

第二百七十九條 第二百六十九條ノ規定ハ永小作權ニ之ヲ準用ス

第六節 地役權
第二百八十條 地役權者ハ設定行爲ヲ以テ定メタル目的ニ從ヒ他人ノ土地ヲ自己ノ土地ノ便益ニ供スル權利ヲ有ス但第三章第一節中ノ公ノ秩序ニ關スル規定ニ違反セザルコトヲ要ス

第二百八十二條 地役權ハ要役地ノ所有權ノ從トシテ之ト共ニ移轉シ又ハ要役地ノ上ニ存スル他
種ノ權利ノ目的タルモノトス但設定行為ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
地役權ハ要役地ヨリ分離シテ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得ス
第二百八十二條 土地ノ共有者ノ一人ハ其持分ニ付キ其土地ノ爲メニ又ハ其土地ノ上ニ存スル地
役權ヲ消滅セシムルコトヲ得ス

土地ノ分割又ハ其一部ノ讓渡ノ場合ニ於テハ地役權ハ其各部ヲ爲メニ又ハ其各部ノ上ニ存ス但
地役權カ其性質ニ因リ土地ノ一部ノミニ關スルトキハ此限ニ在ラズ
第二百八十三條 地役權ハ繼續且表現ノモノニ限リ時効ニ因リテ之ヲ取得スルコトヲ得

第二百八十四條 共有者ノ一人カ時効ニ因リテ地役權ヲ取得シタルトキハ他ノ共有者モ亦之ヲ取
得ス
共有者ニ對スル時効中斷ハ地役權ヲ行使スル各共有者ニ對シテ之ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ生
地役權ヲ行使スル各共有者數人アル場合ニ於テ其一人ニ對シテ時効停止ノ原因アルモ時効ハ各共
有者ノ爲メニ進行ス

第二百八十五條 用水地役權ノ承役地ニ於テ水力要役地及ヒ承役地ノ需要ノ爲メニ不足ナルトキ
ハ其各地別需要ニ應ジ先ツ之ヲ家用ニ供シ其殘餘ヲ他ノ用ニ供スルモノトス但設定行為ニ別段
ノ定アルトキハ此限ニ在ラス
同一ノ承役地ノ上ニ數個ノ用水地役權ヲ設定シタルトキハ後ノ地役權者ニ前ノ地役權者ノ水ノ
使用ヲ妨クルコトヲ得ス

第二百八十六條 設定行為又ハ特別契約ニ因リ承役地ノ所有者カ其費用ヲ以テ地役權ノ行使ハ爲
メニ工作物ヲ設ケ又ハ其修繕ヲ爲ス義務ヲ擔負シタルトキハ其義務ハ承役地ノ所有者ノ特定承
繼人モ亦之ヲ負擔ス

第二百八十七條 承役地ノ所有者ハ何時ニテモ地役權ニ必要ナル土地ノ部分ノ所有權ヲ地役權者
ニ委棄シテ前條ノ負擔ヲ免ルルコトヲ得

第二百八十八條 承役地ノ所有者ハ地役權ノ行使ヲ妨ケサル範圍内ニ於テ其行使ノ爲メニ承役地
ノ上ニ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ承役地ノ所有者ハ其利益ヲ受ケル割合ニ應ジテ工作物ノ設置及ヒ保存ノ費
用ヲ負擔スルコトヲ要ス

第二百八十九條 承役地ノ占有者カ取得時効ニ必要ナル條件ヲ具備セル占有所爲シタルトキハ地
役權ハ亦之ヲ消滅ス

第二百九十條 前條ノ消滅時効ハ地役權者カ其權利ヲ行使スルニ因リテ中斷ス
第二百九十一條 第六十七條第二項ニ規定セル消滅時効ノ期間ハ不繼續地役權ニ付テハ最後ノ
行使ノ時ヨリ之ヲ起算シ繼續地役權ニ付テハ其行使ヲ妨ケヘキ事實ノ生シタル時ヨリ之ヲ起算
ス

第二百九十二條 要役地カ數人ノ共有ニ屬スル場合ニ於テ其一人ノ爲メニ時効ノ中斷又ハ停止ア
ルモノキハ其中斷又ハ停止ハ他ノ共有者ノ爲メニモ其效力ヲ生ス

第二百九十三條 地役權者カ其權利ノ一部ヲ行使セザルトキハ其部分ノミ時効ニ因リテ消滅ス

第二百九十四條 共有ノ性質ヲ有セザル入會權ニ付テハ各地方ノ慣習ニ從フ外本章ノ規定ヲ準用

第七章 留置權

第二百九十五條 他人ノ物ノ占有者カ其物ニ關シテ生シタル債權ヲ有スルトキハ其債權ノ辨濟ヲ受ケルマテ其物ヲ留置スルコトヲ得但其債權ガ辨濟期ニ在ラサルトキハ此限ニ在ラス
前項ノ規定ハ占有カ不法行爲ニ因リテ始マリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百九十六條 留置權者ハ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受ケルマテハ留置物ノ全部ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得
第二百九十七條 留置權者ハ留置物ヨリ生スル果實ヲ收取シ他ノ債權者ニ先チテ之ヲ其債權者ノ辨濟ニ充當スルコトヲ得

前項ノ果實ハ先ツ之ヲ債權ノ利息ニ充當シ尙ホ餘剩アルトキハ之ヲ元本ニ充當スルコトヲ要ス
第二百九十八條 留置權者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ留置物ヲ占有スルコトヲ要ス
留置權者ハ債務者ノ承諾ヲクシテ留置物ノ使用若クハ貸貸ヲ爲シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ得不但其物ノ保存ニ必要ナル使用ヲ爲スハ此限ニ在ラス

留置權者カ前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ債務者ハ留置權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得
第二百九十九條 留置權者カ留置物ニ付キ必要費ヲ出タシタルトキハ所有者ヲシテ其償還ヲ爲サシムルコトヲ得
留置權者カ留置物ニ付キ有益費ヲ出タシタルトキハ其價格ノ増加ヲ現存スル場合ニ限り所有者ノ選擇ニ從ヒ其費シタル金額又ハ増價額ヲ償還セシムルコトヲ得但裁判所ハ所有者ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第三百條 留置權ノ行使ハ債權ノ消滅時效ノ進行ヲ妨ケス

第三百二條 債務者ハ相當ノ擔保ヲ供シテ留置權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第三百二條 留置權ハ占有ノ喪失ニ因リテ消滅ス但第二百九十八條第二項ノ規定ニ依リ貸貸又ハ質入ヲ爲シタル場合ハ此限ニ在ラス

第八章 先取特權

第三百一十一條 第一節 總則
第三百三條 先取特權者ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ從ヒ其債務者ノ財産ニ付キ他ノ債權者ニ先チ先自己ノ債權ノ辨濟ヲ受ケル權利ヲ有ス

第三百四條 先取特權ハ其目的物ヲ賣却シ貸貸ニ滅失又ハ毀損ニ因リテ債務者カ受ケルべき金錢其他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但先取特權者ハ其拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ要ス

債務者カ先取特權ノ目的物外ニ設定シタル物權ニ對價ニ付亦同シキ旨ノ規定ニ依リテ先取特權者カ先取特權ノ種類ハ一ノ種類ニ限ラズ

第三百五條 第二百九十六條ノ規定ハ先取特權ニ之ヲ準用ス

第三百六條 第一款 一般ノ先取特權
第三百六條 左ニ掲ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ總財産ノ上ニ先取特權ヲ

- 一 有終止ノ債權
- 二 共益ノ費用
- 三 葬式ノ費用
- 三 雇人ノ給料

四 日用品ノ供給

第三百七條 共益費用ノ先取特權ハ各債權者ノ共同利益ノ爲メニ爲シタル債務者ノ財産ノ保存、清算又ハ配當ニ關スル費用ニ付キ存在ス

前項ノ費用中總債權者ニ有益ナラザリシモノニ付テハ先取特權ハ其費用ノ爲メ利益ヲ受ケタル債權者ニ對シテノミ存在ス

第三百八條 葬式費用ノ先取特權ハ債務者ノ身分ニ應シテ爲シタル葬式ノ費用ニ付キ存在ス

前項ノ先取特權ハ債務者カ其扶養スヘキ親族又ハ家族ノ身分ニ應シテ爲シタル葬式ノ費用ニ付キ存在ス

第三百九條 雇夫給料ノ先取特權ハ債務者ノ雇人カ受ケヘキ最後ノ六個月間ノ給料ニ付キ存在ス

但其金額ハ五十圓ヲ限トス

第三百十條 日用品供給ノ先取特權ハ債務者又ハ其扶養スヘキ同居ノ親族並ニ家族及ヒ其僕婢ノ生活ニ必要ナル最後ノ六個月間ノ飲食品及ヒ薪炭油ノ供給ニ付キ存在ス

第三百十一條 第二款ノ先取特權ハ債務者ノ特定動産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

一 不動産ノ貸賃借

二 旅店ノ宿泊

三 旅客又ハ荷物ノ運輸

四 公吏ノ職務上ノ過失

五 動産ノ保存

六 動産ノ賣買

七 種苗又ハ肥料ノ供給

八 農工業ノ勞役

第三百十二條 不動産貸賃ノ先取特權ハ其不動産ノ借貸其他借貸關係ヨリ生シタル賃借人ノ債務ニ付キ賃借人ノ動産ノ上ニ存在ス

第三百十三條 土地ノ賃借人ノ先取特權ハ賃借地又ハ其ノ利用ノ爲メニスル建物ニ備附ケタル動産、其土地ノ利用ニ供シタル動産及ヒ賃借人ノ占有ニ在ル其土地ノ果實ノ上ニ存在ス

建物ノ賃借人ノ先取特權ハ賃借人カ其建物ニ備附ケタル動産ノ上ニ存在ス

第三百十四條 賃借權ノ讓渡又ハ轉賃ノ場合ニ於テハ賃借人ノ先取特權ハ讓受人又ハ轉賃人ノ動産ニ及ブ讓渡人又ハ轉賃人カ受ケヘキ金額ニ付キ亦同シ

第三百十五條 賃借人ノ財産ノ總清算ノ場合ニ於テハ賃借人ノ先取特權ハ前期、當期及ヒ次期ノ借貸其他ノ債務及ヒ前期並ニ當期ニ於テ生シタル損害ノ賠償ニ付テノミ存在ス

第三百十六條 賃借人カ敷金ヲ受取リタル場合ニ於テハ其敷金ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ先取特權ヲ有ス

第三百十七條 旅店宿泊ノ先取特權ハ旅客、其從者及ヒ牛馬ノ宿泊料並ニ飲食料ニ付キ其旅店ニ存スル手荷物ノ上ニ存在ス

第三百十八條 運輸ノ先取特權ハ旅客又ハ荷物ノ運送賃及ヒ附隨ノ費用ニ付キ運送人ノ手ニ存スル荷物ノ上ニ存在ス

第三百十九條 第九十二條乃至第九十五條ノ規定ハ前七條ノ先取特權ニ之ヲ準用ス
第三百二十條 公吏保證金ノ先取特權ハ保證金ヲ供シタル公吏ノ職務上ノ過失ニ因リテ生シタル
債權ニ付キ其保證金ノ上ニ存在ス

第三百二十一條 動産保存ノ先取特權ハ動産ノ保存費ニ付キ其動産ノ上ニ存在ス
前項ノ先取特權ハ動産ニ關スル權利ヲ保存、追認又ハ實行セシムル爲メニ要シタル費用ニ付テ
モ亦存在ス

第三百二十二條 動産賣買ノ先取特權ハ動産ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其動産ノ上ニ存在ス
第三百二十三條 種苗肥料供給ノ先取特權ハ種苗又ハ肥料ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其種苗又ハ肥
料ヲ用キタル後一年内ニ之ヲ用キタル土地ヨリ生シタル果實ノ上ニ存在ス

前項ノ先取特權ハ蠶種又ハ蠶ノ飼養ニ供シタル桑葉ノ供給ニ付キ其蠶種又ハ桑葉ヨリ生シタル物
ノ上ニモ亦存在ス

第三百二十四條 農工業勞役ノ先取特權ハ農業ノ勞役者ニ付テハ最後ノ一年間工業ノ勞役者ニ付
テハ最後ノ三個月間ノ賃金ニ付キ其勞役ニ因リテ生シタル果實又ハ製作物ノ上ニ存在ス
第三款 不動産ノ先取特權

- 第三百二十五條 左ニ掲ケタル原因ヨリ生シタル債權チ有スル者ハ債務者ノ特定不動産ノ上ニ先
取特權チ有ス
- 一 不動産ノ保存
- 二 不動産ノ工
- 三 不動産ノ賣買

第三百二十六條 不動産保存ノ先取特權ハ不動産ノ保存費ニ付キ其不動産ノ上ニ存在ス

第三百二十七條 不動産工事ノ先取特權ハ工匠、技師及ヒ請負人カ債務者ノ不動産ニ關シテ爲シ
タル工事ノ費用ニ付キ其不動産ノ上ニ存在ス

前項ノ先取特權ハ工事ニ因リテ生シタル不動産ノ増價カ現存スル場合ニ限り其増價額ニ付テノ
存在ス

第三百二十八條 不動産賣買ノ先取特權ハ不動産ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其不動産ノ上ニ存在ス

第三百二十九條 一般ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第三百六條ニ掲
ケタル順序ニ從フ

一般ノ先取特權ト特別ノ先取特權ト競合スル場合ニ於テハ特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ
先ツ但共益費用ノ先取特權ハ其利益ヲ受ケタル總債權者ニ對シテ優先ノ效力チ有ス

第三百三十條 同一ノ動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位左
ノ如シ

- 第一 不動産賣買、旅店宿泊及ヒ運輸ノ先取特權
 - 第二 動産保存ノ先取特權但數人ノ保存者アリタルトキハ後ノ保存者ハ前ノ保存者ニ先ツ
 - 第三 動産賣買、種苗肥料供給及ヒ農工業勞役ノ先取特權
- 第一順位ノ先取特權者カ債權取得ノ當時第二又ハ第三ノ順位ノ先取特權者アルコトヲ知リタル
トキハ之ニ對シテ優先權チ行フコトヲ得ス第一順位者ノ爲メニ物ヲ保存シタル者ニ對シ亦同

果實ニ關シテハ第一ノ順位ハ農業ノ勞役者ニ第二ノ順位ハ種苗又ハ肥料ノ供給者ニ第三ノ順位ハ土地ノ賃貸人ニ屬ス

第三百三十一條 同一ノ不動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第三百二十五條ニ掲ケタル順序ニ從フ

同一ノ不動産ニ付キ逐次ノ賣買アリタルトキハ賣主相互間ノ優先權ノ順位ハ時ノ前後ニ依ル第三百三十二條 同一ノ目的物ニ付キ同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應ジテ辨濟ヲ受ク

第四節 先取特權ノ效力

第三百三十三條 先取特權ハ債務者カ其動産ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ其動産ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

第三百三十四條 先取特權ト動産質權ト競合スル場合ニ於テハ動産質權者ハ第三百三十條ニ掲ケタル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第三百三十五條 一般ノ先取特權者ハ先ツ不動産以外ノ財産ニ付キ辨濟ヲ受ク尙ホ不足アルニ非サレハ不動産ニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ得ス

不動産ニ付テハ先ツ特別擔保ノ目的タラサルモノニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ要ス

一般ノ先取特權者カ前二項ノ規定ニ從ヒテ配當ニ加入スルコトヲ怠リタルトキハ其配當加入ニ因リテ受クヘカリシモノノ限度ニ於テハ登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテ其先取特權ヲ行フコトヲ得ス

前三項ノ規定ハ不動産以外ノ財産ノ代價ニ先チテ不動産ノ代價ヲ配當シ又ハ他ノ不動産ノ代價

ニ先チテ特別擔保ノ目的タル不動産ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス

第三百三十六條 一般ノ先取特權ハ不動産ニ付キ登記ヲ爲ササルモノニ以テ特別擔保ヲ有セザル

債權者ニ對抗スルコトヲ妨ケス但登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテハ此限ニ在ラス

第三百三十七條 不動産保存ノ先取特權ハ保存行爲完了ノ後直チニ登記ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ保存ス

第三百三十八條 不動産工事ノ先取特權ハ工事ヲ始ムル前ニ其費用ノ豫算額ヲ登記スルニ因リテ其效力ヲ保存ス但工事ノ費用カ豫算額ヲ超ユルトキハ先取特權ハ其超過額ニ付テハ存在セス

工事ニ因リテ生シタル不動産ノ増價額ハ配當加入ノ時裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人チシテ之

ノ評價モシムルコトヲ要ス

第三百三十九條 前二條ノ規定ニ從ヒテ登記シタル先取特權ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得

第三百四十條 不動産賣買ノ先取特權ハ賣買契約ノ同時ニ未ダ代價又ハ其利息ノ辨濟アラサル旨

ノ登記スルニ因リテ其效力ヲ保存ス

第九節 質權

第一節 總則

第三百四十二條 質權者ハ其債權ヲ擔保トシテ債務者又ハ第三者ヨリ受取リタル物ヲ占有シ且其

物ヲ付テ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第三百四十三條 質權ハ讓渡スルコトヲ得サル物ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得ス

第三百四十四條 質權ノ設定ハ債權者ニ其目的物ノ引渡ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス
 第三百四十五條 質權者ハ質權設定者ヲシテ自己ニ代ハリテ質物ノ占有ヲ爲サシムルコトヲ得ス
 第三百四十六條 質權ハ元本、利息、違約金、質權實行ノ費用、質物保存ノ費用及ヒ債權ノ不履行又ハ質物ノ隠レタル瑕疵ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ擔保ス但設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第三百四十七條 質權者ハ前條ニ掲ケタル債權ノ辨濟ヲ受クルマテハ質物ヲ留置スルコトヲ得但此權利ハ之ヲ以テ自己ニ對シテ優先權利有スル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百四十八條 質權者ハ其權利ノ存續期間内ニ於テ自己ノ責任ヲ以テ質物ヲ轉賣スルコトヲ得此場合ニ於テハ轉賣者ハ其權利ノ存續期間内ニ於テ自己ノ責任ヲ以テ質物ヲ轉賣スルコトヲ得此場合ニ於テハ轉賣者ハ其權利ノ存續期間内ニ於テ自己ノ責任ヲ以テ質物ヲ轉賣スルコトヲ得此場合ニ於テハ轉賣者ハ其權利ノ存續期間内ニ於テ自己ノ責任ヲ以テ質物ヲ轉賣スルコトヲ得

第三百四十九條 質權設定者ハ設定行爲又ハ債務ノ辨濟期前ノ契約ヲ以テ質權者ニ辨濟トシテ質物ノ所有權ヲ取得セシメ其他法律ニ定メタル方法ニ依ラスシテ質物ヲ處分セシムルコトヲ得スルコトヲ得ス

第三百五十條 第二百九十六條乃至第三百條及ヒ第三百四條ノ規定ハ質權ニ之ヲ準用ス
 第三百五十一條 他人ノ債務ヲ擔保スル爲メ質權ヲ設定シタル者カ其債務ヲ辨濟シ又ハ質權ノ實行ニ因リテ質物ノ所有權ヲ失ヒタルトキハ保證債務ニ關スル規定ニ從ヒ債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス

第二節 動産質

第三百五十二條 動産質權者ハ繼續シテ質權ヲ占有スルニ非サレハ其質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百五十三條 動産質權者カ質物ノ占有ヲ奪ハレタルトキハ占有回收ノ訴ニ依リテ之ニ其質物ヲ回復スルコトヲ得

第三百五十四條 動産質權者カ其債權ノ辨濟ヲ受ケサルトキハ正當ノ理由アル場合ニ限り鑑定人ノ評價ニ從ヒ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ質權者ハ豫メ債務者ニ其請求ヲ通知スルコトヲ要ス

第三百五十五條 數個ノ債權ヲ擔保スル爲メ同一ノ動産ニ付キ質權ヲ設定シタルトキハ其質權ノ順位ハ設定ノ前後ニ依ル

第三百五十六條 不動産質權者ハ質權ノ目的タル不動産ノ用方ニ從ヒ其使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ得

第三百五十七條 不動産質權者ハ管理ノ費用ヲ拂ヒ其他不動産ノ負擔ニ任ス

第三百五十八條 不動産質權者ハ其債權ノ利息ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百五十九條 前三條ノ規定ハ設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ適用セス

第三百六十條 不動産質ノ存續期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ不動産質ヲ設定シタルトキハ其期間ハ之ヲ十年ニ短縮ス

第三百六十一條 不動産質ニハ本節ノ規定ノ外次章ノ規定ヲ準用ス

第四節 權利質

第三百六十二條 質權ハ財産權ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

前項ノ質權ニハ本節ノ規定ノ外前三節ノ規定ヲ準用ス

第三百六十三條 債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲ス場合ニ於テ其債權ノ證書アルトキハ質權ノ設定ハ其證書ノ交付ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百六十四條 指名債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ第四百六十七條ノ規定ニ從ヒ第三債務者ニ質權ノ設定ヲ通知シ又ハ第三債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ第三債務者其
他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ記名ノ株式ニハ之ヲ適用セス

第三百六十五條 記名ノ社債ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ社債ノ讓渡ニ關スル規定ニ從ヒ
會社ノ帳簿ニ質權ノ設定ヲ記入スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得
ス

第三百六十六條 指圖債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ其證書ニ質權ノ設定ヲ裏書スルニ
非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百六十七條 質權者ハ質權ノ目的タル債權ヲ直接ニ取立ツルコトヲ得

債權ノ目的物カ金錢ナルトキハ質權者ハ自己ノ債權額ニ對スル部分ニ限リ之ヲ取立ツルコトヲ
得

右ノ債權ノ辨濟期カ質權者ノ債權ノ辨濟期前ニ到來シタルトキハ質權者ハ第三債務者ヲシテ其
辨濟金額ヲ供託セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ質權ハ其供託金ノ上ニ存在ス

債權ノ目的物カ金錢ニ非サルトキハ質權者ハ辨濟トシテ受ケタル物ノ上ニ質權ヲ有ス

第三百六十八條 質權者ハ前條ノ規定ニ依ル外民事訴訟法ニ定ムル執行方法ニ依リテ質權ノ實行
ヲ爲スコトヲ得

第二章 第十七章 抵當權

第十二節 第一節 總則 第七節 抵當權ノ消滅

第三百六十九條 抵當權者ハ債務者又ハ第三者カ占有ヲ移スルテ債務ヲ擔保ニ供シタル不動産
ニ付テ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受ケル權利ヲ有ス

房地產權及永小作權モ亦之ヲ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本條ノ規定ヲ準用ス

第三百七十條 抵當權ハ抵當地ノ上ニ存スル建物ヲ除外其目的タル不動産ニ附加シテ之ト一體
ヲ成シ得者ニ及ブ但設定行爲ニ別段ノ規定アルトキ及ヒ第四百三十四條ノ規定ニ依リ債權者又
債務者ノ行爲ヲ取消スコトヲ得ル場合ハ此限ニアラス

第三百七十一條 前條ノ規定ハ果實ニハ之ヲ適用セス但抵當不動産ノ差押アリタル後又ハ第三取
得者カ第三百八十二條ノ通知ヲ受ケタル後ハ此限ヲ在該次ニ於テモ適用ス

第三取得者カ第三百八十一條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其後一年內ニ抵當不動産ノ差押アリタル
場合ニ限リ前項但書ノ規定ヲ適用ス

第三百七十二條 第三百九十六條第三百四條及第三百五十一條ノ規定ハ抵當權ニ之ヲ準用ス

第三百七十三條 第二節 抵當權ノ效力

第三百七十四條 抵當權者カ利息其他ノ定期金ヲ請求スル權利ヲ有スルニ非サレハ其滿期ト爲リタル
最後又二年分ニ付テハ其抵當權ヲ行フコトヲ得但其以前ノ定期金ニ付テモ滿期後特別ノ登記

手爲シタルトキハ其登記ノ時ヨリ之ヲ行フコトヲ妨ケズ前ノ次債金ニ對シテ其後ノ債權者ノ權利ヲ行使スルノ前項ノ規定ハ抵當權者カ債務ノ不履行ニ因リテ生ジタル損害ヲ賠償ヲ請求スル權利ヲ有スル場合ニ於テ其最後ノ二年分ニ付テモ亦之ヲ適用ス但利息其他ノ定期金ヲ通シテ二年分ヲ超ユルコトヲ得ズ(明治三十四年四月法律第三十六號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第三百七十五條 抵當權者ハ其抵當權ヲ以テ他ノ債權ノ擔保ト爲シ又同一ノ債務者ニ對スル他ノ債權者ノ利益ノ爲メ其抵當權若クハ其順位ヲ讓渡シ又ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ抵當權者カ數人ノ爲メニ其抵當權ノ處分ヲ爲シタルトキハ其處分ノ利益ヲ受メル者ノ權利ハ順位ハ抵當權ノ登記ニ附記ヲ爲シタル前後ニ依リテ定ム

第三百七十六條 前條ノ場合ニ於テハ第四百六十七條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ抵當權ノ處分豫テ通知シ又其債務者別之ヲ承諾スルニ非ザレバ之ヲ以テ其債務者、保證人、抵當權設定者及ヒ其承繼人ニ對抗スルコトヲ得

主タル債務者カ前項ノ通知ヲ受ケ又ハ承諾ヲ爲シタルトキハ抵當權處分ノ利益ヲ受メ得者ノ承諾ヲ方シテ爲シタル抵當權ノ處分ハ之ヲ以テ其受益者ニ對抗スルコトヲ得

第三百七十七條 抵當權者ハ其抵當權ノ處分ハ其第三者ヲ爲メニ消滅ス

第三百七十八條 抵當不動產ニ付キ所有權ニ地上權又ハ永小作權ヲ取得シ又ハ第三者ハ第三百八十二條乃至第三百八十四條ノ規定ニ從ヒ抵當權者ニ提供シテ其承諾ヲ得タル金額ヲ拂渡シ又ハ之ヲ供託シテ抵當權ヲ消除スルコトヲ得

第三百七十九條 主タル債務者、保證人及ヒ其承繼人ハ抵當權ノ消除ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十條 停止條件附第三取得者ハ條件ニ成否未定ノ間ハ抵當權ノ消除ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十一條 抵當權者カ其抵當權ヲ實行セシムルコト欲スルトキハ第三百七十八條ニ掲ケタル

第三百八十二條 第三取得者ハ前條ノ通知ヲ受タルトキハ何時ニテモ抵當權ノ消除ヲ爲スコトヲ

得得百八十二條ノ規定ニ依リテ其抵當權ノ處分ニ對シテ其承諾ヲ得タル金額ヲ拂渡シ又ハ之ヲ供託シテ抵當權ヲ消除スルコトヲ得

第三百八十三條 第三取得者ハ前條ノ通知ヲ受ケ後一箇月内ニ次條ノ送達ヲ爲スニ非ザレバ抵當權ノ消

除ヲ爲スルコトヲ得

前條ノ通知ヲ受ケ後第三百七十八條ニ掲ケタル權利ヲ取得シタル第三者ハ前項ノ第三取得

者カ消除除爲スコトヲ得ル期間内ニ限制ノ送達ヲ受ケルコトヲ得

第三百八十四條 第三取得者カ抵當權ヲ消除セシムルコト欲スルトキハ登記ヲ爲シタル各債權者ニ左ノ

書面ヲ送達スルコトヲ要ス

第三取得者ノ住所、抵當不動產ノ性質、所在、代價其他取得

者ノ負擔並ニ登記ノ書面

第三百八十五條 抵當不動產ニ關スル登記簿ノ原本但既ニ消滅シタル權利ニ關スル登記簿ノ之ヲ掲ケルコトヲ

要ス

第三取得者ハ其抵當權ノ處分ニ對シテ其承諾ヲ得タル金額ヲ拂渡シ又ハ之ヲ供託シテ抵當權ヲ消除ス

第三百八十六條 債權者カ前條ノ送達ヲ受ケタル後一箇月内ニ増價競賣ヲ請求セサルトキハ第三

第三百八十七條 第三取得者ハ前條ノ通知ヲ受ケ後一箇月内ニ次條ノ送達ヲ爲スニ非ザレバ抵當權ノ消

除ヲ爲スルコトヲ得

前條ノ通知ヲ受ケ後第三百七十八條ニ掲ケタル權利ヲ取得シタル第三者ハ前項ノ第三取得

者カ消除除爲スコトヲ得ル期間内ニ限制ノ送達ヲ受ケルコトヲ得

第三百八十八條 第三取得者カ抵當權ヲ消除セシムルコト欲スルトキハ登記ヲ爲シタル各債權者ニ左ノ

書面ヲ送達スルコトヲ要ス

第三取得者ノ住所、抵當不動產ノ性質、所在、代價其他取得

者ノ負擔並ニ登記ノ書面

取得者ノ提供ヲ承諾シタル者ノ下看做スルハ、
 増價競賣ニ若シ競賣ニ於テ第三取得者カ提供シタル金額ヨリ十分ノ一以上ノ高價ニ抵當不動産
 ナ買却スルハ、
 三取得者ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ要ス
 前項ノ場合ニ於テハ債權者ハ代價及ヒ費用ニ付キ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
 第三百九十五條 債權者カ増價競賣ヲ請求スルニ付キ前條ノ期間内ニ債務者及ヒ抵當不動産ノ讓
 渡入ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第三百八十六條 債權者カ請求シタル債權者ハ登記ヲ爲シタル他ノ債權者ハ承諾ヲ得ルニ非サ
 其請求ヲ取消スルコトヲ得ス

第三百八十七條 抵當權者カ第三百八十二條ニ定メタル期間内ニ第三取得者ヨリ債務ノ辨濟又ハ
 添除ヲ通知受テタル者キ抵當不動産ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得

第三百八十八條 土地及ヒ其主ニ存スル建物併同ニ所有者ニ屬スル場合ニ於テ其土地又ハ建物
 別キ抵當ト爲シタルトキハ抵當權設定者ハ競賣ノ場合ニ付キ地上權ヲ設定シタルモノト看做
 然レ地代不當事者ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ定ムルハ、

第三百八十九條 抵當權設定ノ後其設定者カ抵當地ニ建物ヲ築造シタルトキハ抵當權者ハ土地ト
 共ニ之ヲ競賣スルコトヲ得但レ其優先權ハ土地ノ代價ニ付テシテ之ヲ行フコトヲ得

第三百九十二條 第三取得者カ抵當不動産ニ付キ必要費又ハ有益費ヲ出シタルトキハ第三百九十
 六條ノ區別ニ從ヒ不動産ノ代價ヲ以テ最モ先ニ其償還ヲ受クルコトヲ得

第三百九十二條 債權者カ同一ノ債權ノ擔保トシテ數個ノ不動産ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於
 テ同時ニ其代價ヲ配當スルキトキハ其各不動産ノ價額ニ準シテ其債權ノ負擔ヲ分ツ
 或不動産ノ代價ノミヲ配當スルキトキハ抵當權者ハ其代價ニ付債權ノ全部ヲ辨濟ヲ受クルコト
 トヲ得此場合ニ於テハ次ノ順位ニ在ル抵當權者ハ前項ノ規則ニ從ヒ右ノ抵當權者カ他ノ不動産
 ニ付キ辨濟ヲ受クルキ金額ニ滿ツルマテ之ニ代價シテ抵當權ヲ行フコトヲ得

第三百九十三條 前條ノ規定ニ從ヒ代價ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其抵當權ノ登記ニ其代價ヲ附
 記スルコトヲ得

第三百九十四條 抵當權者ハ抵當不動産ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ他ノ
 財產夫以テ辨濟ヲ受ケルコトヲ得

前項ノ規定ハ抵當不動産ノ代價ニ先チテ他ノ財產ノ代價ヲ配當スル場合ニハ之ヲ適用セス但
 他ノ各債權者ハ抵當權者ヲシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ受ケシムル爲メ之ニ配當スルキ金額ノ
 提供ヲ請求スルコトヲ得

第三百九十五條 第六百二條ニ定メタル期間ヲ超エサル貸借ハ抵當權ノ登記後ニ登記シタルモ
 ノト雖モ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得但レ其貸借カ抵當權者ニ損害ヲ及ホストキハ裁
 判所ハ抵當權者ヲ請求ニ因リ其解除ヲ命スルコトヲ得

第三百九十六條 抵當權ハ債務者及ヒ抵當權設定者ニ對シテハ其擔保スル債權ト同時ニ非サレハ
 時効ニ因リテ消滅ス

第三百九十七條 債務者又ハ抵當權設定者ニ非サル者カ抵當不動産ニ付キ取得時効ニ必要ナル條
 件ニ依リテ消滅ス

第三百九十七條 債務者又ハ抵當權設定者ニ非サル者カ抵當不動産ニ付キ取得時効ニ必要ナル條
 件ニ依リテ消滅ス

物件ヲ具備セル占有ヲ爲シタルトキハ抵當權ハ之ニ因リ消滅ス
第三百九十八條 地上權又ハ永小作權ヲ抵當ト爲シタル者カ其權利ヲ拋棄シタルモ之ヲ以テ抵當
權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三編 債 權

第一章 總 則

第一節 債權ノ目的

第三百九十九條 債權ハ金錢ニ見做ルコトヲ得サルモノト雖モ之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得
第四百條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注
意ヲ以テ其ノ物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四百一條 債權ノ目的物ヲ指示スルニ種類ノミヲ以テシタル場合ニ於テ法律行爲ノ性質又ハ當
事者ノ意思ニ依リテ其品質ヲ定ムルコト能ハサルトキハ債務者ハ中等ノ品質ヲ有スル物ヲ給付
スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ債務者カ物ノ給付ヲ爲スニ必要ナル行爲ヲ完了シ又ハ債權者ノ同意ヲ得テ其
給付トキモ物ヲ指定シタルトキハ爾後其物ヲ以テ債權ノ目的物トス

第四百二條 債權ノ目的物カ金錢ナルトキハ債務者ハ其選擇ニ從ヒ各種ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲ス
コトヲ得但特種ノ通貨ハ給付ヲ以テ債權ノ目的ト爲ルル限ニ在ラズ

債權ノ目的カ特種ノ通貨カ辨濟期ニ於テ強制通用ノ效力ヲ失ヒタルトキハ債務者ハ他ノ通貨
ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ外國ノ通貨ノ給付ヲ以テ債權ノ目的ト爲ルル場合ニ之ヲ準用ス

第四百三條 外國ノ通貨ヲ以テ債權額ヲ指定シタルトキハ債權者ハ履行地ニ於ケル爲替相場ニ依
リ日本ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得

第四百四條 利息ヲ生スヘキ債權ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ其利率ハ年五分トス

第四百五條 利息カ一年分以上延滞シタル場合ニ於テ債權者ヨリ催告ヲ爲スモ債務者カ其利息ヲ
拂フコトヲ以テ債權者ノ之ヲ元本ニ組入ルルコトヲ得

第四百六條 債權ノ目的カ數個ノ給付中選擇ニ依リテ定ムルヘキトキハ其選擇權ハ債務者ニ屬ス

第四百七條 前條ノ選擇權ハ相手方ニ對シテ意思表示ニ依リテ之ヲ行フコトヲ得

前項ノ意思表示ハ相手方ヲ承諾アルニ非ザルコトヲ取消スルコトヲ得ス

第四百八條 債權カ辨濟期ニ在ル場合ニ於テ相手方ヨリ相當ノ期間ヲ定メ催告ヲ爲スモ選擇權
者有スル當事者カ其期間内ニ選擇ヲ爲ササルトキハ其選擇權ハ相手方ニ屬ス

第四百九條 第三者カ選擇ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其選擇ハ債權者又ハ債務者ニ對スル意思表示
ニ依リテ之ヲ爲ス

第三者カ選擇ヲ爲スルコト能ハズ又ハ之ヲ欲セサルトキハ選擇權ハ債務者ニ屬ス

第四百十條 債權ノ目的カ給付中始メ不能トシ又ハ後ニ至リテ不能ト爲リタルモ其
アルトキハ債權ハ其ノ殘存スルモノニ付キ存在ス

選擇權者有シタル當事者ノ過失ニ因リテ給付カ不能ト爲ルルモ其前項ノ規定ヲ適用ス

第四百十一條 選擇ハ債權發生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第二節 債權ノ效力

第四百十二條 債務ノ履行ニ付キ確定期限アルトキハ債務者ハ其期限ノ到來シタル時ヨリ遲滯ノ

責任ニ任ス

債務ノ履行ニ付キ不確定期限アルトキハ債務者ハ其期限ノ到来シタルコトヲ知りタル時ヨリ遅滞ノ責任ニ任ス

債務ノ履行ニ付キ期限ヲ定メザリシトキハ債務者ハ履行ノ請求ヲ受ケタル時ヨリ遅滞ノ責任ニ任ス

第四百十三條 債権者ハ債務ノ履行ヲ受ケルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受ケルコト能ハサルトキハ其債権者ハ履行ノ提供アリタル時ヨリ遅滞ノ責任ニ任ス

第四百十四條 債務者ハ任意ニ債務ノ履行ヲ爲ササルトキハ債権者ハ其強制履行ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但債務ノ性質力之ヲ許ササル時ハ此限ニ在ラス

債務ノ性質力強制履行ヲ許ササル場合ニ於テ其債務力作爲ノ目的トスルトキハ債権者ハ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ之ヲ爲サシムルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但法律行爲ヲ目的トスル債務ニ付テハ裁判所ヲ以テ債務者ノ意思表示ニ依リテ之ヲ得

第四百十五條 債務者カ其債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ヲ爲ササルトキハ債権者ハ其損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ

第四百十六條 損害賠償ノ請求ハ債務ノ不履行ニ因リテ通常生スル損害ノ賠償ヲ爲サシムルヲ以テ其目的トス

特別ノ事情ニ因リテ生シタル損害ト雖モ當事者カ其事情ヲ豫見シ又ハ豫見スルコトヲ得ヘカリ

第四百十七條 損害賠償ハ別段ノ意思表示ナキトキハ金額ヲ以テ其額ヲ定ム

第四百十八條 債務ノ不履行ニ關シ債権者ニ過失アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ責任及ヒ其金額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌ス

第四百十九條 金額ノ目的トスル債務ノ不履行ニ付テハ其損害賠償ノ額ハ法定利率ニ依リテ之ヲ定ム但約定利率カ法定利率ニ超ユルトキハ約定利率ニ依ル

前項ノ損害賠償ニ付テハ債権者ハ損害ノ證明ヲ爲スコトヲ要セス又債務者ハ不可抗力ヲ以テ抗辯ト爲スコトヲ得

第四百二十條 當事者ハ債務ノ不履行ニ付テハ損害賠償ノ額ヲ豫定スルコトヲ得此場合ニ於テハ裁判所ハ其額ヲ増減スルコトヲ得

賠償額ヲ豫定シ履行又ハ解除ノ請求ヲ妨カス

違約金之ヲ賠償額ノ豫定ニ推定ス

第四百二十一條 前條ノ規定ハ當事者カ金額ニ非サルモノヲ以テ損害ノ賠償ニ充ツヘキ旨ヲ豫定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百二十二條 債権者カ損害賠償トシテ其債權ノ目的タル物又ハ權利ノ價額ノ全部ヲ受ケタル時キハ債務者ハ其物又ハ權利ニ付キ當然債権者ニ代位ス

第四百二十三條 債権者ハ自己ノ債權ヲ保全スル爲メ其債務者ニ屬スル權利ヲ行フコトヲ得但債

以テ其目的トス

特別ノ事情ニ因リテ生シタル損害ト雖モ當事者カ其事情ヲ豫見シ又ハ豫見スルコトヲ得ヘカリ

シトキハ債権者ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

第四百十七條 損害賠償ハ別段ノ意思表示ナキトキハ金額ヲ以テ其額ヲ定ム

第四百十八條 債務ノ不履行ニ關シ債権者ニ過失アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ責任及ヒ其金額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌ス

第四百十九條 金額ノ目的トスル債務ノ不履行ニ付テハ其損害賠償ノ額ハ法定利率ニ依リテ之ヲ定ム但約定利率カ法定利率ニ超ユルトキハ約定利率ニ依ル

前項ノ損害賠償ニ付テハ債権者ハ損害ノ證明ヲ爲スコトヲ要セス又債務者ハ不可抗力ヲ以テ抗辯ト爲スコトヲ得

第四百二十條 當事者ハ債務ノ不履行ニ付テハ損害賠償ノ額ヲ豫定スルコトヲ得此場合ニ於テハ裁判所ハ其額ヲ増減スルコトヲ得

賠償額ヲ豫定シ履行又ハ解除ノ請求ヲ妨カス

違約金之ヲ賠償額ノ豫定ニ推定ス

第四百二十一條 前條ノ規定ハ當事者カ金額ニ非サルモノヲ以テ損害ノ賠償ニ充ツヘキ旨ヲ豫定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百二十二條 債権者カ損害賠償トシテ其債權ノ目的タル物又ハ權利ノ價額ノ全部ヲ受ケタル時キハ債務者ハ其物又ハ權利ニ付キ當然債権者ニ代位ス

第四百二十三條 債権者ハ自己ノ債權ヲ保全スル爲メ其債務者ニ屬スル權利ヲ行フコトヲ得但債

債務者ノ一身ニ專屬スル權利ハ此限ニ在ラス
債權者ハ其債權ノ期限カ到來セサル間ハ裁判上ノ代位ニ依ルニ非サレハ前項ノ權利ヲ行フコト
ヲ得ス但保存行為ハ此限ニ在ラス

第四百二十四條 債權者ハ債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行為ノ取消ヲ裁
判所ニ請求スルコトヲ得但其行為ニ因リテ利益ヲ受ケタル者又ハ轉得者カ其行為又ハ轉得ノ當
時債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ財產權ヲ目的トセサル法律行為ニハ之ヲ適用セス

第四百二十五條 前條ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ總債權者ノ利益ノ爲メニ其效力ヲ生ス

第四百二十六條 第四百二十四條ノ取消權ハ債權者カ取消ノ原因ヲ覺知シタル時ヨリ二年間之ヲ
行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス行為ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三節 多數當事者ノ債權

第一款 總則

第四百二十七條 數人ノ債權者又ハ債務者アル場合ニ於テ別段ノ意思表示ナキトキハ各債權者又
ハ各債務者ハ平等ノ割合ヲ以テ權利ヲ有シ又ハ義務ヲ負フ

第二款 不可分債務

第四百二十八條 債權ノ目的カ其性質上又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ不可分ナル場合ニ於テ數
人ノ債權者アルトキハ各債權者ハ總債權者ノ爲メニ履行ヲ請求シ又債務者ハ總債權者ノ爲メ各
債權者ニ對シテ履行ヲ爲スコトヲ得

第四百二十九條 不可分債權者ノ一人ト其債務者トノ間ニ更改又ハ免除アリタル場合ニ於テモ他

ノ債權者ハ債務ノ全部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得但其一人ノ債權者カ其權利ヲ失ハサレハ之ニ
分與スヘキ利益ヲ債務者ニ償還スルコトヲ要ス

此他不可分債權者ノ一人ノ行為又ハ其一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ債權者ニ對シテ其效力ヲ
生セス

第四百三十條 數人カ不可分債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ前條ノ規定及ヒ連帶債務ニ關スル規定

ヲ準用ス但第四百三十四條乃至第四百四十四條ノ規定ハ此限ニ在ラス

第四百三十一條 不可分債務カ可分債務ニ變シタルトキハ各債權者ハ自己ノ部分ニ付テノ履行
ヲ請求スルコトヲ得又各債務者ハ其負擔部分ニ付テノ履行ヲ責ニ任ス

第三款 連帶債務

第四百三十二條 數人カ連帶債務ヲ負擔スルトキハ債權者ハ其債務者ノ一人ニ對シ又ハ同時若ク
ハ順次ニ總債務者ニ對シテ全部又ハ一部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

第四百三十三條 連帶債務者ノ一人ニ付キ法律行為ノ無効又ハ取消ノ原因ノ存スル爲メ他ノ債務
者ハ債務效力ヲ妨クルコトナシ

第四百三十四條 連帶債務者ノ一人ニ對スル履行ノ請求ハ他ノ債務者ニ對シテモ其效力ヲ生ズ

第四百三十五條 連帶債務者ノ一人ト債權者トノ間ニ更改アリタルトキハ債權ハ總債務者ノ利益
ノ爲メニ消滅ス

第四百三十六條 連帶債務者ノ一人カ債權者ニ對シテ債權ヲ有スル場合ニ於テ其債務者カ相殺ヲ
援用シタルトキハ債權ハ總債務者ノ利益ノ爲メニ消滅ス

右ノ債權ヲ有スル債務者カ相殺ヲ援用セサル間ハ其債務者ノ負擔部分ニ付テノ他ノ債務者ニ

於其相殺ヲ援用スルコトヲ得

第四百三十七條 連帶債務者ノ一人ニ對シテ爲シタル債務ノ免除ハ其債務者ノ負擔部分ニ付テノ

連帶他ノ債務者ノ利益ノ爲メニモ其效力ヲ生ス

第四百三十八條 連帶債務者ノ一人ト債權者トノ間ニ混同アリタルトキハ其債務者ハ辨濟ヲ爲シ

テ免ズルモノト看做ス

第四百三十九條 連帶債務者ノ一人ノ爲メニ時効カ完成シタルトキハ其債務者ノ負擔部分ニ付テ

ハ他ノ債務者モ亦其義務ヲ免ル

第四百四十條 前六條ニ掲ケタル事項ヲ除ク外連帶債務者ノ一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ債務

者ニ對シテ其效力ヲ生セス

第四百四十一條 連帶債務者ノ空員又ハ其中ノ數人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ其債

權ノ全額ニ付キ各財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得

第四百四十二條 連帶債務者ノ一人カ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タルト

キハ他ノ債務者ニ對シ其各自ノ負擔部分ニ付キ求償權ヲ有ス

前項ノ求償ハ辨濟其他免責アリタル日以後ノ法定利息及ヒ遅ケルコトヲ得サリシ費用其他ノ損

害ノ賠償ヲ包含ス

第四百四十三條 連帶債務者ノ一人カ債權者ヨリ請求ヲ受ケタルコトヲ他ノ債務者ニ通知セスシ

テ辨濟ヲ爲シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タル場合ニ於テ他ノ債務者カ債權者ニ對抗

スルコトヲ得ヘキ事由ヲ有セシトキハ其負擔部分ニ付キ之ヲ以テ其債務者ニ對抗スルコトヲ得

但相殺ヲ以テ之ニ對抗シタルトキハ過失アル債務者ハ債權者ニ對シ相殺ニ因リテ消滅スヘカリ

シ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

連帶債務者ノ一人カ辨濟其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タルコトヲ他ノ債務者ニ通知ス

ルコトヲ怠リタルニ因リ他ノ債務者カ善意ニテ債權者ニ辨濟ヲ爲シ其他有償ニ免責ヲ得タルト

キハ其債務者ハ自己ノ辨濟其他免責ノ行為ヲ有效ナリシモノト看做スルコトヲ得

第四百四十四條 連帶債務者中ニ償還ヲ爲ス資力ナキ者アルトキハ其償還スルコト能ハサル部分

ハ求償者及ヒ他ノ資力アル者ノ間ニ其各自ノ負擔部分ニ應シテ之ヲ分割ス但求償者ニ過失アル

トキハ他ノ債務者ニ對シテ分割ヲ請求スルコトヲ得

第四百四十五條 連帶債務者ノ一人カ連帶ノ免除ヲ得タル場合ニ於テ他ノ債務者中ニ辨濟ノ資力

ナキ者アルトキハ債權者ハ其無資力者カ辨濟スルコト能ハサル部分ニ付キ連帶ノ免除ヲ得タル

者カ負擔スヘキ部分ヲ負擔スルモノト看做ス

第四百四十六條 保證債務

第四百四十六條 保證人ハ主タル債務者カ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テ其履行ヲ爲ス責ニ任ス

第四百四十七條 保證債務者ハ主タル債務ニ關スル利息、違約金、損害賠償其他總テ其債務ニ從テ

ルモノヲ包含ス

保證人ハ其保證債務ニ付テノ違約金又ハ損害賠償ノ額ヲ約定スルコトヲ得

第四百四十八條 保證人ノ負擔カ債務ノ目的又ハ體様ニ付キ主タル債務ヨリ重キトキハ之ヲ主タ

ル債務ノ限度ニ減縮ス

第四百四十九條 無能力ニ因リテ取消スルコトヲ得ヘキ債務カ保證シタル者カ保證契約ノ當時其取

消ノ原因ヲ知リタルトキハ主タル債務者ノ不履行又ハ其債務ノ取消ノ場合ニ付キ同一ノ目的ヲ

有スル獨立ノ債務ヲ負擔シタルモノト推定ス
第四百五十條 債務者カ保證人ヲ立ツル義務ヲ負フ場合ニ於テハ其保證人ハ左ノ條件ヲ具備スル者タルコトヲ要ス

- 一 能力者タルコト
- 二 辨濟ノ資力ヲ有スルコト

三 債務ノ履行地ヲ管轄スル控訴院ノ管轄内ニ住所ヲ有シ又ハ假住所ヲ定メタルコト
保證人カ前項第二號又ハ第三號ノ條件ヲ缺クニ至リタルトキハ債權者ハ前項ノ條件ヲ具備スル者ヲ以テ之ニ代フルコトヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ債權者カ保證人ヲ指名シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第四百五十一條 債務者カ前條ノ條件ヲ具備スル保證人ヲ立ツルコト能ハサルトキハ他ノ擔保ヲ供シテ之ニ代フルコトヲ得

第四百五十二條 債權者カ保證人ニ債務ノ履行ヲ請求シタルトキハ保證人ハ先ツ主タル債務者ニ催告ヲ爲スヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得但主タル債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其行方カ知レサルトキハ此限ニ在ラス

第四百五十三條 債權者カ前條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ催告ヲ爲シタル後ト雖モ保證人カ主タル債務者ニ辨濟ノ資力アリテ且執行ノ容易ナルコトヲ證明シタルトキハ債權者ハ先ツ主タル債務者ノ財産ニ付キ執行ヲ爲スコトヲ要ス

第四百五十四條 保證人カ主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔シタルトキハ前二條ニ定メタル權利ヲ有セス

第四百五十五條 第四百五十二條及ヒ第四百五十三條ノ規定ニ依リ保證人ノ請求アリタルニ拘ハラス債權者カ催告又ハ執行ヲ爲スコトヲ怠リ其後主タル債務者ヨリ全部ノ辨濟ヲ得サルトキハ

保證人ハ債權者カ直チニ催告又ハ執行ヲ爲セハ辨濟ヲ得ヘカリシ限度ニ於テ其義務ヲ免ル

第四百五十六條 數人ノ保證人アル場合ニ於テハ其保證人カ各別ノ行爲ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキト雖モ第四百二十七條ノ規定ヲ適用ス

第四百五十七條 主タル債務者ニ對スル履行ノ請求其他時効ノ中断ハ保證人ニ對シテモ其效力ヲ生ス

保證人ハ主タル債務者ノ債權ニ依リ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

第四百五十八條 主タル債務者カ保證人ト連帶シテ債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ第四百三十四條乃至第四百四十條ノ規定ヲ適用ス

第四百五十九條 保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ過失ナクシテ債權者ニ辨濟スヘキ裁判言渡ヲ受ケ又ハ主タル債務者ニ代ハリテ辨濟ヲ爲シ其他自己ノ出捐ヲ以テ債務ヲ消滅セシムヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ其保證人ハ主タル債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス

第四百四十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百六十條 保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタルトキハ其保證人ハ左ノ場合ニ於テ主タル債務者ニ對シテ豫メ求償權ヲ行フコトヲ得

- 一 主タル債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ且債權者カ其財團ノ配當ニ加入セサルトキ
- 二 債務カ辨濟期ニ在ルトキ但保證契約ノ後債權者カ主タル債務者ニ許與シタル期限ハ之ヲ以

テ保證人ニ對抗スルコトヲ得ス
三 債務ノ辨濟期カ不確定ニシテ且其最長期ヲモ確定スルコト能ハサル場合ニ於テ保證契約ノ
後十年ヲ經過シタルトキ

第四百六十一條 前二條ノ規定ニ依リ主タル債務者カ保證人ニ對シテ賠償ヲ爲ス場合ニ於テ債權
者カ全部ノ辨濟ヲ受ケサル間ハ主タル債務者ハ保證人ヲシテ擔保ヲ供セシメ又ハ之ニ對シテ自
己ニ免責ヲ得セシムヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得

右ノ場合ニ於テ主タル債務者ハ供託ヲ爲シ、擔保ヲ供シ又ハ保證人ニ免責ヲ得セシメテ其賠償
ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

第四百六十二條 主タル債務者ノ委託ヲ受ケスシテ保證ヲ爲シタル者カ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ
出捐ヲ以テ主タル債務者ニ其債務ヲ免レシメタルトキハ主タル債務者ハ其當時利益ヲ受ケタル
限度ニ於テ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

主タル債務者ノ意思ニ反シテ保證ヲ爲シタル者ハ主タル債務者カ現ニ利益ヲ受ケル限度ニ於テ
之ニ求償權ヲ有ス但主タル債務者カ求償ノ日以前ニ相殺ノ原因ヲ有セシコトヲ主張スルトキハ

保證人ハ債權者ニ對シ其相殺ニ因リテ消滅スヘカリシ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

第四百六十三條 第四百四十三條ノ規定ハ保證人ニ之ヲ準用ス

保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ善意ニテ辨濟其他免責ノ爲メ
ニスル出捐ヲ爲シタルトキハ第四百四十三條ノ規定ハ主タル債務者ニモ亦之ヲ準用ス

第四百六十四條 連帶債務者又ハ不可分債務者ノ一人ノ爲メニ保證ヲ爲シタル者ハ他ノ債務者ニ
對シテ其負擔部分ノ内ニ付キ求償權ヲ有ス

第四百六十五條 數人ノ保證人アル場合ニ於テ主タル債務者カ不可分ナル爲メ又ハ各保證人カ全額
ヲ辨濟スヘキ特約アル爲メ一人ノ保證人カ全額其他自己ノ負擔部分ヲ超テ弁濟シタルト
キハ第四百四十二條乃至第四百四十四條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ非スシテ互ニ連帶セサル保證人ノ一人カ全額其他自己ノ負擔部分ヲ超テ弁
濟シタルトキハ第四百六十二條ノ規定ヲ準用ス

第四百六十六條 債權ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得但性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラズ又ハ
前項ノ規定ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニハ之ヲ適用セス但其意思表示ハ之ヲ以テ
善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百六十七條 指名債權ノ讓渡ハ讓渡人カ之ヲ債務者ニ通知シ又ハ債務者カ之ヲ承諾スルニ非
サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ通知又ハ承諾ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ以テ債務者以外ノ第三者モ
對抗スルコトヲ得ス

第四百六十八條 債務者カ異議ヲ留メスシテ前條ノ承諾ヲ爲シタルトキハ讓渡人ニ對抗スルコト
ヲ得ヘカリシ事由アルモ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ス但債務者カ其債務ヲ消滅セシメ
ル爲メ讓渡人ニ拂渡シタルモノアルトキハ之ヲ取返シ又讓渡人ニ對シテ負擔シタル債務アルト
キハ之ヲ成立セサルモノト看做スコトヲ妨グス

讓渡人ハ讓渡ノ通知ヲ爲シタルニ止レルトキハ債務者ハ其通知ヲ受ケルマテニ讓渡人ニ對シテ
發生シタル事由ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得

第四百六十九條 指圖債權ノ讓渡ハ其證書ニ讓渡ノ裏書ヲ爲シテ之ヲ讓受人ニ交付スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百七十條 指圖債權ノ債務者ハ其證書ノ所持人及ヒ其署名、捺印ノ眞偽ヲ調査スル權利ヲ有スルモ其義務ヲ負フコトナシ但債務者ニ惡意又ハ重大ナル過失アルトキハ其辨濟ハ無効トス

第四百七十一條 前條ノ規定ハ證書ニ債權者ヲ指名シタルモ其證書ノ所持人ニ辨濟スヘキ旨ヲ附記シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十二條 指圖債權ノ債務者ハ其證書ニ記載シタル事項及ヒ其證書ノ性質ヨリ當然生スル結果ヲ除外原債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ヲ以テ善意ノ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百七十三條 前條ノ規定ハ無記名債權ニ之ヲ準用ス

第五節 債權ノ消滅

第四款 辨濟

第四百七十四條 債務ノ辨濟ハ第三者之ヲ爲スコトヲ得但其債務ノ性質力之ヲ許ササルトキ又ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百七十五條 辨濟者カ他人ノ物ヲ引渡シタルトキハ更ニ有效ナル辨濟ヲ爲スニ非サレハ其物ヲ取戻スコトヲ得ス

第四百七十六條 讓渡ノ能力ナキ所有者カ辨濟トシテ物ノ引渡ヲ爲シタル場合ニ於テ其辨濟ヲ取消シタルトキハ其所有者ハ更ニ有效ナル辨濟ヲ爲スニ非サレハ其物ヲ取戻スコトヲ得ス

第四百七十七條 前二條ノ場合ニ於テ債權者カ辨濟トシテ受ケタル物ヲ善意ニテ消費シ又ハ讓渡シタルトキハ其辨濟ハ有效トス但債權者カ第三者ヨリ賠償ノ請求ヲ受ケタルトキハ辨濟者ニ對シテ求償ヲ爲スコトヲ妨ケス

第四百七十八條 債權ノ準占有者ニ爲シタル辨濟ハ辨濟者ノ善意ナリシトキニ限り其效力ヲ有ス

第四百七十九條 前條ノ場合ヲ除ク外辨濟受領ノ權限ヲ有セサル者ニ爲シタル辨濟ハ債權者力之ニ因リテ利益ヲ受ケタル限度ニ於テノミ其效力ヲ有ス

第四百八十條 受取證書ノ持參人ハ辨濟受領ノ權限アルモノト看做ス但辨濟者カ其權限ナキコト尙知ラザルトキ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス

第四百八十一條 支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者カ自己ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ差押債權者ハ其受ケタル損害ノ限度ニ於テ更ニ辨濟ヲ爲スヘキ旨ヲ第三債務者ニ請求スルコトヲ得

第四百八十二條 債權者ヨリ其債權者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第四百八十三條 債務者カ債權者ノ承諾ヲ以テ其負擔シタル給付ニ代ヘテ他ノ給付ヲ爲シタルトキハ其給付ハ辨濟ト同一ノ效力ヲ有ス

第四百八十四條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ辨濟者ハ其引渡ヲ爲スヘキ時ノ現狀ニテ其物ヲ引渡スコトヲ要ス

第四百八十五條 辨濟ヲ爲スヘキ場所ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ特定物ノ引渡ハ債權發生ノ當時其物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲シ其他ノ辨濟ハ債權者ノ現時ノ住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四百八十五條 辨濟ノ費用ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ其費用ハ債務者之ヲ負擔ス但債權者所住所ノ移轉其他ノ行爲ニ因リテ辨濟ノ費用ヲ増加シタルトキハ其増加額ハ債權者之ヲ負擔ス

第四百八十六條 辨濟者ハ辨濟受領者ニ對シテ受取證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十七條 債權ノ證書アル場合ニ於テ辨濟者カ全部ノ辨濟ヲ爲シタルトキハ其證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十八條 債務者カ同一ノ債務者ニ對シテ同種ノ目的ヲ有スル數個ノ債務ヲ負擔スル場合ニ於テ辨濟トシテ提供セタル給付カ總債務ヲ消滅セシムルニ足ラサルトキハ辨濟者ハ給付ノ時ニ於テ其辨濟ヲ充當スヘキ債務ヲ負擔スルコトヲ得

辨濟者カ前項ノ規定ヲ爲ササルトキハ辨濟受領者ハ其受領ノ時ニ於テ其辨濟ヲ充當ヲ爲スコトヲ得但辨濟者カ其充當ニ對シテ異議ヲ述ベタルトキハ此限ニ在ラズ

第四百八十九條 當事者カ辨濟ヲ充當爲ササルトキハ左ノ規定ニ從ヒ其辨濟ヲ充當スルコトヲ得

一 總債務ノ辨濟期ニ在リサルモノトアルトキハ辨濟期ニ在ルモノヲ先ニ

二 總債務カ辨濟期ニ在ルトキ又ハ辨濟期ニ在ラサルトキハ債務者ノ爲メニ辨濟ノ利益多クモ

三 債務者ノ爲メニ辨濟ノ利益相同シキトキハ辨濟期ノ先ツ至リタルモノ又ハ先ツ至ルモノ

ノ先ニ

四百九十二條 揭ケタル事項ニ付キ相同シキ債務ノ辨濟ハ各債務ノ額ニ應ジテ之ヲ充當ス

第四百九十三條 一個ノ債務ヲ辨濟トシテ數個ノ給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テ辨濟者其債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタルトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第四百九十四條 債務者カ其債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタルトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第四百九十五條 辨濟ノ提供ハ債務者カ其債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタルトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第四百九十六條 債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ミ又ハ之ヲ受領スルコト不能ナルトキハ辨濟者ハ債權者ノ爲メニ辨濟ノ目的物ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得辨濟者ノ過失ナクシテ債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキ亦同シ

第四百九十七條 供託ハ債務履行地ノ供託所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

供託所ニ付キ命令ニ別段ノ定ナキ場合ニ於テハ裁判所ハ辨濟者ノ請求ニ因リ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ヲ爲スコトヲ要ス

第四百九十八條 債權者カ供託ノ通知ヲ爲ス旨トキ要ス

第四百九十九條 債權者カ供託ノ受諾ヲス又ハ供託ヲ有效ト宣告シタル判決ヲ確定セサル間ハ辨

債權者ハ供託物ヲ取戻スルヲ得此場合ニ於テハ供託ヲ爲サザシモト看做ス
前項ノ規定ハ供託ニ因リテ質權又ハ抵當權カ消滅シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第四百九十七條 辨濟ノ目的物カ供託ニ適セス又ハ其物ニ付キ滅失若クハ毀損ノ虞アルトキハ辨濟者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競買シ其代價ヲ供託スルコトヲ得其物ノ保存ニ付キ過分ノ費用ヲ要スル下キ亦同

第四百九十八條 債務者カ債權者ノ給附ニ對シテ辨濟ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ債權者ハ其給附ヲ爲スニ非サズ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

第四百九十九條 債務者ノ爲メニ辨濟ヲ爲シタル者ハ其辨濟ト同時ニ債權者ノ承諾ヲ得テ之ニ代位スルヲ得

第四百六十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百條 辨濟ヲ爲スニ付キ正當ノ利益ヲ有スル者ハ辨濟ニ因リテ當然債權者ニ代位ス
第五百一條 前二條ノ規定ニ依リテ債權者ニ代位シタル者ハ自己ノ權利ニ基キ求價ヲ爲スコトヲ得ルニ範圍内ニ於テ債權ノ效力及ヒ擔保トシテ其債權者カ有セシ一切ノ權利ヲ行フコトヲ得但左ノ規定ニ從フコトヲ要スル

一 保證人ハ豫メ先取特權 不動産質權又ハ抵當權ノ登記ニ其代位ヲ附記シタルニ非サレハ其先取特權 不動産質權又ハ抵當權ノ目的タル不動産ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位セス

二 第三取得者ハ保證人ニ對シテ債權者ニ代位セス
三 第三取得者ハ一人ハ各不動産ノ價格ニ應スルニ非サレハ他ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位セス

四 前號ノ規定ハ自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者ノ間ニ之ヲ準用ス

五百條 保證人ト自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ヲ擔保ニ供シタル者トノ間ニ於テハ其頭數ニ應スルニ非サズハ債權者ニ代位セス但自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者數人アルトキハ其ノ保證人又ハ擔保部分ヲ除キ其殘額ニ付キ各財産ノ價格ニ應スルニ非サレハ之ニ對シテ代位ヲ爲スコトヲ得ス

右ノ場合ニ於テ其財產ハ不動産ナルトキハ第一號ノ規定ヲ準用ス

第五百二條 債權ノ一部ニ付キ代位辨濟アリタルトキハ代位者ハ其辨濟シタル價格ニ應シテ債權者ト共ニ其權利ヲ行フ

前項ノ場合ニ於テ債務ノ不履行ニ因ル契約ノ解除ハ債權者ノミ之ヲ請求スルコトヲ得但代位者ニ其辨濟シタル價額及ヒ其利息ヲ償還スルヲ要ス

第五百三條 代位辨濟ニ因リテ全部ノ辨濟ヲ受ケタル債權者ハ債權ニ關スル證書及ヒ其占有ニ在リテ擔保物ヲ代位者ニ交付スルコトヲ要ス

債權ノ一部ニ付キ代位辨濟アリタル場合ニ於テハ債權者ハ債權證書ニ其代位ヲ記入シ且代位者ヲシテ其占有ニ在ル擔保物ノ保存ヲ監督セシムルコトヲ要ス

第五百四條 第五百條ノ規定ニ依リテ代位ヲ爲スヘキ者アル場合ニ於テ債權者ハ故意又ハ懈怠ニ因リテ其擔保ヲ喪失又ハ減少シタルトキハ代位ヲ爲スヘキ者ハ其喪失又ハ減少ニ因リ償還ヲ受ケルコトヲ能ハサルニ至ル限度ニ於テ其實ヲ免ル

第五百五條 二人互ニ同種ノ目的ヲ有スル債務ヲ負擔スル場合ニ於テ雙方ノ債務カ辨濟期ニ在ル

前項ノ規定ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニハ之ヲ適用セス但其意思表示ハ之ヲ以テ

善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百六條 相殺ハ當事者ノ一方ヨリ其相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス但其意思表示

ニハ條件又ハ期限ヲ附スルコトヲ得ス

前項ノ意思表示ハ雙方以債務カ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタル始ニ適シテ其效力ヲ生ス

第五百七條 相殺ハ雙方ノ債務ノ履行地カ異ナルトキト雖モ之ヲ爲スコトヲ得但相殺ヲ爲ス當事

者ハ其相手方ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

第五百八條 時効ニ因リテ消滅シタル債權カ其消滅以前ニ相殺ニ適シタル場合ニ於テハ其債權者

ハ相殺ヲ爲スコトヲ得

第五百九條 債權カ不法行爲ニ因リテ生シタルトキハ其債權者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコ

トヲ得ス

第五百十條 債權カ差押ヲ禁シタルモノナルトキハ其債權者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコト

ヲ得ス

第五百十一條 支拂差止ヲ受タタル第三債務者ノ其後ニ取得シタル債權ニ依リ相殺ヲ以テ差押

債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十二條 第四百八十八條乃至第四百九十一條ノ規定ハ相殺ニ之ヲ準用ス

四 債權ノ第三款自更、改、

第五百十三條 當事者カ債務ノ要素ヲ變更スル契約ヲ爲シタルトキハ其債務ハ更改ニ因リテ消滅

ス

第五百十四條 債務者ノ交替ニ因リ更改ハ債權者ト新債務者トノ契約ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但

債權債務者ノ意思ニ反對シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五百十五條 債權者ノ交替ニ因リ更改ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ以テ第三

者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十六條 債權者四百六十八條第ニ項ノ規定ハ債權者ノ交替ニ因リ更改ニ之ヲ準用ス

第五百十七條 更改ニ因リ生シタル債務カ不法ノ原因ノ爲メ又ハ當事者ノ知ラサル事由ニ因リ

テ成立セシ又ハ取消サレタルトキハ舊債務カ消滅セズ

第五百十八條 更改ハ當事者ノ舊債務ノ目的ノ限度ニ於テ其債務ノ擔保ニ供シタル質權又ハ抵當

權ヲ新債務ニ移スコトヲ得但第三者カ之ヲ供シタル場合ニ於テハ其承諾ヲ得ルニ要ス

第五百十九條 債權者カ債務者ニ對シテ債務ヲ免除スル意思ヲ表示シタルトキハ其債權ハ消滅ス

第五百二十條 債權及ヒ債務カ同一人ニ歸シタルトキハ其債權ハ消滅ス但其債權カ第三者ノ權利

ノ目的タルトキハ此限ニ在ラズ

第一節 總 則

第一款 契約ノ成立

第五百二十二條 承諾ノ期間ヲ定メテ爲シタル契約ノ申込ハ之ヲ取消スコトヲ得ス
申込者カ前項ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ受ケサルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ

第五百二十三條 承諾ノ通知カ前條ノ期間後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其期間内ニ到達
スヘカリシトキニ發達シタルモノナルコトヲ知り得ヘキトキハ申込者ハ遲滞ナク相手方ニ對シ
テ其延著ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス但其到達前ニ遲延ノ通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百二十四條 承諾ノ通知ハ延著セザリシモノト看做ス
第五百二十五條 承諾ノ期間ヲ定メスシテ隔地者ニ爲シタル申込ハ申込者カ承諾ノ通知ヲ受ケル
ニ相當ナル期間之ヲ取消スコトヲ得ス

第五百二十六條 第九十七條第二項ノ規定ハ申込者カ反對ノ意思ヲ表示シ又ハ其相手方カ死亡若
クハ能力喪失ノ事實ヲ知リタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五百二十七條 隔地者間ノ契約ハ承諾ノ通知ヲ發シタル時ニ成立ス
申込者ノ意思表示又ハ取引上ノ慣習ニ依リ承諾ノ通知ヲ必要トセサル場合ニ於テハ契約ハ承諾
ノ意思表示ト認ムヘキ事實アリタル時ニ成立ス

第五百二十八條 申込ノ取消ノ通知カ承諾ノ通知ヲ發シタル後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テ
ハ其前ニ到達スヘカリシ時ニ發達シタルモノナルコトヲ知り得ヘキトキハ承諾者ハ遲滞ナク申
込者ニ對シテ其ノ延著ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五百二十九條 承諾者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ契約ハ成立セザリシモノト看做ス
第五百三十條 承諾者カ申込ニ條件ヲ附シ其他變更ヲ加ヘテ之ヲ承諾シタルトキハ其申込ノ拒
絶ト共ニ新ナル申込ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百三十一條 或行爲ヲ爲シタル者ニ一定ノ報酬ヲ與フヘキ旨ヲ廣告シタル者ハ其行爲ヲ爲シ
タル者ニ對シテ其報酬ヲ與フル義務ヲ負フ

第五百三十二條 前條ノ場合ニ於テ廣告者ハ其指定シタル行爲ヲ完了スル者ヲキ問ハ前ノ廣告ト同
一ノ方法ニ依リテ其廣告ヲ取消スコトヲ得但其廣告中ニ取消ヲ爲ササル旨ヲ表示シタルトキハ
此限ニ在ラス

第五百三十三條 廣告ニ定メタル行爲ヲ爲シタル者數人アルトキハ最初ニ其行爲ヲ爲シタル者ノ
前項ニ定メタル方法ニ依リテ取消ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ他ノ方法ニ依リテ之ヲ爲ス
コトヲ得但其取消ハ之ヲ知リタル者ニ對シテノミ其效力ヲ有ス

第五百三十四條 廣告者カ其指定シタル行爲ヲ爲スヘキ期間ヲ定メタルトキハ其取消權ヲ拋棄シタルモノト推定
ス

第五百三十五條 廣告ニ定メタル行爲ヲ爲シタル者數人アルトキハ最初ニ其行爲ヲ爲シタル者ノ
ミ報酬ヲ受ケル權利ヲ有ス

第五百三十六條 數人カ同時ニ右ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テハ各平等ノ割合ヲ以テ報酬ヲ受ケル權利ヲ有ス但
報酬カ其性質上分割ニ不便ナルトキ又ハ廣告ニ於テ一人ノミ之ヲ受クヘキモノトシタルトキハ
抽籤ヲ以テ之ヲ受クヘキ者ヲ定ム

第五百三十七條 前二項ノ規定ハ廣告中ニ之ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ之ヲ適用セス

第五百三十八條 廣告ニ定メタル行爲ヲ爲シタル者數人アル場合ニ於テ其優等者ノミニ報酬ヲ與

第五百三十九條 廣告ニ定メタル行爲ヲ爲シタル者數人アル場合ニ於テ其優等者ノミニ報酬ヲ與

前項ノ場合ニ於テ應募者中何人ノ行為カ優等ナルカハ廣告中ニ定メタル者之ヲ判定ス若シ廣告中ニ判定者ヲ定メザリシトキハ廣告者之ヲ判定ス
 應募者ノ前項ノ判定ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス
 數人ノ行為カ同等ト判定セラレタルトキハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス
 第二款 契約ノ效力

第五百三十三條 雙務契約當事者ノ一方ハ相手方カ其債務ノ履行ヲ提供スルマテハ自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得但相手方ノ債務カ辨濟期ニ在ラサルトキハ此限ニ在ラス

第五百三十四條 特定物ニ關スル物權ノ設定又ハ移轉ヲ以テ雙務契約ノ目的達成シタル場合ニ於テ其物カ債務者ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其滅失又ハ毀損ノ負擔者ノ負擔ニ歸ス

第五百三十五條 前條ノ規定ハ停止條件付雙務契約ノ目的物カ條件ノ成否未定ノ間ニ於テ滅失シタル場合ニ於テ之ヲ適用セス

第五百三十六條 前二條ニ掲ケタル場合ヲ除ク外當事者雙方ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ債務ヲ履行スルコト能ハサルニ至リタルトキハ債務者ハ反對給付ヲ受クル權利ヲ有セス
 債權者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ債務者ハ反對給付ヲ受クル權利ヲ失ハス但自己ノ債務ヲ免レタルニ因リテ利益ヲ得タルトキハ之ヲ債權者ニ償還スルコトヲ要ス

第五百三十七條 契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シテ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタルトキハ其第三者ハ債務者ニ對シテ直接ニ其給付ヲ請求スル權利ヲ有ス
 前項ノ場合ニ於テ第三者ノ權利ハ其第三者カ債務者ニ對シテ契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタル時ニ發生ス

第五百三十八條 前條ノ規定ニ依リテ第三者ノ權利カ發生シタル後ハ當事者ハ之ヲ變更シ又ハ之ヲ消滅セシムルコトヲ得ス

第五百三十九條 第五百三十七條ニ掲ケタル契約ニ基因スル抗辯ハ債務者之ヲ以テ其契約ノ利益ヲ受クヘキ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第三款 契約ノ解除
 第五百四十條 契約又ハ法律ノ規定ニ依リ當事者ノ一方カ解除權ヲ有スルトキハ其解除ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

第五百四十一條 當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セザルトキハ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行ナキトキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十二條 契約ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サスシテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ前條ノ催告ヲ爲サスシテ直チニ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十三條 履行ノ全部又ハ一部カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ不能ト爲リタルトキハ債權者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十四條 當事者ノ一方カ數人アル場合ニ於テハ契約ノ解除ハ其全員ヨリ又ハ其全員ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ解除權カ當事者中ノ一人ニ付キ消滅シタルトキハ他ノ者ニ付テモ亦消滅ス

第五百四十五條 當事者ノ一方カ其解除權ヲ行使シタルトキハ各當事者ハ其相手方ヲ原狀ニ復セシムル義務ヲ負フ但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ返還スヘキ金錢ニハ其受領ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス

第五百四十六條 第五百三十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ進用ス

第五百四十七條 解除權ノ行使ニ付キ期間ノ定ナキトキハ相手方ハ解除權ヲ有スル者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ解除ヲ爲スヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ其期間内ニ解除ノ通知ヲ受ケザルトキハ解除權ハ消滅ス

第五百四十八條 解除權ヲ有スル者カ自己ノ行爲又ハ過失ニ因リテ著シク契約ノ目的物ヲ毀損シ若クハ之ヲ返還スルコト能ハサルニ至リタルトキ又ハ加工若クハ改造ニ因リテ之ヲ他ノ種類ノ物ニ變シタルトキハ解除權ハ消滅ス

契約ノ目的物カ解除權ヲ有スル者ノ行爲又ハ過失ニ因ラスシテ滅失又ハ毀損シタルトキハ解除權ハ消滅セス

第二節 贈與

第五百四十九條 贈與ハ當事者ノ一方カ自己ノ財産ヲ無償ニテ相手方ニ與フル意思ヲ表示シ相手方カ受諾ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百五十條 書面ニ依ラサル贈與ハ各當事者之ヲ取消スコトヲ得但履行ノ終ハリタル部分ニ附テハ此限ニアラス

第五百五十一條 贈與者ハ贈與ノ目的タル者又ハ權利ノ瑕疵又ハ欠缺ニ付キ其責ニ任セス但贈與者カ其瑕疵又ハ欠缺ヲ知りテ之ヲ受贈者ニ告ケザリシトキハ此限ニ在ラス

負擔附贈與ニ附テハ贈與者ハ其負擔ノ限度ニ於テ賣主ト同シク擔保ノ責ニ任ス

第五百五十二條 定期ノ給附ヲ目的トスル贈與ハ贈與者又ハ受贈者ノ死亡ニ因リテ其效力ヲ失フ

第五百五十三條 負擔附贈與ニ附テハ本節ノ規定ノ外雙務契約ニ關スル規定ヲ適用ス

第五百五十四條 贈與者ノ死亡ニ因リテ效力ヲ生スヘキ贈與ハ遺贈ニ關スル規定ニ從フ

第三節 賣買

第一款 總則

第五百五十五條 賣買ハ當事者ノ一方カ或財産權ヲ相手方ニ移轉スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其代金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百五十六條 賣買ノ一方ノ豫約ハ相手方カ賣買ヲ完結スル意思ヲ表示シタル時ヨリ賣買ノ效

力ヲ生ス

前項ノ意思表示ニ附キ期間ヲ定メサリシトキハ豫約者ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ賣買ヲ完結スルヲ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ相手方ニ催告スルコトヲ得若シ相手方カ其期間内ニ確答ヲ爲ササルトキハ豫約ハ其效力ヲ失フ

第五百五十七條 買主カ賣主ニ手附ヲ交附シタルトキハ當事者ノ一方カ契約ノ履行ニ着手スルマテハ買主ハ其手附ヲ拋棄シ賣主ハ其倍額ヲ償還シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十五條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第五百五十八條 賣買契約ニ關スル費用ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス

第五百五十九條 本節ノ規定ハ賣買以外ノ有償契約ニ之ヲ準用ス但其契約ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

第二款 賣買ノ效力

第五百六十條 他人ノ權利ヲ以テ賣買ノ目的ト爲シタルトキハ賣主ハ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スル義務ヲ負フ

第五百六十一條 前條ノ場合ニ於テ賣主カ其賣却シタル權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但契約ノ當時其權利ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リタルトキハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六十二條 賣主カ契約ノ當時其賣却シタル權利ノ自己ニ屬セサルコトヲ知ラザリシ場合ニ於テ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ買主ハ損害賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ買主カ契約ノ當時其買受ケタル權利ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リタルトキハ賣主ハ買主ニ對シ單ニ其賣却シタル權利ヲ移轉スルコト能ハサル旨ヲ通知シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百六十三條 賣買ノ目的タル權利ノ一部カ他人ニ屬スルニ因リ賣主カ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ買主ハ其足ラサル部分ノ割合ニ應シテ代金ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミナレハ買主カ之ヲ買受ケサルヘカリシトキハ善意ノ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

代金減額ノ請求又ハ契約ノ解除ハ善意ノ買主カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第五百六十四條 前條ニ定メタル權利ト買主カ契約ナリシトキハ事實ヲ知リタル時ヨリ惡意ナリシトキハ契約ノ時ヨリ一年内ニ之ヲ行使スルコトヲ要ス

第五百六十五條 數量ヲ指示シテ賣買シタル物カ不足ナル場合及ヒ物ノ一部カ契約ノ當時既ニ滅失シタル場合ニ於テ買主カ其不足又ハ滅失ヲ知ラザリシトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第五百六十六條 賣買ノ目的物カ地上權、永小作權、地役權、留置權又ハ質權ノ目的タル場合ニ於テ買主カ之ヲ知ラザリシトキハ之カ爲メニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ限リ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得其他ノ場合ニ於テハ損害賠償ノ請求ノミチ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ賣買ノ目的タル不動産ノ爲メニ存セリト稱セシ地役權カ存セザリシトキ及ヒ其不動産ニ付キ登記シタル貸借アリタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ契約ノ解除又ハ損害賠償ノ請求ハ買主カ事實ヲ知リタル時ヨリ一年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五百六十七條 賣買ノ目的タル不動産ノ上ニ存シタル先取特權又ハ抵當權ノ行使ニ因リ買主カ其所有權ヲ失ヒタルトキハ其買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
買主カ出捐ヲ爲シテ其所有權ヲ保存シタルトキハ買主ニ對シテ其出捐ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ買主カ損害ヲ受ケタルトキハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得
第五百六十八條 強制競賣ノ場合ニ於テハ競落人ハ前七條ノ規定ニ依リ債務者ニ對シテ契約ノ解除ヲ爲シ又ハ代金ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ債務者カ無資力ナルトキハ競落人ハ代金ノ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シテ其代金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ債務者カ物又ハ權利ノ欠缺ヲ知リテ之ヲ申出テス又ハ債權者カ之ヲ知リテ競賣ヲ請求シタルトキハ競落人ハ其過失者ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百六十九條 債權ノ賣主カ債務者ノ資力ヲ擔保シタルトキハ契約ノ當時ニ於ケル資力ヲ擔保シタルモノト推定ス

辨濟期ニ至ラサル債權ノ賣主カ債務者ノ將來ノ資力ヲ擔保シタルトキハ辨濟ノ期日ニ於ケル資力ヲ擔保シタルモノト推定ス

第五百七十條 賣買ノ目的物ニ隠レタル瑕疵アリタルトキハ第五百六十六條ノ規定ヲ準用ス但強制競賣ノ場合ハ此限ニ在ラス

第五百七十一條 第五百三十三條ノ規定ハ第五百六十三條乃至第五百六十六條及前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百七十二條 賣主ハ前十二條ニ定メタル擔保ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ特約シタルトキト雖モ其知リテ告ケサリシ事實及ヒ自ら第三者ノ爲メニ設定シ又ハ之ニ讓渡シタル權利ニ付テハ其責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百七十三條 賣買ノ目的物ノ引渡ニ付キ期限アルトキハ代金ノ支拂ニ付テモ亦同一ノ期限ヲ附シタルモノト推定ス

第五百七十四條 賣買ノ目的物ノ引渡ノ同時ニ代金ヲ拂フヘキトキハ其引渡ノ場所ニ於テ之ヲ拂フコトヲ要ス

第五百七十五條 未タ引渡ササル賣買ノ目的物カ果實ヲ生シタルトキハ其果實ハ賣主ニ屬ス但買主ハ引渡ノ日ヨリ代金ノ利息ヲ拂フ義務ヲ負フ但代金ノ支拂ニ付キ期限アルトキハ其期限ノ到來スルマテハ利息ヲ拂フコトヲ要セス

第五百七十六條 賣買ノ目的ニ付キ權利ヲ主張スル者アリテ買主カ其買受ケタル權利ノ全部又ハ一部ヲ失フ虞アルトキハ買主ハ其危險ノ限度ニ應ジ代金ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得

但賣主カ相當ノ擔保ヲ供シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十七條 買受ケタル不動産ニ付キ先取特權、質權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ買主ハ滌除ノ手續ヲ終ルルマテ其代金ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得但買主ハ買主ニ對シテ遲滯ナク滌除ヲ爲スヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得

第五百七十八條 前二條ノ場合ニ於テ賣主ハ買主ニ對シテ代金ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

第三款 買戻

第五百七十九條 不動産ノ賣主ハ賣買契約ノ同時ニ爲シタル買戻ノ特約ニ依リ買主カ拂ヒタル代

金及ヒ契約ノ費用ヲ返還シテ其買價ノ解除ヲ爲スコトヲ得但當事者カ別段ノ意思ヲ表示セザル
シトキハ不動産ノ果實下代金ノ利息トハ之ヲ相殺シタルモノト看做ス

第五百八十條 買戻ノ期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ
十年ニ短縮ス

買戻ニ付キ期間ヲ定メタルトキハ後日之ヲ伸長スルコトヲ得ス
買戻ニ付キ期間ヲ定メザリシトキハ五年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五百八十一條 賣買契約ト同時ニ買戻ノ特約ヲ登記シタルトキハ買戻ハ第三者ニ對シテモ其效
力ヲ生ス
登記ヲ爲シタル貸借人ノ權利ハ其殘期一年間ニ限り之ヲ以テ賣主ニ對抗スルコトヲ得但賣主ヲ
害スル目的ヲ以テ貸借ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百八十二條 賣主ノ債權者カ第四百二十三條ノ規定ニ依リ賣主ニ代ハテ買戻ヲ爲サント欲
スルトキハ買主ハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ不動産ノ現時ノ價額ヨリ賣主カ
返還スヘキ金額ヲ控除シタル殘額ニ達スルマテ賣主ノ債務ヲ辨濟シ尙ホ餘剩アルトキハ之ヲ賣
主ニ返還シテ買戻權ヲ消滅セシムルコトヲ得

第五百八十三條 賣主ハ期間内ニ代金及ヒ契約ノ費用ヲ提供スルニ非サレハ買戻ヲ爲スコトヲ得
ス
買主又ハ轉得者カ不動産ニ付キ費用ヲ出ダシタルトキハ買主ハ第九十六條ノ規定ニ從ヒ之ヲ
償還スルコトヲ要ス但有益費ニ付テハ裁判所ハ賣主ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコ
トヲ得

第五百八十四條 不動産ノ共有者ノ一人カ買戻ノ特約ヲ以テ其持分ヲ賣却シタル後其不動産ノ分
割又ハ競賣アリタルトキハ賣主ハ買主カ受ケタル若クハ受クヘキ部分又ハ代金ニ付キ買戻ヲ爲
スコトヲ得但賣主ニ通知セズシテ爲シタル分割及ヒ競賣ハ之ヲ以テ賣主ニ對抗スルコトヲ得ス
第五百八十五條 前條ノ場合ニ於テ買主カ不動産ノ競落人ト爲リタルトキハ賣主ハ競賣ノ代金及
ヒ第五百八十三條ニ掲ケタル費用ヲ拂ヒテ買戻ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ賣主ハ其不動産
ノ全部ノ所有權ヲ取得ス
他ノ共有者ヨリ分割ヲ請求シタルニ因リ買主カ競落人ト爲リタルトキハ賣主ハ其持分ノミニ付
キ買戻ヲ爲スコトヲ得ス

第四節 交換

第五百八十六條 交換ハ當事者カ互ニ金錢ノ所有權ニ非サル財産權ヲ移轉スルコトヲ約スルニ因
リテ其效力ヲ生ス
當事者ノ一方カ他ノ權利ト共ニ金錢ノ所有權ヲ移轉スルコトヲ約シタルトキハ其金錢ニ付テハ
賣買ノ代金ニ關スル規定ヲ準用ス

第五節 消費貸借

第五百八十七條 消費貸借ハ當事者ノ一方カ種類、品等及ヒ數量ノ同シキ物ヲ以テ返還ヲ爲スコ
トヲ約シテ相手方ヨリ金錢其他ノ物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百八十八條 消費貸借ニ因ラズシテ金錢其他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ者アル場合ニ於テ當
事者カ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ消費貸借ハ之ニ因リテ成立シタ
ルモノト看做ス

第五百八十九條 消費貸借ノ豫約ハ爾後當事者ノ一方カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其效力ヲ失フ

第五百九十條 利息附ノ消費貸借ニ於テ物ニ隠レタル瑕疵アリタルトキハ貸主ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコトヲ要ス但損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

無利息ノ消費貸借ニ於テハ借主ハ瑕疵アル物ノ價額ヲ返還スルコトヲ得但貸主カ其瑕疵ヲ知リテ之ヲ借主ニ告ケザリシトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五百九十一條 當事者カ返還ノ時期ヲ定メザリシトキハ貸主ハ相當ノ期間ヲ定メテ返還ノ催告ヲ爲スコトヲ得

借主ハ何時ニテモ返還ヲ爲スコトヲ得

第五百九十二條 借主カ第五百八十七條ノ規定ニ依リテ返還ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ其時ニ於ケル物ノ價格ヲ償還スルコトヲ要ス但第四百二條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第六節 使用貸借

第五百九十三條 使用貸借ハ當事者ノ一方カ無償ニテ使用及ヒ收益ヲ爲シタル後返還ヲ爲スコトヲ約シテ相手方ヨリ或物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百九十四條 借主ハ契約又ハ其目的物ノ性質ニ因リテ定マリタル用方ニ從ヒ其物ノ使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ要ス

借主ハ貸主ノ承諾アルニ非サレバ第三者ヲシテ借用物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得ス

借主カ前二項ノ規定ニ反スル使用又ハ收益ヲ爲シタルトキハ貸主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百九十五條 借主ハ借用物ノ通常ノ必要費ヲ負擔ス

此他ノ費用ニ付テハ第五百八十三條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五百九十六條 第五百五十一條ノ規定ハ使用貸借ニ之ヲ準用ス

第五百九十七條 借主ハ契約ニ定メタル時期ニ於テ借用物ノ返還ヲ爲スコトヲ要ス

當事者カ返還ノ時期ヲ定メザリシトキハ借主ハ契約ニ定メタル目的ニ從ヒ使用及ヒ收益ヲ終ハシタル時ニ於テ返還ヲ爲スコトヲ要ス但其以前ト雖モ使用及ヒ收益ヲ爲スニ足ルヘキ期間ヲ經過シタルトキハ貸主ハ直チニ返還ヲ請求スルコトヲ得

當事者カ返還ノ時期又ハ使用及ヒ收益ノ目的ヲ定メザリシトキハ貸主ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルコトヲ得

第五百九十八條 借主ハ借用物ヲ原狀ニ復シテ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコトヲ得

第五百九十九條 使用貸借ハ借主ノ死亡ニ因リテ其效力ヲ失フ

第六百條 契約ノ本旨ニ反スル使用又ハ收益ニ因リテ生シタル損害ノ賠償及ヒ借主カ出シタル費用ノ償還ハ貸主カ返還ヲ受ケタル時ヨリ一年内ニ之ヲ請求スルコトヲ要ス

第七節 貸貸借

第一款 總則

第六百一條 貸貸借ハ當事者ノ一方カ相手方ニ或物ノ使用及ヒ收益ヲ爲サシムルコトヲ約シ相手方カ之ニ其貸金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百二條 處分ノ能力又ハ權限ヲ有セサル者カ貸貸借ヲ爲ス場合ニ於テハ其貸貸借ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 樹木ノ栽植又ハ伐採ヲ目的トスル山林ノ貸貸借ハ十年
- 二 其他ノ土地ノ貸貸借ハ五年
- 三 建物ノ貸貸借ハ三年
- 四 動産ノ貸貸借ハ六個月

第六百三條 前條ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間満了前土地ニ付テハ一年內建物ニ付テハ三個月內動産ニ付テハ一個月內ニ其更新ヲ爲スコトヲ要ス

第六百四條 貸貸借ノ存續期間ハ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ貸貸借ヲ爲シタルトキハ其期間ハ之ヲ二十年ニ短縮ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其更新ノ時ヨリ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二款 貸貸借ノ效力
第六百五條 不動産ノ貸貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其不動産ニ付物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ失ス

第六百六條 貸貸人ハ貸貸物ノ使用及ヒ收益ニ必要ナル修繕ヲ爲ス義務ヲ負フ
第六百七條 貸貸人ハ貸借人ノ意志ニ反シテ保存行爲ヲ爲サント欲スル場合ニ於テ之カ爲メ貸借人カ貸借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ貸借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百八條 貸貸人カ貸借物ニ付キ貸貸人ノ負擔ニ屬スル必要費ヲ出タシタルトキハ貸貸人ニ對シテ直チニ其償還ヲ請求スルコトヲ得

貸借人カ有益費ヲ出タシタルトキハ貸貸人ハ貸借終了ノ時ニ於テ第九十六條第二項ノ規定ニ從ヒ其償還ヲ爲スコトヲ要ス但裁判所ハ貸貸人ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第六百九條 收益ヲ目的トスル土地ノ貸借人カ不可抗力ニ因リ借賃ヨリ少キ收益ヲ得タルトキハ其收益ノ額ニ至ルマテ借賃ノ減額ヲ請求スルコトヲ得但宅地ノ貸貸借ニ付テハ此限ニ在ラス

第六百十條 前條ノ場合ニ於テ借賃人カ不可抗力ニ因リ引續キ二年以上借賃ヨリ少キ收益ヲ得タルトキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十一條 貸借物ノ一部カ借借人ノ過失ニ因ラズシテ滅失シタルトキハ借借人ハ其滅失シタル部分ノ割合ニ應ジテ借賃ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミニテハ借借人カ借賃ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ借借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十二條 貸借人ハ貸貸人ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ讓渡シ又ハ借借物ヲ轉貸スルコトヲ得ス

貸借人カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ借借物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシメタルトキハ貸貸人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十三條 貸借人カ適法ニ借借物ヲ轉貸シタルトキハ轉借人ハ貸貸人ニ對シテ直接ニ義務ヲ負フ此場合ニ於テハ借賃ノ前拂ヲ以テ貸貸人ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ貸貸人カ借借人ニ對シテ其權利ヲ行使スルコトヲ妨ケス

第六百十四條 借賃ハ動産、建物及ヒ宅地ニ付テハ毎月末ニ其他ノ土地ニ付テハ毎年末ニ之ヲ拂フコトヲ要ス但收穫季節アルモノニ付テハ其季節後遲滞テ之ヲ拂フコトヲ要ス

第六百十五條 賃借物カ修繕ヲ要シ又ハ賃借物ニ付キ權利ヲ主張スル者アルトキハ賃借人ハ遲滞
ナク之ヲ賃借人ニ通知スルコトヲ要ス但賃借人カ既ニ之ヲ知レルトキハ此限ニ在ラス
第六百十六條 第五百九十四條第一項、第五百九十七條第一項及ヒ第五百九十八條ノ規定ハ賃借
借ニ之ヲ準用ス

第三款 賃借借ノ終了

第六百十七條 當事者カ賃借借ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲
スコトヲ得此場合ニ於テハ賃借借ハ解約申入ノ後左ノ期間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス
一 土地ニ付テハ一年
二 建物ニ付テハ三個月
三 貸席及ヒ動産ニ付テハ一日
收穫季節アル土地ノ賃借借ニ付テハ其季節後次ノ耕作ニ著手スル前ニ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ
要ス

第六百十八條 當事者カ賃借借ノ期間ヲ定メタルモ其一方又ハ各自カ其期間内ニ解約ヲ爲ス權利
ヲ留保シタルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六百十九條 賃借借ノ期間滿了ノ後賃借人カ賃借物ノ使用又ハ收益ヲ繼續スル場合ニ於テ賃借
人カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前賃借借ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ賃借借ヲ爲シタルモノ
ト推定ス但各當事者ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得
前賃借借ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ノ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス但敷金ハ此
限ニ在ラス

第六百二十條 賃借借ヲ解除シタル場合ニ於テハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス但當事者
ノ一方ニ過失アリタルトキハ之ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第六百二十一條 賃借人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ賃借借ニ期間ノ定アルトキト雖モ賃借人
又ハ破産管財人ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當
事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百二十二條 第六百條ノ規定ハ賃借借ニ之ヲ準用ス

第八節 雇傭

第六百二十三條 雇傭ハ當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ勞務ニ服スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其
報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百二十四條 勞務者ハ其約シタル勞務ヲ終ハリタル後ニ非ラサレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得
ス

期間ヲ以テ定メタル報酬ハ其期間ノ經過シタル後之ヲ請求スルコトヲ得

第六百二十五條 使用者ハ勞務者ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ第三者ニ讓渡スコトヲ得ス

勞務者ハ使用者ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ自己ニ代ハリテ勞務ニ服セシムルコトヲ得
ス

勞務者カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ勞務ニ服セシメタルトキハ使用者ハ契約ノ解除ヲ爲ス
コトヲ得

第六百二十六條 雇傭ノ期間カ五年ヲ超過シ又ハ當事者ノ一方若クハ第三者ノ終身間繼續スヘキ
トキハ當事者ノ一方ハ五年ヲ經過シタル後何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但此期間ハ商

工業見習者ノ雇傭ニ付テハ之ヲ十年トス

前項ノ規定ニ依リテ契約ノ解除ヲ爲サント欲スルトキハ三ヶ月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十七條 當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ雇傭ハ解約申入ノ後三週間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ解約ノ申入ハ次期以後ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但其申入ヲ當期ノ前半ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

六ヶ月上ノ期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ申入ハ三ヶ月前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十八條 當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メタルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各

當事者ハ直チニ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其事由カ當事者ノ一方ノ過失ニ因リテ生シタルトキハ相手方ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第六百二十九條 雇傭ノ期間滿了ノ後勞務者カ引續キ其勞務ニ服スル場合ニ於テ使用者カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前雇傭ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ雇傭ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

前雇傭ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス但身元保證金ハ此限ニ在ラス

第六百三十條 第六百二十條ノ規定ハ雇傭ニ之ヲ準用ス

第六百三十一條 使用者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ雇傭ニ期間ノ定アルトキト雖モ勞務者又ハ破産管財人ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第九節 請負

事者ハ相手方ニ對シテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百三十二條 請負ハ當事者ノ一方カ或モ仕事ヲ完成スルコトヲ約シ相手方カ其仕事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百三十三條 報酬ハ仕事ノ目的物ノ引渡ト同時ニ之ヲ與フルコトヲ要ス但物ノ引渡ヲ要セザルトキハ第六百二十四條第一項ノ規定ヲ準用ス

第六百三十四條 仕事ノ目的物ニ瑕疵アルトキハ注文者ハ請負人ニ對シ相當ノ期限ヲ定メテ其瑕疵ノ修補ヲ請求スルコトヲ得但瑕疵カ重要ナラサル場合ニ於テ其修補カ過分ノ費用ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

注文者ハ瑕疵ノ修補ニ代ヘ又ハ其修補ト共ニ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ第五百三十三條ノ規定ヲ準用ス

第六百三十五條 仕事ノ目的物ニ瑕疵アリテ之カ爲メニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハザルトキハ注文者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但建物其他土地ノ工作物ニ付テハ此限ニ在ラス

第六百三十六條 前二條ノ規定ハ仕事ノ目的物ノ瑕疵カ注文者ヨリ供シタル材料ノ性質又ハ注文者ノ與ヘタル指圖ニ因リテ生シタルトキハ之ヲ適用セス但請負人カ其材料又ハ指圖ノ不適當ナルコトヲ知リテ之ヲ告ケサリシトキハ此限ニ在ラス

第六百三十七條 前三條ニ定メタル瑕疵修補又ハ損害賠償ノ請求及ヒ契約ノ解除ハ仕事ノ目的物ヲ引渡シタル時ヨリ一年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

仕事ノ目的物ノ引渡ヲ要セサル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ仕事終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六百三十八條 土地ノ工作物ノ請負人ハ其工作物又ハ地盤ノ瑕疵ニ付テハ引渡ノ後五年間其擔保ノ責ニ任ス但此期間ハ石造、土造、煉瓦造又ハ金屬造ノ工作物ニ付テハ之ヲ十年トス
工作物カ前項ノ瑕疵ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ注文者ハ其滅失又ハ毀損ノ時ヨリ一年内ニ第六百三十四條ノ權利ヲ行使スルコトヲ要ス

第六百三十九條 第六百三十七條及ヒ前條第一項ノ期間ハ普通ノ時効期間内ニ限り契約ヲ以テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第六百四十條 請負人ハ第六百三十四條及ヒ第六百三十五條ニ定メタル擔保ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ特約シタルトキト雖モ其知リテ告ケサリシ事實ニ付テハ其責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六百四十一條 請負人カ仕事ヲ完成セサル間ハ注文者ハ何時ニテモ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百四十二條 注文者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ請負人又ハ破産管財人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ請負人ハ其既ニ爲シタル仕事ノ報酬及ヒ報酬中ニ包含セサル費用ニ付キ財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十節 委任

第六百四十三條 委任ハ當事者ノ一方カ法律行為ヲ爲スコトヲ相手方ニ委託シ相手方カ之ヲ承諾スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百四十四條 受任者ハ委任ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

務ヲ負フ

第六百四十五條 受任者ハ委任者ノ請求アルトキハ何時ニテモ委任事務處理ノ狀況ヲ報告シ又委任終了ノ後ハ遲滞ナク其顛末ヲ報告スルコトヲ要ス

第六百四十六條 受任者ハ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル金錢其他ノ物ヲ委任者ニ引渡スコトヲ要ス其收取シタル果實亦同シ

受任者カ委任者ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ委任者ニ移轉スルコトヲ要ス
第六百四十七條 受任者カ委任者ニ引渡スヘキ金額又ハ其利益ノ爲メニ用ユヘキ金額ヲ自己ノ爲メニ消費シタルトキハ其消費シタル日以後ノ利息ヲ拂フコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第六百四十八條 受任者ハ特約アルニ非サレハ委任者ニ對シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

受任者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ委任履行ノ後ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但期間ヲ以テ報酬ヲ定メタルトキハ第六百二十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

委任カ受任者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ其履行ノ中途ニ於テ終了シタルトキハ受任者ハ其既ニ爲シタル履行ノ割合ニ應ジテ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第六百四十九條 委任事務ヲ處理スルニ付キ費用ヲ要スルトキハ委任者ハ受任者ノ請求ニ因リ其前拂ヲ爲スコトヲ要ス

第六百五十條 受任者カ委任事務ヲ處理スルニ必要ト認ムヘキ費用ヲ出ダシタルトキハ委任者ニ對シテ其費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

受任者カ委任事務ヲ處理スルニ必要ト認ムヘキ債務ヲ負擔シタルトキハ委任者ヲシテ自己ニ代

ハリテ其辨濟ヲ爲サシメ又其債務カ辨濟期ニ在ラサルトキハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

受任者カ委任事務ヲ處理スル爲メ自己ニ過失ナクシテ損害ヲ受ケタルトキハ委任者ニ對シテ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

第六百五十一條 委任ハ各當事者ニ於テ何時ニテモ之ヲ解除スルコトヲ得

當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ不利ナル時期ニ於テ委任ヲ解除シタルトキハ其損害ヲ賠償スルコトヲ要ス但已ムコトヲ得サル事由アリタルトキハ此限ニ在ラス

第六百五十二條 第六百二十條ノ規定ハ委任ニ之ヲ準用ス

第六百五十三條 委任ハ委任者又ハ受任者ノ死亡又ハ破産ニ因リテ終了ス受任者カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ亦同シ

第六百五十四條 委任終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ受任者、其相續人又ハ法定代理人ハ委任者、其相續人又ハ法定代理人カ委任事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ルマテ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス

第六百五十五條 委任終了ノ事由ハ其委任者ニ出テタルト受任者ニ出テタルト相問ハス之ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ之ヲ知りタルトキニ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百五十六條 本節ノ規定ハ法律行爲ニ非サル事務ノ委託ニ之ヲ準用ス

第十一節 寄託

第六百五十七條 寄託ハ當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ保管ヲ爲スコトヲ約シテ或物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百五十八條 受寄者ハ寄託者ノ承諾アルニ非サレハ受寄物ヲ使用シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得ス

受寄者カ第三者ヲシテ受寄物ヲ保管セシムルコトヲ得ル場合ニ於テハ第五百五條及ヒ第七百七條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百五十九條 無報酬ニテ寄託ヲ受ケタル者ハ受寄物ノ保管ニ付キ自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ爲ス責ニ任ス

第六百六十條 寄託物ニ付キ權利ヲ主張スル第三者ハ受寄者ニ對シテ訴ヲ提起シ又ハ差押ヲ爲シタルトキハ受寄者ハ遲滞ナク其事實ヲ寄託者ニ通知スルコトヲ要ス

第六百六十一條 寄託者ハ寄託物ノ性質又ハ瑕疵ヨリ生シタル損害ヲ受寄者ニ賠償スルコトヲ要ス但寄託者カ過失ナクシテ其性質若クハ瑕疵ヲ知ラザリシトキ又ハ受寄者カ之ヲ知りタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十二條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メタルトキト雖モ寄託者ハ何時ニテモ其返還ヲ請求スルコトヲ得

第六百六十三條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メザリシトキハ受寄者ハ何時ニテモ其返還ヲ爲スコトヲ得

返還時期ノ定アルトキハ受寄者ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ其期限前ニ返還ヲ爲スコトヲ得ス

第六百六十四條 寄託物ノ返還ハ其保管ヲ爲スヘキ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但受寄者カ正當ノ事由ニ因リテ其物ヲ轉置シタルトキハ其現在ノ場所ニ於テ之ヲ返還スルコトヲ得

第六百六十五條 第六百四十六條乃至第六百四十九條及第六百五十條第一項、第二項ノ規定ハ
寄託ニ之ヲ準用ス

第六百六十六條 受寄者カ契約ニ依リ受寄物ヲ消費スルコトヲ得ル場合ニ於テハ消費貸借ニ關ス
ル規定ヲ準用ス但契約ニ返還ノ時期ヲ定メザリシトキハ寄託者ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルコ
トヲ得

第十二節 組合

第六百六十七條 組合契約ハ各當事者カ出資ヲ爲シテ共同ノ事業ヲ營ムコトヲ約スルニ因リテ其
效力ヲ生ス

出資ハ勞務ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第六百六十八條 各組合員ノ出資其他ノ組合財産ハ總組合員ノ共有ニ屬ス

第六百六十九條 金錢ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ組合員カ其出資ヲ爲スコトヲ怠リ
タルトキハ其利息ヲ拂フ外尙ホ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第六百七十條 組合ノ業務執行ハ組合員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

組合契約ヲ以テ業務ノ執行ヲ委任シタル者數人アルトキハ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス

組合ノ常務ハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ各組合員又ハ各業務執行者之ヲ專行スルコトヲ得但其結
了前ニ他ノ組合員又ハ業務執行者カ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第六百七十一條 組合ノ業務ヲ執行スル組合員ハ第六百四十四條乃至第六百五十條ノ規定ヲ準
用ス

第六百七十二條 組合契約ヲ以テ一人又ハ數人ノ組合員ニ業務ノ執行ヲ委任シタルトキハ其組合

員ハ正當ノ事由アルニ非サレハ辭任ヲ爲スコトヲ得又解任セラレルコトナシ

正當ノ事由ニ因リテ解任ヲ爲スニハ他ノ組合員ノ一致アルコトヲ要ス

第六百七十三條 各組合員ハ組合ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セサルトキト雖モ其業務及ヒ組合財

産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第六百七十四條 當事者カ損益分配ノ割合ヲ定メザリシトキハ其割合ハ各組合員ノ出資ノ價額ニ

應シテ之ヲ定ム

利益又ハ損失ニ付テノミ分配ノ割合ヲ定メタルトキハ其割合ハ利益及ヒ損失ニ共通ナルモノト

推定ス

第六百七十五條 組合ノ債權者ハ其債權發生ノ當時組合員ノ損失分擔ノ割合ヲ知ラザリシトキハ

各組合員ニ對シ均一部分ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得

第六百七十六條 組合員カ組合財産ニ付キ其持分ヲ處分シタルトキハ其處分ハ之ヲ以テ組合及ヒ

組合ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

組合員ハ清算前ニ組合財産ノ分割ヲ求ムルコトヲ得ス

第六百七十七條 組合ノ債務者ハ其債務ト組合員ニ對スル債權トヲ相殺スルコトヲ得ス

第六百七十八條 組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メザリシトキ又ハ或組合員ノ終身間組合ノ

存續スベキコトヲ定メタルトキハ各組合員ハ何時ニテモ脫退ヲ爲スコトヲ得但已ムコトヲ得サ

ル事由アル場合ヲ除外組合ノ爲メ不利ナル時期ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

組合ノ存續期間ヲ定メタルトキト雖モ各組合員ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ脫退ヲ爲ス
コトヲ得

第六百七十九條 前條ニ掲ケタル場合ノ外組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス

一、死亡

二、破産

三、禁治産

四、除名

第六百八十條 組合員ノ除名ハ正當ノ事由アル場合ニ限リ他ノ組合員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名シタル組合員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百八十一條 脱退シタル組合員ト他ノ組合員トノ間ノ計算ハ脱退ノ當時ニ於ケル組合財産ノ狀況ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

脱退シタル組合員ノ持分ハ其出資ノ種類如何ヲ問ハズ金錢ヲ以テ之ヲ拂戻スコトヲ得脱退ノ當時ニ於テ未タ結了セサル事項ニ附テハ其結了後ニ計算ヲ爲スコトヲ得

第六百八十二條 組合ハ其目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能ニ因リテ解散ス

第六百八十三條 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各組合員ハ組合ノ解散ヲ請求スルコトヲ得

第六百八十四條 第六百二十條ノ規定ハ組合契約ニ之ヲ準用ス

第六百八十五條 組合力解散シタルトキハ清算ハ總組合員共同ニテ又ハ其選任シタル者ニ於テ之ヲ爲ス

清算人ノ選任ハ總組合員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第六百八十六條 清算人數人アルトキハ第六百七十條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十七條 組合契約ヲ以テ組合員中ヨリ清算人ヲ選任シタルトキハ第六百七十二條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十八條 清算人ノ職務及ヒ權限ニ付テハ第七十八條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十九條 終身定期金契約ハ當事者ノ一方カ自己、相手方又ハ第三者ノ死亡ニ至ルマテ定期ニ金錢其他ノ物ヲ相手方又ハ第三者ニ給付スルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百九十條 終身定期金ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第六百九十一條 定期金債務者カ定期金ノ元本ヲ受ケタル場合ニ於テ其定期金ノ給附ヲ怠リ又ハ其他ノ義務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ元本ノ返還ヲ請求スルコトヲ得但既ニ受取リタル定期金ノ中ヨリ其元本ノ利息ヲ控除シタル殘額ヲ債務者ニ返還スルコトヲ要ス

第六百九十二條 第五百三十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百九十三條 死亡カ定期金債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ裁判所ハ債權者又ハ其相續人ノ請求ニ因リ相當ノ期間債權ノ存續スルコトヲ宣告スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第六百九十一條ニ定メタル權利ノ行使ヲ妨ケス

第六百九十四條 本節ノ規定ハ終身定期金ノ遺贈ニ之ヲ準用ス

第六百九十五條 和解ハ當事者カ互ニ讓歩ヲ爲シテ其間ニ存スル爭ヲ止ムルコトヲ約スルニ因リ

第十四節 和解

第六百九十五條 和解ハ當事者カ互ニ讓歩ヲ爲シテ其間ニ存スル爭ヲ止ムルコトヲ約スルニ因リ

テ其效力ヲ生ス

第六百九十六條 當事者ノ一方カ和解ニ依リテ争ノ目的タル權利ヲ有スルモノト認メラレ又ハ相手方カ之ヲ有セサルモノト認メラレタル場合ニ於テ其者カ從來此權利ヲ有セサリシ確證又ハ相手方カ之ヲ有セシ確證出テタルトキハ其權利ハ和解ニ因リテ其者ニ移轉シ又ハ消滅シタルモノトス

第三章 事務管理

第六百九十七條 義務ナクシテ他人ノ爲メニ事務ノ管理ヲ始メタル者ハ其事務ノ性質ニ從ヒ最モ本人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其管理ヲ爲スコトヲ要ス

管理者カ本人ノ意思ヲ知りタルトキ又ハ之ヲ推知スルコトヲ得ヘキトキハ其意思ニ從ヒテ管理ヲ爲スコトヲ要ス

第六百九十八條 管理者カ本人ノ身體、名譽又ハ財産ニ對スル急迫ノ危害ヲ免レシムル爲メニ其事務ノ管理ヲ爲シタルトキハ惡意又ハ重大ナル過失アルニ非サレハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責任セズ

第六百九十九條 管理者ハ其管理ヲ始メタルコトヲ遲滯ナク本人ニ通知スルコトヲ要ス但本人カ既ニ之ヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第七百條 管理者ハ本人、其相續人又ハ法定代理人カ管理ヲナスコトヲ得ルニ至ルマテ其管理ヲ繼續スルコトヲ要ス但其管理ノ繼續カ本人ノ意思ニ反シ又ハ本人ノ爲メニ不利ナルコト明カナルトキハ此限ニ在ラス

第七百一條 第六百四十五條乃至第六百四十七條ノ規定ハ事務管理ニ之ヲ準用ス

第七百二條 管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル費用ヲ出ダシタルトキハ本人ニ對シテ其償還ヲ請求スルコトヲ得

管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル債務ヲ負擔シタルトキハ第六百五十條第二項ノ規定ヲ準用ス

管理者カ本人ノ意思ニ反シテ管理ヲ爲シタルトキハ本人カ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノ以前

二項ノ規定ヲ適用ス

第四章 不當利得

第七百三條 法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産又ハ勞務ニ因リ利益ヲ受ケ之カ爲メニ他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第七百四條 惡意ノ受益者ハ其受ケタル利益ニ利息ヲ附シテ之ヲ返還スルコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責任ス

第七百五條 債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其當時債務ノ存在セサルコトヲ知りタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百六條 債務者カ辨濟期ニ在ラサル債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但債務者カ錯誤ニ因リテ其給付ヲ爲シタルトキハ債權者ハ之ニ因リテ得タル利益ヲ返還スルコトヲ要ス

第七百七條 債務者ニ非サル者カ錯誤ニ因リテ債權ノ辨濟ヲ爲シタル場合ニ於テ債權者カ善意ニテ證書ヲ毀滅シ、擔保ヲ拋棄シ又ハ時効ニ因リテ其債權ヲ失ヒタルトキハ辨濟者ハ返還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ辨濟者ヨリ債務者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第七百八條 不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得
ス但不法ノ原因カ受益者ニ付テノミ存シタルトキハ此限ニ在ラス

第五章 不法行爲
第七百九條 故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償
スル責ニ任ス

第七百十條 他人ノ身體、自由又ハ名譽ヲ害シタル場合ト財産權ヲ害シタル場合トヲ問ハス前條
ノ規定ニ依リテ損害賠償ノ責ニ任スル者ハ財産以外ノ損害ニ對シテモ其賠償ヲ爲スコトヲ要ス
第七百十一條 他人ノ生命ヲ害シタル者ハ被害者ノ父母、配偶者及ヒ子ニ對シテハ其財産權ヲ害
セラレザリシ場合ニ於テモ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十二條 未成年者カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其行爲ノ責任ヲ辨識スルニ足ルヘキ
知能ヲ具ヘザリシトキハ其行爲ニ付キ賠償ノ責ニ任セス

第七百十三條 心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ賠償ノ責ニ任セス但故意又ハ過失ニ因
リテ一時ノ心神喪失ヲ招キタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十四條 前二條ノ規定ニ依リ無能力者ニ責任ナキ場合ニ於テ之ヲ監督スヘキ法定ノ義務ア
ル者ハ其無能力者カ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但監督義務者カ其義務ヲ怠ラサ
ザシトキハ此限ニ在ラス

監督義務者ニ代ハリテ無能力者ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス
第七百十五條 或事業ノ爲メニ他人ヲ使用スル者ハ被用者カ其事業ノ執行ニ付キ第三者ニ加ヘタ
ル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但使用者カ被用者ノ選任及ヒ其業ノ監督者ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シ

タルトキ又ハ相當ノ注意ヲ爲スモ損害カ生スヘカリシトキハ此限ニ在ラス
使用者ニ代ハリテ事業ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス
前二項ノ規定ハ使用者又ハ監督者ヨリ被用者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第七百十六條 注文者ハ請負人カ其仕事ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス但注
文又ハ指圖ニ付キ注文者ニ過失アリタルトキハ此限ニアラス

第七百十七條 土地ノ工作物ノ設置又ハ保存ニ瑕疵アルニ因リテ他人ニ損害ヲ生シタルトキハ其
工作物ノ占有者ハ被害者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス但占有者カ損害ノ發生ヲ防止スルニ必要
ナル注意ヲ爲シタルトキハ其損害ハ所有者之ヲ賠償スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ竹木ノ栽植又ハ支持ニ瑕疵アル場合ニ之ヲ準用ス
前二項ノ場合ニ於テ他ニ損害ノ原因ニ付キ其責ニ任スヘキ者アルトキハ占有者又ハ所有者ハ之
ニ對シテ求償權ヲ行使スルコトヲ得

第七百十八條 動物ノ占有者ハ其動物カ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但動物ノ種類及
ヒ性質ニ從ヒ相當ノ注意ヲ以テ其保管ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

占有者ニ代ハリテ動物ヲ保管スル者モ亦前項ノ責ニ任ス
第七百十九條 數人カ共同ノ不法行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ各自連帶ニテ其賠償
ノ責ニ任ス共同行爲者中ノ孰レカ其損害ヲ加ヘタルカヲ知ルコト能ハサルトキ亦同シ

教唆者及ヒ幫助者ハ之ヲ共同行爲者ト看做ス
第七百二十條 他人ノ不法行爲ニ對シ自己又ハ第三者ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得スシテ
加害行爲ヲ爲シタル者ハ損害賠償ノ責ニ任セス但被害者ヨリ不法行爲ヲ爲シタル者ニ對スル損